

釧路労災病院 2019年 年報

やちぼうず 第24号



目次

I. 事業報告	3	III. 委員会報告	55
(1) 巻頭言	5	(1) 委員会一覧	57
(2) 理念・方針・患者さんの権利、責務	6	(2) 委員会活動報告	
(3) 病院概要	7	・倫理委員会	58
(4) 医療機関の承認・指定状況	8	・地域医療支援病院運営委員会	59
(5) 医科・歯科点数表	9	・院内研修委員会	60
II. 診療科及び部門報告	13	・院内感染対策委員会	61
(1) 診療部門		・化学療法委員会	62
・内科	15	・臨床研修管理委員会	63
・精神科	18	・医師研修プログラム委員会	64
・神経内科	19	・薬事／臨床研究審査委員会	66
・循環器内科	20	・DPC／クリニカルパス委員会	70
・緩和ケア内科	21	・地域医療連携総合センター運営委員会	72
・外科	22	・HIV運営委員会	74
・整形外科	24	・診療医事業務／査定減対策委員会	75
・脳神経外科	27	・診療情報／個人情報管理委員会	76
・泌尿器科	29	・医療安全推進委員会	78
・眼科	31	・医療情報システム委員会	80
・耳鼻咽喉科	32	・機器等整備委員会	82
・放射線科	34	・救急診療運営委員会	84
・麻酔科	35	・緩和医療委員会	86
・歯科口腔外科	36	・臓器提供委員会	89
・健康診断部	38	・禁煙実行委員会	90
・栄養管理部	39	・がん診療連携拠点病院運営委員会	91
(2) 中央診療部門		・診療材料等検討委員会	92
・中央リハビリテーション部	40	・血液浄化室安全管理委員会	93
・中央放射線部	43	・在宅医療運営委員会	94
・中央検査部	45	・公舎管理委員会	95
(3) 診療支援部		・栄養管理／NST委員会	96
・臨床工学部	47	・図書委員会	98
(4) 薬剤部	49	・脳死判定委員会	99
(5) 看護部	51	・省エネルギー推進委員会	100
		・防災委員会	101
		・手術部運営委員会	102
		・輸血療法委員会	103
		・医療ガス安全管理委員会	104
		・褥瘡対策委員会	105
		・診療用放射線／放射線安全運営委員会	107
		・中央検査部管理運営委員会	108
		・保育委員会	110
		・健診業務体制整備委員会	111
		・広報編集委員会	112
		・病院誌「やちぼうず」編集委員会	114
		・衛生委員会	115

• 患者サービス向上委員会	117
• 病院機能評価委員会	119
• ドクターズクランク運営委員会	120
• 勤務医／看護職員等負担軽減対策委員会	121
• 医学系研究利益相反管理委員会	122
IV. 医療統計	123
患者数の推移（入院・外来）	125
診療科別入院患者数の推移	126
診療科別外来患者数（令和元年度）	127
診療科別入院単価の推移	128
診療科別外来単価の推移	128
紹介率・逆紹介率の推移	129
病床利用率の推移	129
平均在院日数の推移	130
時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移	131
救急車受入件数（総数と1日平均）	132
手術件数の推移（手術室内）	132
全身麻酔件数の推移	133
化学療法件数の推移（入院・外来）	133
透析件数の推移（入院・外来）	134
内視鏡件数の推移（上部・下部）	134
放射線治療件数の推移	135
解剖件数の推移	135
2019年度後発医薬品指数	136
D P C 14桁 診断群分類上位頻度表(全科共通)	136
D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表	137
K c o d e 診療科別上位頻度表	140
V. 講演会等活動実績報告	143
学術講演会	145
学術研究会	147
VI. 業績目録	153
原著・論文	155
学会報告	158
写真で見る“ろうさいの一年”	166
編集後記	168

I. 事業報告

- (1) 巻頭言……………5
- (2) 理念・方針・患者さんの権利、責務……………6
- (3) 病院概要……………7
- (4) 医療機関の承認・指定状況……………8
- (5) 医科・歯科点数表……………9



巻頭言



独立行政法人 労働者健康安全機構
釧路労災病院 院長

高橋 弘 昌

本誌をご覧の皆様、こんにちは。

私が平成31年4月1日に病院長に就任してから、1年余りが過ぎました。

同年5月1日には徳仁天皇が新天皇として即位され、令和新時代が始まりました。7月1日には、商業捕鯨が31年ぶりに再開され、地元釧路港から近海でのクジラ漁を行う船が出航し、夕方までにミンククジラを捕獲して港に帰りました。今後の釧路経済の回復のきっかけとなることが大いに期待されています。

9月20日から11月2日までラグビーワールドカップ2019日本大会が開催され、日本はベストエイトに入り、「One team」の言葉のもとに日本国民が丸となり、大いに盛り上がりました。10月1日には、消費税が10%に引き上げられ、10月22日には、新天皇の即位礼正殿の儀が行われ、「祝日」となりました。

12月以降、中華人民共和国武漢市において新型コロナウイルス関連肺炎の発生が報告され、中国を中心に世界各国からの発生が報告され始めました。わが国では、令和2年1月16日国内初の新型コロナウイルス肺炎患者が確認されました。1月28日には、道内初の感染者、2月14日には道民初の感染者、2月23日には釧路総合振興局内発の感染者が発生しました。2月27日には道内感染第1波のピークで1日最多15人の感染が発表され、2月28日には北海道独自の「非常事態宣言」が出されました。

2月26日には当院で初めての感染者（道内35例目、釧路総合振興局内2例目）が確認されました。当初は、国内初の院内感染との疑いもたれましたが、接触者および医療スタッフ計110名はPCR検査陰性であり、院内感染の可能性は否定されました。

3月24日新型コロナウイルスの感染の影響から東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期が決定、3月30日には2021年夏に延期されることが決まりました。

4月7日には東京など7都府県に緊急事態宣言、4月12日には北海道と札幌市から「緊急共同宣言」、4月16日には国の緊急事態宣言が北海道を含む全国に拡大されました。4月20日には4月25日から5月6日までの休業要請が出されましたが、4月23日には道内感染第2波のピークで1日最多45人の感染が発表され、5月4日には5月末まで休業要請が延長されました。その後感染者数の減少が見られ、5月25日全国で緊急事態宣言が解除されました。

当院では2月28日に2名の感染者が発生しましたが、その後5月31日現在、当院での感染者はなく、北海道全体の累計感染者数は1091人（死亡者数86人）、釧路総合振興局内の累計感染者数は22人となっています。

新型コロナウイルス感染症に対する根本的対策であるワクチン、ウイルス治療薬の開発は、我が国を含め、多くの国々で研究開発が行われていますが、ワクチン完成は令和3年7月頃との予想もあり、今後しばらくはSocial distancing、外出自粛、マスク着用、換気などいわゆる「三つの密」防止の継続が絶対的に必要と思われます。ウイルスと共生せざるを得ない「新しい日常」に、皆様が1日でも早くお慣れになることを祈念申し上げます。

当院では、平成31年2月に前年11月からシミュレーションをしていた地域包括ケア病棟50床を正式に開設致しました。令和元年8月1日からは、小田浩之医師をお迎えして、「緩和ケア内科外来」を開設し、緩和ケア病棟設置の準備を開始しました。緩和ケア病棟開設までは、小田浩二医師、緩和ケア専従看護師を中心とした緩和ケアチームが、各病棟の緩和ケア病床にて専門的な緩和ケアを実施しています。

道内の緩和ケア病棟の設置状況は、札幌市近郊に11施設、旭川に2施設、帯広に2施設、函館に2施設、苫小牧、室蘭、洞爺、北見に各1施設の計21施設となっていますが、当院が存在する釧路・根室地域は1施設も設置されていない、いわゆる空白地帯となっています。釧路・根室地域は31万人をこえる人口を有しており、また高齢者率の高い地域でもあり、上記の札幌圏を除く各医療圏の人口と比較しても緩和ケア病棟の地域ニーズは大にあると考えられます。

「北海道医療計画（平成30～35年度版）および釧路地域推進方針」においても「人生の最終段階だけでなく、がんと診断された時から緩和ケアを行う必要がある」との課題を踏まえ、釧路管内の拠点病院に「緩和ケア病棟設置」の促進する明記されています。したがって当院では、令和3年度を目途に緩和ケア病棟を設置し、地域の医療ニーズに応えるとともに、釧路・根室地域のがん診療の先駆的役割を果たしていきたいと考えています。

今後とも地域の中核病院として更なる病院機能の充実を図り、勤労者医療はもちろんのこと、全ての地域住民を視野に、信頼され得る質の高い医療を提供する努力を続ける所存ですので、引き続き皆様の一層のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

理念・方針・患者さんの権利、責務

理 念

- ・最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

基本方針

1. 安全で質の高い医療を実践します。
2. 患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を実践します。
3. 透明性の高い医療を実践します。
4. 地域住民と勤労者の健康づくりのために、予防医療を実践します。

臨床倫理方針

1. 患者さんの人権を守ります。
2. 患者さんの自己決定権を尊重します。
3. 生命倫理に関する法律及びガイドラインを遵守して診療を行います。
4. 患者さんの信条や生命の尊厳に関する問題については審議を行い、治療方針を決定します。
5. 患者さんのプライバシーを遵守、個人情報の保護を徹底します。

患者さんの権利

1. 患者さんは、人格を尊重した良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者さんは、診療上の個人のプライバシーを守られる権利があります。
3. 患者さんは、自らの診療記録の開示を求め、情報を得る権利があります。
4. 患者さんは、自らの意思で医療に同意・選択・決定する権利があります。
5. 患者さんは、診断や治療などについて、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

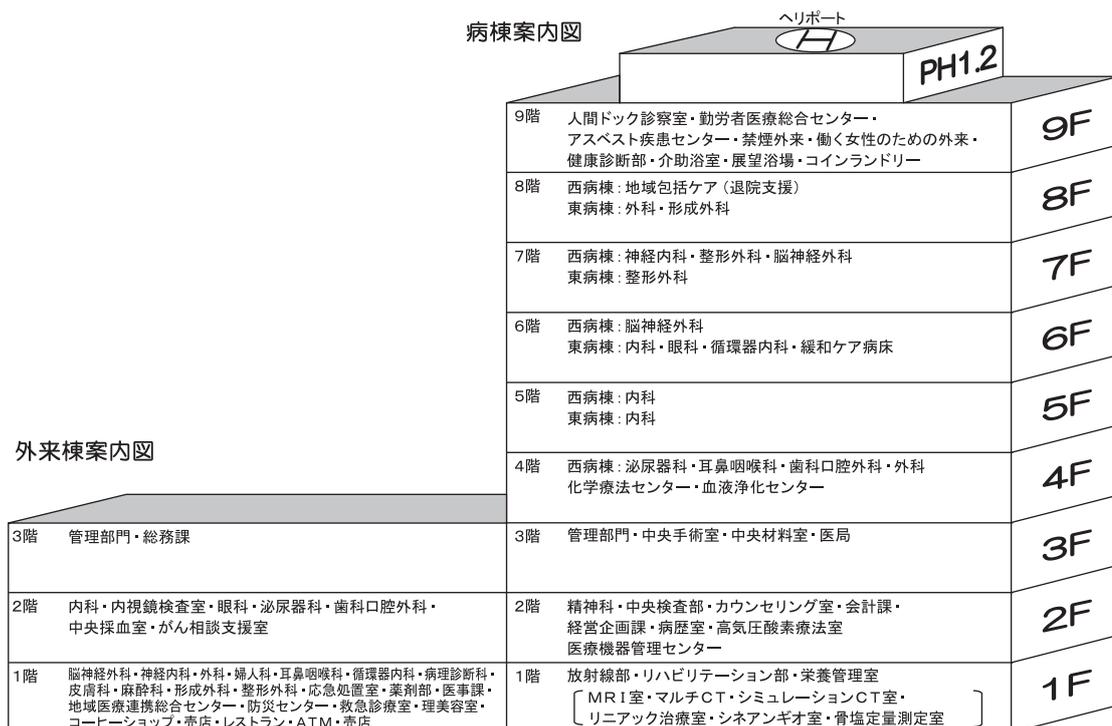
患者さんの責務

1. 患者さんには、自身に関する正確な情報の提供をお願いします。
2. 院内の取り決めを守り、他の患者さんの療養生活や病院職員の医療提供に支障を与えないようお願いします。

病院概要 (2020年4月1日現在)

開設者	独立行政法人 労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
管理者	院長 高橋 弘昌
所在地	郵便番号 085-8533 住所 北海道釧路市中園町13-23 電話番号 0154-22-7191(代) FAX番号 0154-25-7308
開院	昭和35年1月22日
病床数	450床
手術室	10室
標榜診療科 (23診療科)	内科／消化器内科／緩和ケア内科／循環器内科／神経内科／外科／消化器外科／ 整形外科／形成外科／脳神経外科／精神科／小児科／皮膚科／泌尿器科／婦人科／ 眼科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／放射線科／病理診断科／麻酔科／歯科／歯科口腔外科
院内標榜科 専門センター等	腫瘍内科／血液内科／乳腺外科／心療内科 勤労者医療総合センター／アスベスト疾患センター／消化器病センター／ 勤労者リハビリテーションセンター／勤労者メンタルヘルスセンター／ 脊椎外科センター／化学療法センター／血液浄化センター／ 地域医療連携総合センター
特殊外来	禁煙外来／ストーマケア外来／フットケア外来／睡眠時無呼吸外来／ 働く女性のための外来／セカンドオピニオン外来
主な特色	(1) 地域医療支援病院 (2) 地域がん診療連携拠点病院 (3) エイズ治療中核拠点病院 (4) 日本医療機能評価認定施設 (一般病院2 3rdG : Ver.1.1) (5) 治療就労両立支援モデル事業
その他の施設	釧路労災看護専門学校
敷地面積	39,684.57㎡
建物延面積	41,630.5㎡ 地上9階 屋上ヘリポート有

病棟案内図



医療機関の承認・指定状況

1. 病院開設承認等

区分

独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院

承認年月日

昭和35年1月22日

2. 法令による医療機関の指定等

法令等の名称

保険医療機関

(健康保険法、国民健康保険法、労災保険法)

生活保護法指定医療機関

身体障害者福祉法指定医療機関

法令等の名称

母子保護法指定医療機関

結核予防法指定医療機関

原子爆弾被爆者に係る指定医療機関

3. 政策医療等の対応状況

区分

厚生労働省指定臨床研修病院 (医科・歯科)

釧路圏二次救急医療機関

日本医療機能評価機構認定

地域がん診療連携拠点病院

区分

臓器提供施設

エイズ治療中核拠点病院

地域医療支援承認病院

メディネットたんちょうネットワーク加盟施設

4. 学会認定施設等の対応状況

区分

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本内科学会認定医制度教育関連病院

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

日本消化器病学会認定施設

日本血液学会血液研修施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本肝臓学会関連施設

日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設

日本神経学会専門医制度准教育関連施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本乳癌学会認定施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

乳房再建用エキスパンダー実施施設

乳房再建用インプラント実施施設

日本整形外科学会認定医制度研修施設

日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設

日本脳卒中学会一次脳卒中センター

日本脳卒中学会認定研修教育施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本眼科学会専門医制度研修施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

日本口腔外科学会専門医制度准研修施設

日本核医学会専門医教育病院

日本病理学会研修登録施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本病院薬剤師会H I V感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設

日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設

日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設

日臨技精度保証施設

N C D施設会員

脊椎椎髄外科専門医基幹研修施設

医科・歯科点数表

基本診療料

令和2年3月31日現在

	承認事項	項承認年月日
1	入院時食事療養（Ⅰ）・ 入院時生活療養（Ⅰ）	昭和58年6月1日
2	臨床研修病院入院診療加算 （基幹型）	平成19年4月1日
3	医療安全対策加算	平成30年4月1日
4	歯科外来診療環境体制加算	平成30年10月1日
5	がん診療連携拠点病院加算	平成21年4月1日
6	救急医療管理加算	平成22年4月1日
7	地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成31年4月1日
8	栄養サポートチーム加算	平成23年4月1日
9	患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
10	データ提出加算	平成24年10月1日
11	無菌治療室管理加算1	令和1年8月1日
12	一般病棟入院基本料 （急性期一般入院料4）	平成31年2月1日
13	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成27年4月1日
14	感染防止対策加算1	平成30年4月1日
15	療養環境加算	令和1年8月1日

特掲診療料

令和2年3月31日現在

	承認事項	項承認年月日
1	クラウン・ブリッジ維持管理料	平成29年4月1日
2	造血器腫瘍遺伝子検査	平成12年4月1日
3	高エネルギー放射線療法	平成14年4月1日
4	放射線治療専任加算	平成15年4月1日
5	直線加速器による定位放射線治療	平成16年4月1日
6	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療 管理加算及び歯科治療時医療管理料	平成18年9月1日
7	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込 術を含む。）及び脳刺激装置交換術	平成18年10月1日
8	医療機器安全管理料1	平成20年4月1日
9	医療機器安全管理料2	平成20年4月1日
10	外来化学療法加算1	平成20年4月1日

	承認事項	項承認年月日
16	診療録管理体制加算1	平成27年9月1日
17	医師事務作業補助体制加算1 （15対1補助体制加算）	平成30年4月1日
18	歯科診療特別対応連携加算	平成28年4月1日
19	地域歯科診療支援病院入院加算	平成28年4月1日
20	50対1急性期看護補助体制加算	令和2年2月1日
21	重症者等療養環境特別加算	令和1年8月1日
22	病棟薬剤業務実施加算1	平成28年9月1日
23	入退院支援加算	平成30年4月1日
24	認知症ケア加算	平成31年4月1日
25	精神疾患診療体制加算	平成29年6月1日
26	看護職員夜間配置加算	平成31年2月1日
27	地域包括ケア病棟入院料2	平成31年2月1日
28	超急性期脳卒中加算	平成30年6月1日
29	後発医薬品使用体制加算1	平成30年4月1日
30	緩和ケア診療加算	令和1年9月1日

	承認事項	項承認年月日
11	無菌製剤処理科	平成20年4月1日
12	集団コミュニケーション療法料	平成20年4月1日
13	外来放射線治療加算	平成20年4月1日
14	医科点数表第2章第10部手術の通則5（歯科点数表 第2章第9部の通則4を含む。）及び6に掲げる手術	平成20年4月1日
15	歯周組織再生誘導手術	平成29年4月1日
16	糖尿病合併症管理料	平成20年10月1日
17	ペースメーカー移植術及び ペースメーカー交換術	平成21年12月1日
18	大動脈バルーンパンピング法 （IABP法）	平成21年12月1日
19	医療機器安全管理料（歯科）	平成22年2月1日
20	検体検査管理加算Ⅳ	平成22年4月1日

	承認事項	項承認年月日
21	乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2	平成22年4月1日
22	肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年4月1日
23	センチネルリンパ節生検併用及び単独	平成22年4月1日
24	透析液水質確保加算I	平成30年6月1日
25	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
26	薬剤管理指導料	平成22年4月1日
27	膀胱水圧拡張術	平成22年4月1日
28	輸血管管理料II	平成22年11月1日
29	がん治療連携計画策定料	平成30年1月1日
30	脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激装置交換術	平成29年10月1日
31	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	平成30年4月1日
32	外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
33	がん治療連携管理料	平成24年4月1日
34	在宅患者訪問看護・指導料	平成24年4月1日
35	同一建物居住者訪問看護・指導料	平成24年4月1日
36	時間内歩行試験	平成24年4月1日
37	ヘッドアップティルド試験	平成24年4月1日
38	CT撮影(16列以上64列未満のマルチスライスCT)	平成24年4月1日
39	MRI撮影(1.5テスラ以上3テスラ未満)	平成24年4月1日
40	呼吸器リハビリテーション料(I)	平成31年2月1日
41	輸血適正使用加算	平成24年4月1日
42	人工肛門・人口膀胱増設術前処理加算	平成24年4月1日
43	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成29年4月1日
44	院内トリアージ実施料	平成24年5月1日
45	画像誘導放射線治療(IGRT)	平成30年10月1日
46	開放型病院共同指導料	平成24年11月1日
47	画像診断管理加算1	平成30年4月1日
48	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成25年6月1日
49	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	平成31年2月1日
50	運動器リハビリテーション料(I)	平成31年2月1日

	承認事項	項承認年月日
51	糖尿病透析予防指導管理料	平成26年4月1日
52	持続血糖測定器加算	平成26年4月1日
53	1回線量増加加算	平成26年4月1日
54	歯科口腔リハビリテーション料2	平成26年4月1日
55	外来放射線照射診療料	平成27年3月1日
56	麻酔管理料I	平成31年2月1日
57	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成27年4月1日
58	がん患者指導管理料ハ	令和1年12月1日
59	がん患者指導管理料イ	令和1年12月1日
60	がん患者指導管理料ロ	令和1年12月1日
61	がん患者リハビリテーション料(I)	平成31年2月1日
62	がん性疼痛緩和指導管理料	令和1年12月1日
63	神経学的検査	平成27年9月1日
64	組織拡張期による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	平成28年2月1日
65	ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	平成28年2月1日
66	ニコチン依存症管理料	平成29年7月1日
67	遺伝学的検査	平成28年4月1日
68	コンタクトレンズ検査料1	平成29年4月1日
69	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	平成28年8月1日
70	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	平成27年4月1日
71	療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	平成30年4月1日
72	排尿自立指導料	平成30年7月1日
73	人工腎臓	平成30年4月1日
74	導入期加算1	平成30年4月1日
75	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)等	平成30年11月1日
76	外来緩和ケア管理料	令和1年8月1日

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術

区分1に分類される手術

頭蓋内腫瘍摘出術等
 黄班下手術等
 鼓膜形成手術等
 肺悪性腫瘍手術等
 経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術

区分3に分類される手術

上顎骨形成術等
 上顎骨悪性腫瘍手術等
 バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）
 母指化手術等
 内反足手術等
 食道切除再建術等
 同種死体腎移植術等

医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

胃瘻造設術

区分2に分類される手術

靭帯断裂形成手術等
 水頭症手術等
 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
 尿道形成手術等
 角膜移植術
 肝切除術
 子宮附属器悪性腫瘍手術等

その他の区分に分類される手術

人工関節置換術
 乳児外科施設基準対象手術
 ペースメーカー移植術及び
 ペースメーカー交換術（電池交換を含む）
 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び
 体外循環を要する手術
 経皮的冠動脈形成術
 経皮的冠動脈血栓切除術及び
 経皮的冠動脈ステント留置術

II. 診療科及び部門報告

(1) 診療部門

・内 科	15
・精 神 科	18
・神 経 内 科	19
・循 環 器 内 科	20
・緩 和 ケ ア 内 科	21
・外 科	22
・整 形 外 科	24
・脳 神 経 外 科	27
・泌 尿 器 科	29
・眼 科	31
・耳 鼻 咽 喉 科	32
・放 射 線 科	34
・麻 酔 科	35
・歯 科 口 腔 外 科	36
・健 康 診 断 部	38
・栄 養 管 理 部	39

(2) 中央診療部門

・中央リハビリテーション部	40
・中央放射線部	43
・中央検査部	45

(3) 診療支援部

・臨床工学部	47
--------	----

(4) 薬 剤 部

(5) 看 護 部



内科

副院長 宮城島 拓 人

2020年度の目標及び方針

2013年度から、内科という大きな括りの中に、消化器内科、血液内科、腫瘍内科を院内標榜し、それぞれの専門性を生かした内科を構築している。これをさらに発展させ、それぞれの専門分野のレベルを上げ、医療の均てん化を目指すことで地域医療にさらに貢献することを目標とする。

消化器内科分野では、消化管、胆膵、肝臓の各専門医が配置され指導体制も整い、消化器悪性腫瘍の診断と内視鏡的治療をさらに発展させる。また炎症性腸疾患（IBD）の治療の多様性と専門性を考慮し、今年度より月一回のIBD外来を設置。北大消化器内科IBDグループより専門医を招いて、この地域でも増えているIBDの診断治療の均てん化を図る。また、腫瘍内科との連携により、消化器癌の最新治療を担保し、臨床治験にも積極的に参入しながら、地域での最先端の治療を目指す。さらに経鼻内視鏡を充足させ、内視鏡健診の拡大を図る。

血液内科は根釧地区唯一の専門施設として、地域の血液疾患の診断治療に主導的役割を果たすとともに、特に移植分野では大学と連携を強固にしていくとともに、同種幹細胞移植をも視野に入れた移植体制の充実を図る。

また、内科という大きな括りはそのままとし、三つの専門分野以外の疾患についても、地域医療を担う責任として関わっていく体制を維持することにより、地域貢献はもとより、研修医の懐の深い（守備範囲の広い）人材育成に寄与する。

釧路労災病院内科の伝統的な『広く深く』を合言葉にした診療体制を今年度も維持発展していく。

2020年度の具体的な重点項目

1. ESD（内視鏡的粘膜下層分離術）による食道、胃、大腸早期がんの切除数150件、および、若手の育成。
2. 上部内視鏡6,000件、下部内視鏡3,000件。検診での内視鏡件数の増加。
3. 化学療法外来、肝炎外来、IBD外来、血液専門外来などの充足。
4. 外来化学療法センターの一日利用者数25件。
5. 移植患者の長期フォローアップ体制の確立。
6. 各種学会発表、論文化の推進。

2019年度診療実績

(件)

入院患者疾患分類集計		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	4,237	4,040	3,818
結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物		649	513	449
胃の悪性新生物		260	205	225
胆石症		214	179	171
結腸の悪性新生物		202	220	213
膵の悪性新生物		193	176	179
その他及び部位不明の消化器の上皮内癌		145	110	92
びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫		144	172	174
その他及び部位不明の胆道の悪性新生物		131	85	76
気管支及び肺の悪性新生物		125	162	121
肝及び肝内胆管の悪性新生物		123	105	149
その他		2,051	2,113	1,969
侵襲的治療、検査実績		令和元年度	平成30年度	平成29年度
上部消化管内視鏡		5,304	5,227	4,996
下部消化管内視鏡		3,610	3,357	3,153
食道ESD		10	8	37
胃ESD		84	53	60
十二指腸ESD			0	2
大腸EMR		759	466	539
大腸ESD		71	46	34
小腸鏡（ダブルバルーン）		20	7	6
内視鏡的止血術		68	33	40
食道静脈結紮術・内視鏡的硬化療法		18	1	27
異物除去		27	27	54
イレウス管		68	65	36
食道拡張術		15	30	25
胃瘻造設術		24	17	40
気管支鏡/経気管支気管生検		9	44	99
ERCP		623	541	396
経動脈塞栓術・動注療法（TACE/TAI）		23	33	52
超音波内視鏡		429	386	272
EUS（FNA）		96	97	76

2019年度の評価

上下部内視鏡診断治療、および胆膵領域の診断治療の地域の中核病院として十分機能したと考える。内視鏡件数としては上部5,304件、下部3,610件で下部の目標はクリアしたが、上下部とも年々増加しており、現在の人員では十分パフォーマンスを発揮出来たと思われる。ESDを始めとする内視鏡治療も順調に伸びており、また胆膵系の処置も年々増加傾向を示しており地

域のニーズに答えている結果と理解している。しかしそのため、昼夜を問わず増加する胆膵疾患の診断治療のため、透視室で夜遅くまで治療に当たるのが、日常茶飯事になっており、医師の負担のみならず、介助にあたる看護師やME（臨床工学士）の負担は相当なものだったと思われる。看護師の事情で内視鏡看護師の待機制が望めない状況であり、なんらかの体制変化は必須と考える。

化学療法センターが一新され治療環境が格段に良くなったことで、患者の評判はすこぶる良好であるとともに、今年増加数は16床という規定ベッドでは到底足りない状況をもたらした。2020年度中盤から18床に増えることが決定したが、化学療法担当看護師の従属も必要である。

学問的なところでは、国際学会3題、国内全国学会（総会）9題、地方会14題を発表した。また論文は3本が掲載された。

■ 2019年度スタッフ構成

副院長

宮城島 拓 人

- 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医 指導医
- 日本消化器病学会 消化器病専門医 指導医
- 日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- 日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
- 日本エイズ学会 認定指導医
- 日本血液学会 血液専門医 血液指導医
- 日本感染症学会推薦インフェクションコントロールドクター（ICD）
- 日本内科学会 認定内科医 認定総合内科専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本医師会 認定産業医

消化器内科部長

小 田 寿

- 日本消化器病学会 消化器病専門医
- 日本内科学会 認定総合内科専門医

消化器内科部長

佐 野 逸 紀

消化器内科部長

川 岸 直 樹

- 日本消化器学会 消化器病専門医
- 日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- 日本内科学会 認定内科医

腫瘍内科部長

原 田 一 顕

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医

消化器内科部長

安孫子 怜 史

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- 日本消化器病学会 消化器病専門医

血液内科部長

江 端 浩

- 日本内科学会 認定内科医
- 日本血液学会 血液専門医

内科医師

吉 河 歩

吉 田 苑 永

小 田 総一郎

志 藤 茜

目 野 晃 光

吉 田 匠 汰

臨床研修医

山 本 葉 一

■ 主な対象疾患

消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌、その他）
 肺癌、血液悪性腫瘍（リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、MDS、その他）
 他の血液疾患（貧血、多血症、血小板減少症、凝固異常症、その他）
 炎症性疾患（肝炎、膵炎、胆管炎、胆石症、肺炎、胸膜炎、その他）
 気胸、糖尿病、他の代謝性疾患、自己免疫性疾患、腎不全 など

■ 特 色

消化器領域、血液領域、癌化学療法の専門領域の疾患については全国レベルを維持し、均てん化に寄与している。それ以外の領域疾患についても、地域の実情を鑑み積極的に対応している。また、専門性を生かしてセカンドオピニオンの提供も積極的に行っている。

■ 臨床研修教育内容

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本肝臓学会関連施設、日本血液学会血液研修施設などの多彩な教育施設となっており、それぞれの専門医・指導医を持つ部長が、

On jobで指導し、専門医を育成する環境が整っている。また、各種学会へも積極的に参加することで知識技術のブラッシュアップを図っている。

完全主治医制で、研修医でも責任を持って患者、家族と対応することになるが、一人で抱え込まないように、全員参加のカンファレンスを充実している。

週二回の病棟カンファレンスでは、研修医が主治医として受け持ち患者をプレゼンし、指導医から指摘や教育を受ける。これにより主治医として関わらなくても、多岐にわたる多くの疾患を経験することができ、疾患の偏りが無い経験値が格段に向上する。少なくとも新しい内科専攻医研修制度で求められる疾患のほとんどを網羅できる。

2020年度の目標及び方針

初診患者さんの総数に対して再来継続となる患者さんの割合が引き続き昨年よりも増加している。これは当科初診患者さんの占める割合が当院入院中の患者さんと比較して院内他科外来および他院からの紹介が多くなってきていることによると思われる。また他都府県からの紹介(必ずしも当院が指定されてはいないが)も増えてきているが入院が必要と思われる場合には他院精神科にお願いすることもある。入院中初診患者さんが再来に移行しにくい面(入院中で一過性に精神症状が悪化した場合にだけ対応する、退院後は地元他院へ通院する、本人が退院後当科通院に同意しない等)もあるがそれ以外の紹介患者さんは比較的多くが再来に移行している。しかし通院が必要であるにもかかわらず不規則通院であったり自己中断で悪化するまで再来受診しない患者さんも散見され、そのことにより精神症状が悪化により医療保護入院などに至る場合もあり注意すべきところである。これらの状況改善が昨年に引き続き今年度も当科の目標、方針となる。初診申し込みから受診までの日数は昨年と比較して殆ど変化はない。

2020年度具体的な重点項目

入院患者さんに対して当院退院後も継続的な対応ができるようにすることが重点目標となるが居住地の関係から近隣市町村へも適宜紹介して患者さんの通院距離負担を軽減する必要がある。これにより不規則通院を可能な限り是正することも目標とする。当院には精神科病棟がないため精神症状から明らかに入院治療が必要な場合には精神科病棟のある病院に対応をお願いすることになるが釧路では対応して戴ける病院を探すことに苦慮することが多く何か対策が必要であると思われる。時に釧路周辺地域の精神科にも入院をお願いすることもあるがやはり地元優先とのことで受け入れて戴くことが難しい。

2019年度の評価

昨年度は精神科外来再開後6年目であったが外来患者数は引き続き増加しており、特に神経発達障害と診断される患者さんの増加が昨年同様に目立っている。初診患者さんの受診依頼から初診までの待ち時間は昨年と比較しても変化なく長くはないと思われる。他県からの初診患者さんも増加傾向にある。

2019年度スタッフ構成

精神科部長

村田 佳 應

- 日本精神神経科 精神科専門医
- 日本医師会 認定産業医
- 精神保健指定医の証

主な対象疾患

当院には入院病棟がないこと、精神保健指定医が1名であることから措置入院(緊急措置入院を含む)、医療保護入院、応急入院、任意入院のいずれもができない。また精神科救急医療にも対応できない。中心となる疾患は精神病圏ではなく神経症圏である。最初から入院が必要と判断される患者さんは入院病棟を保有する病院にお願いすることになる。最近では神経発達障害と思われる患者さんが増加しており年齢によっては小児科にお願いすることもある。認知症患者さんの新患者数も昨年に比較して若干であるが増加傾向にあると思われる。

特 色

当科では新患、再来とも全予約制となっている。外来での対応が可能であれば比較的早く対応できるよう時間調整に努力している。また患者さんから曜日、時間指定の希望があると待ち時間は多少延びることもあり得る。当科では公認心理師が常勤しているので必要と判断されれば精神科カウンセリング、各種心理検査が可能である。最近では成人の発達障害に関する心理検査が多くなり、その他の心理検査も増加してきている。

臨床研修医教育内容

当院は精神科臨床研修施設ではないので精神科臨床研修はできません。

神経内科

部長 津坂和文

2020年度の目標及び方針

当院の神経内科は帯広以東の唯一の、神経内科専門医による科である。広範囲の地域のニーズに応えるべく、ほぼすべての神経疾患について、全国的に見ても遜色のないスタンダードな医療を目指している。

競合施設が近隣にないため、数値目標には意味がないと思っている。依頼のある患者を可能な限り受け入れて、地域医療への貢献をしていきたい。

当科は神経学会准教育施設であり、研修医への教育指導にも力を入れている。

2020年度の具体的な重点項目

1. 地域からの受け入れをいとわない。たとえ休日でも、できる限り患者の受け入れをして、地域医療機関に貢献していく。
2. 学会発表をととして、研修医、若手医師の教育、指導をしていく。
3. 保健師と連携し、難病患者の在宅医療、地域での療養を支援していく。(難病患者在宅ケア連絡会議が年4回。難病対策地域協議会にも参加。)
4. 訪問診療の継続

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計		200	195	221
パーキンソン<Parkinson>病		29	19	23
脊髄性筋萎縮症及び関連症候群		22	16	36
炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>ー		16	16	15
自律神経系の障害		5	16	14
多発性硬化症		10	11	14
固形物及び液状物による肺臓炎		10	7	1
その他及び詳細不明の原因による髄膜炎		7	5	4
その他の敗血症		6	1	1
重症筋無力症及びその他の神経筋障害		7	7	5
神経系のその他の変性疾患, 他に分類されないもの		16	7	9
その他		72	90	99

2019年度の評価

地域医療機関のニーズに応えることは、十分に達成できたと思っている。直接の依頼は基本的に断っていない。

入院患者は平年並みと考えている。

2019年度スタッフ構成

神経内科部長

津坂和文

- ・日本内科学会 認定内科医

神経内科医師

佐藤翔紀

- ・日本内科学会 認定内科医

嘱託医

伊藤芳子(月3回 3日)

長井梓(月1回 2日)

江口克紀(月1回 2日)

主な対象疾患

神経疾患(脳・脊髄疾患)

神経筋疾患(末梢神経疾患、筋疾患) など

特色

神経疾患・神経筋疾患全般についての、診断、治療、療養の相談をおこない、これらの疾患の「医療空白地帯」とならないよう努力している。

臨床研修医教育内容

日本神経学会 准教育施設である。帯広以東の道東地区の神経疾患を一手に引き受けている当科は、症例も豊富であり、片寄りなく、広く症例を経験することが出来る。それらの症例の診断から、治療、さらには終末期まで当科で経験することが出来る。新外来患者のプレゼンテーション、入院患者の方針検討は毎日おこなっている。研修医にはトレーニングの機会が十分にあると思われる。神経学会北海道地方会には毎回演題を出しており、研修医にもその機会を提供している。

2020年度の目標及び方針

当科では現在、常勤1名、非常勤1名で(週1～2回勤務)、外来中心の診療活動を行っています。今年度も基本的には現行の態勢を継続する方針で、外来では、おもに慢性心不全、虚血性心疾患の慢性期、高血圧、不整脈の症例に加え、末梢血管疾患の状態評価、投薬管理などの経過follow、他科(外科系)の術前症例の心機能評価などを行っています。患者数はここ数年はほぼ同様ですが、待ち時間が長くなることが多く、患者様にはご迷惑をおかけすることが多々ある状況です。

入院診療としては、当科の自前の症例に関しては、心臓ペースメーカー植え込み症例の診療を行っています。そのほか、他科入院患者の循環器系合併疾患の状態評価、経過観察・加療を、関連各科にご協力いただき、行っています。外来患者の心不全増悪例については、内科のご協力を頂き、入院での管理を行っていますが、状態に応じ、他施設でのご加療を依頼する場合があります。

新規症例についても、スクリーニングなど評価を積極的に行い、必要に応じて高度医療可能な施設への連携を保つよう努めています。

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	3	1	0
房室ブロック及び左脚ブロック	1	1	0
その他の不整脈	1	0	0
心臓及び血管のプロステーシス 挿入物及び移植片の合併症	1	0	0

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計		3	1	0
局 所		3	1	0
<疾患・術式別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計		3	1	0
房室ブロック及び左脚ブロック		1	1	0
その他の不整脈		1	0	0
心房細動及び粗動		1	0	0

2019年度スタッフ構成

循環器内科部長

鮫 島 睦 生

・日本外科学会 認定医

主な対象疾患・特色

慢性心不全 高血圧 虚血性心疾患のスクリーニング、慢性期 follow

不整脈 大動脈瘤・末梢動脈疾患のスクリーニング、経過 follow

外科系手術症例の術前心機能・耐術能評価

静脈系疾患の状態評価、follow

緩和ケア内科

部長 小田 浩之

■ 2020年度の目標及び方針

主にがん患者さんのからだの痛みや気持ちのつらさ等に対して、主治医と協力して、薬物療法やケアなどに取り組みます。

緩和ケアというと、がん治療が終了した患者さんばかりが対象のように思われがちですが、今では、症状があればいつでも(がん治療中でも、治療が始まる前でも)受診することができ、早めに受診することががん治療そのものにも役立つとされています。したがって、患者・家族の方々が少しでも早く当科の診療を受けていただけるように、主治医や病棟スタッフ、地域連携医療機関の皆様働きかけてまいります。

また、全国ではがん死亡患者の6人に1人が緩和ケア病棟で手厚いケアを受けていますが、釧路・根室地域にはまだ緩和ケア病棟がありません。このため、できるだけ早い時期に当院に緩和ケア病棟を設け、がん終末期患者の療養を支えます。

■ 2020年度の具体的な重点項目

1. 緩和ケア病棟の運用を開始します。

院内に緩和ケア病棟を設置します。院内がん患者さんの終末期療養のみならず、たとえば在宅療養を続けておられる患者さんの症状緩和のための一時的利用なども積極的に受け入れます。

2. 緩和ケアチーム活動の充実に努めます。

多くのがん患者さんが早期から緩和ケアを受けられるように、入院患者のスクリーニング等に努めます。また、主治医の依頼に応じて、心不全などがん以外の重い病気に苦しむ多くの患者さんの症状緩和にも取り組みます。

3. 地域における緩和医療の普及に取り組みます。

釧路・根室地域の連携医療機関に対して、当院に設置される緩和ケア病棟の活用を促してまいります。また、地域のがん患者等に対する外来診療を行うとともに、地域の医療機関や自治体などの依頼に基づき無料出前講座を実施します。

■ 2019年度診療実績

緩和ケアチーム介入患者数 133名

緩和ケア内科外来受診患者数 130名

(いずれも複数回の介入・診察は重複してカウントしています)

■ 2019年度の評価

2019年10月1日から緩和ケア診療加算の算定を開始し、緩和ケアチーム活動の活性化を図りました。このことは、当院におけるがん治療がチーム医療として充実したものと評価できるものです。

■ 2019年度スタッフ構成

緩和ケア内科部長

小田 浩二

・日本緩和医療学会 緩和医療専門医

■ 主な対象疾患

現在は主に(すべての種類の)がんの患者さんへの緩和医療の提供を行っていますが、主治医からのご依頼に応じて、心不全患者その他のがん以外の患者さんの苦痛緩和にも取り組みます。

■ 特色

当科には道東で唯一の日本緩和医療学会緩和医療専門医が在籍しており、高度・専門的な緩和医療を提供しています。

■ 臨床研修医研修方針

「研修医のうちに、せめて痛みには強くなろう」

「患者のつらさに寄り添えるようになろう」

「チーム医療ができるようになろう」

緩和ケアは、すべての医療分野に共通するスキルです。当科の門を叩く研修医には、好きなだけ症例にまみれることのできる濃密な時間を用意します。

2020年度の目標及び方針

消化器外科、乳腺外科、緩和ケアを三本柱として地域医療へ貢献します。とくに消化器外科分野では、肝胆膵高度技能専門医を迎えてより積極的に高難度手術に取り組んで参ります。緩和ケア内科が開設されたことにより、外科医も診断から始まる緩和ケアを背景に、がん治療および救急医療を通じて「労災病院を選んで良かった」と思われる医療を提供することを目標とします。

2020年度の具体的重点項目

1. 腹腔鏡手術のさらなる推進

消化器外科の分野では、患者さんにやさしい手術（低侵襲手術）としての腹腔鏡手術をさらに推進し、合併症の減少と合わせて早期社会復帰に努めます。肝胆膵領域の手術も推進し、オールラウンドな外科治療を提供します。

2. 乳がん治療の多様化に対応

癌の進行度と生物学的特徴に応じた最適な治療法を提案します。手術はもちろんのこと、薬物療法と放射線療法を駆使し、温存療法から乳房再建まで、多様なニーズに対応します。

3. 緩和ケア外来の強化

緩和ケア内科専門医との連携の下、緩和ケア病棟開設の準備を進めます。がん看護専門看護師とのチーム連携による緩和ケア体制を維持しつつ、地域在宅医療システムとの連携を深めます。

4. 新たな専門医制度に対応する教育体制

多くの手術を経験できることはもちろん、大学や関連病院から技術認定医・指導医の応援を得て、高度な技術を持つ専門医を育成します。

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計

(人)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	961	875	816
乳房の悪性新生物	188	209	194
結腸の悪性新生物	101	85	75
そけい<膵径>ヘルニア	100	73	92
胆 石 症	97	101	74
胃の悪性新生物	68	62	28
急性虫垂炎	46	37	44
直腸の悪性新生物	39	33	29
消化器系の処置後障害, 他に分類されないもの	37	38	23
その他の外因の作用	32	31	32
直腸S状結腸移行部の 悪性新生物	23	17	24
そ の 他	230	189	201

(2) 手術実績

(件)

<麻 酔 別>	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	700	594	551
全 麻	663	564	535
脊 椎	2	3	1
局 麻	34	27	15
硬 膜 外	1	0	0

<疾患・術式別>	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	700	594	551
そけい<膵径>ヘルニア	100	70	91
胆 石 症	97	107	73
結腸の悪性新生物	92	84	67
乳房の悪性新生物	81	86	80
胃の悪性新生物	63	54	27
直腸の悪性新生物(Rs含む)	60	45	24
急性虫垂炎	30	32	40
麻痺性イレウス及び腸閉塞, ヘルニアを伴わないもの	17		
消化器系の処置後障害, 他に分類されないもの	15	15	6
乳房の良性新生物	10	6	5
そ の 他	135		

■ 2019年度の評価

限られた人的資源のなかで、入院患者数・手術件数ともに大幅に増加しました。その甲斐あって大学からも人的支援を得ることができました。救急診療とくに緊急手術にも積極的に対応し、さらにはがん検診・禁煙外来・緩和ケアチーム活動など、幅広い業務に力を発揮しました。

■ 2019年度スタッフ構成

院長

高橋 弘 昌

- ・日本外科学会 外科専門医・指導医

副院長

小笠原 和 宏

- ・日本外科感染症学会 インфекションコントロールドクター (ICD)
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医
- ・日本乳癌学会 乳腺専門医・乳腺指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
- ・日本外科学会 認定医・外科専門医・指導医
- ・日本職業・災害医学会 海外勤務健康管理指導者
- ・日本職業・災害医学会 労働災害補償指導医
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本医師会 認定産業医
- ・社会医学系専門医協会 社会医学系指導医・専門医
- ・乳房再建エキスパンダー/インプラント基準医師

外科部長

小林 清 二

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本消化器外科学会 認定医・専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医

石川 隆 壽

- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医
- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本消化器外科学会 消化器病専門医
- ・日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医・評議員
- ・検診マンモグラフィ読影認定医

石 黒 友 唯

- ・日本外科学会 外科専門医

外科副部長

村 田 竜 平

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・マンモグラフィ読影認定医

外科医師

海老沼 翔 太

- ・日本外科学会 外科専門医

臨床研修医

水 町 浩 暢

■ 主な対象疾患および特色

- ・消化器がん (胃癌・大腸癌・肝胆膵癌・食道癌など)
- ・乳がん
- ・胆石症など消化器良性疾患
- ・急性虫垂炎など手術を必要とする感染性疾患
- ・鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど
- ・手術後の合併症や後遺障害など

■ 臨床研修医教育内容

臨床研修指定病院であるとともに、日本外科学会修練指定施設、日本消化器外科学会認定施設、日本乳癌学会認定施設であり、豊富な手術経験を積んで早いタイミングで外科専門医を取得するための基礎を学ぶことができます。多数の消化器外科専門医のほか、内視鏡外科技術認定医や乳腺専門医を育成した実績があります。外科医の経験を基盤として緩和ケア専門医に転身した医師もいます。幅広い臨床経験を約束できる環境です。

2020年度の目標及び方針

整形外科は運動器疾患を診断・治療する分野で、主にその疾病は変性疾患と外傷に大別されます。今年度は7名（8～11月は6名）体制で診療活動を行っており、脊椎専門医（放生）と上肢専門医（松橋）、下肢専門医（加藤）が常勤し、それぞれの分野で手術をはじめとした専門的な治療に当たると同時に、若手医師の育成を行っております。脊椎専門医は日本脊椎脊髄病学会指導医であり、脊椎疾患の治療はもちろんのこと、脊椎外科医の育成を行っております。その他、運動器疾患のあらゆる分野において専門性の高い高度な医療を提供しております。

釧路市内のみならず、道東全域および道北・十勝地区からも患者さんを紹介して頂き、地域の中核病院としての役割が強く求められております。その期待に応えるべく、高い医療水準を保ちながら、患者一人一人に合わせた柔軟な治療を心掛けています。

2020年度の具体的な重点項目

1. 脊椎外科専門治療の推進

当科脊椎専門医は釧路地区で唯一人の日本脊椎脊髄病学会指導医です（学会HP）。脊椎外科治療には豊富な知識と高度な技術が要求されることが多く、その専門性を生かした治療を推進していくと同時に、脊椎外科医育成にも重点的に注力していくことを目指しています。

2. 肩・肘関節疾患の専門治療

今年度から、上肢、特に肩・肘関節の専門医がかわり、専門性の高い治療を行っております。疾患患者数が多い分野であるにも関わらず、釧路地区には本分野の専門医が不在であったため、当科の地域医療への貢献が高まると考えています。

3. 膝・股関節疾患治療の重点化

変形性股関節症に対し、前方進入人工股関節置換術を重点的に行っていきます。前方進入はこれまでの後側方進入に比べて、術後人工関節脱臼を少なくすることができる、術後の脚長を厳密にコントロールできるなど、多くの利点を有します。高度な技術を要しますが、当科では本術式に積極的に取り組んでいます。

4. スポーツ医学

整形外科の特徴的な分野であるスポーツ医学を通じて、競技レベルからレクリエーションレベルまで、患者に合わせた診断・治療を行います。

5. 運動器外傷への積極的な取り組み

地域の中核病院における整形外科として、救急医療に欠くことのできない運動器外傷に積極的に取り組みます。

6. 骨粗鬆症の社会啓蒙活動と検査・治療の推進

骨粗鬆症は50歳以上の女性の3人に1人が患っているとされていますが、実際に治療を受けているのはその1/6未満とされています。本疾患の存在と治療の重要性を社会に啓蒙すると同時に、検査・治療を推進していきます。

7. 整形外科専門医の育成

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行ってきました。これからも、臨床および学術的な指導を行うことにより整形外科医学教育にも注力していきます。

8. 地域の整形外科医への指導

釧路市整形外科医会（当科部長が会長を兼任）の取り組みとして、症例検討会・講演会などを積極的に開催し、地域の整形外科診療レベルの向上を図ります。

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	833	1,029	1,042
	大腿骨骨折	106	115	110
	下腿の骨折, 足首を含む	88	86	80
	前腕の骨折	68	66	50
	その他の脊椎障害	48	46	80
	腰椎及び骨盤の骨折	44	75	69
	肋骨, 胸骨及び胸椎骨折	39	34	28
	その他の変形性脊柱障害	38	65	31
	肩及び上腕の筋及び腱の損傷	35	49	35
	膝の関節及び靭帯の脱臼, 捻挫及びストレイン	35	35	65
	肩及び上腕の骨折	34	40	38
	その他	298	418	456

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	619	698	680
全	身	474	529	481
脊	椎	52	63	81
伝	麻	69	75	87
局	所	18	28	26
そ	の	6	3	5

<疾患・術式別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	619	698	680
大腿骨骨折		96	96	80
下腿の骨折, 足首を含む		81	71	57
前腕の骨折		65	65	49
膝の関節及び靭帯の脱臼, 捻挫及びストレイン		33	32	64
膝関節症 [膝の関節症]		31	64	87
肩及び上腕の骨折		29	37	32
体内整形外科的プロステシス, 挿入物及び移植片の合併症		23	6	13
その他の脊椎障害		21	22	31
上肢の単ニューロパチ<シ>ー		19	17	16
その他の変形性脊柱障害		18	27	16
その他		203	261	235

■ 2019年度評価

当科は整形外科3分野(脊柱・上肢・下肢)の各専門医が揃っており、全ての領域で高度な治療を行うことが可能です。今後も地域の中核病院としてさらに重要な役割を果たしていくことが求められており、地域の期待に応えていきたいと考えています。

■ 2019年度スタッフ構成

整形外科部長

放生 憲 博

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医
- ・日本整形外科学会 脊椎脊髄病医
- ・日本整形外科学会 リウマチ医
- ・日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医
- ・日本整形外科学会 スポーツ医
- ・日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医

加 藤 琢 磨

- ・日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医

- ・日本整形外科学会 スポーツ医

- ・日本医師会 認定健康スポーツ医

校 條 祐 輔

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医

- ・日本整形外科学会 脊椎脊髄病医

整形外科副部長

倉 茂 秀 星

- ・日本整形外科学会 整形外科専門医

整形外科医師

村 中 祐 介

横 田 隼 一

北 原 圭 太

■ 主な対象疾患

<脊椎疾患>

- ・腰部椎間板症
- ・腰椎椎間板ヘルニア
- ・脊椎分離症・すべり症
- ・腰部脊柱管狭窄症
- ・腰椎変性すべり症
- ・腰椎変性側弯症
- ・頸椎椎間板ヘルニア
- ・頸椎症・頸髄症
- ・頸椎後縦靭帯骨化症
- ・骨粗鬆症・脊椎圧迫骨折
- ・脊椎腫瘍
- ・脊椎脊髄損傷
- ・胸髄症(ヘルニア、脊椎症、靭帯骨化)
- ・化膿性・結核性脊椎炎
- ・脊柱側弯症

<上肢疾患>

- ・肩腱板損傷
- ・変形性肩関節症
- ・肩関節周囲炎
- ・リウマチ肩
- ・変形性肘関節症
- ・離断性骨軟骨炎

<下肢疾患>

- ・変形性股関節症
- ・変形性膝関節症
- ・膝前十字靭帯損傷
- ・膝半月板損傷

■ 特 色

整形外科の主要疾患はすべて対象としています。脊椎疾患に対して高度な専門性の高い治療を行っております。昨年度から上肢専門医が加わり、上肢、特に肩・肘関節の高度な治療を行っております。下肢疾患に対しては、今年度から股関節専門医が就任し、罹患患者の多い膝関節疾患はもちろんのこと、股関節疾患にも積極的に取り組んでいます。その他、北海道大学整形外科と協力しながら最先端の治療を提供してまいります。

■ 臨床研修医教育内容

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行っています。整形外科カンファレンスを毎日行い、整形外科学の基礎的な知識から検査・診断へのプロセス、実際の保存・手術治療まで、個別の症例ごとに全員で検討しています。また、学会や研究会への発表・論文作成指導も行っており、様々な方面からの教育を目指しています。

2020年度の目標及び方針

脳疾患部門と脊髄末梢神経部門からなる総合神経外科と言える理想的な診療体制を、2020年度も維持して地域医療を支えます。

脳部門は全領域：但し、小児は少ない。産婦人科・小児科で赤十字病院と連携し、出張手術を実施する場合もあり。

脊髄末梢神経部門：外科手術のほか、ブロック注射など総合的な診断治療が特徴。ハイテク（画像・機能検査診断）とロウテク（指で押す診断）の組み合わせ。

救急医療：当院に救急部はありませんので、確立された当院の救急診療指針に基づき、脳関係は擬似（もどき）症例を含めず受ける・診る・相談に乗ることの実践を心がけます。これを目標とするのは今年度も変わりません。24時間365日いつでも対応することと、完璧な医療面接も含めた対応とは現状のマンパワーでは両立困難ですので、引き続き脳神経外科スタッフ全体としての対応（カルテ診＝看護師説明のみでとりあえず終わることも）もフル活用。根釧地区医療機関や救急隊からの要請に応じ、24時間・365日の救急応答体制を維持します。（働き方改革と大きく矛盾すること多々あり。チーム医療制・複数主治医/受持医での対応など創意工夫につとめます。）

臨床研究：引き続き倫理的側面への配慮の下、当科独自・地域・全国・国際的な臨床研究（共同研究）・治験への参加貢献を続けます。

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計		812	821	892
脳梗塞		170	182	174
末梢神経系のその他の障害		77	70	134
その他の脊椎障害		76	51	57
脳内出血		58	64	68
その他の脳血管疾患		40	23	25
その他の非外傷性頭蓋内出血		31	18	15
頭蓋内損傷		29	26	40
てんかん		28	52	25
前庭機能障害		25	24	26
一過性脳虚血発作及び関連症候群		19	26	22
その他		259	285	306

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計		316	291	310
全身		196	196	208
局麻		113	95	102
なし		7	0	0
<疾患・術式別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計		316	291	310
その他の脊椎障害		67	40	38
脳梗塞		32	23	17
その他の非外傷性頭蓋内出血		27	18	13
その他の脳血管疾患		26	19	17
脳内出血		21	21	20
下肢の単ニューロパチ<シ>ー		14	24	20
末梢神経系のその他の障害		14	19	30
その他の部位の続発性悪性新生物		11	14	22
髄膜の良性新生物		11	4	7
脊椎椎症		10	27	25
その他		83	82	101

2019年度の評価

日本脳卒中学会認定一次脳卒中センターに認定されたほか、教育研修施設にも釧路地区で3病院目として認定されました。脳卒中により失われた脳神経機能は回復しませんし、回復を促すことのできる治療はリハビリテーションのみです。釧路地区で唯一、臨床研究（double-blind RCT）としての脳梗塞細胞療法（再生医療）の治験参加施設となりました。治験に参加した1例は良好な経過をたどっております（治験薬が入ったかどうかはまだわかりませんが）。

2019年度スタッフ構成

磯部正則

・日本脳神経外科学会 指導医

第一部長。脳部門と全体統括。毎日外来診療。脳ドックも全て対応。脳手術全てと一部の脊椎手術を担当。地域医療にも大きく貢献し、脳神経外科が手薄な釧路赤十字病院、町立厚岸病院の診療応援にも従事しています。病院当直も未だ担当しています。

井須豊彦

・日本脳神経外科学会 指導医

・日本脊髄外科学会 指導医

脊髄末梢神経外科診療を統括。特に診断治療に苦慮するタイプの腰部・臀部・上下肢の痺れと痛みの診療に精通し、その治療効果を発揮し、全道・全国からも患者さんが訪れます。

伊 東 雅 基

- ・日本脳神経外科学会 指導医
 - ・日本脳卒中学会 専門医
 - ・日本脳卒中外科学会 技術認定医
 - ・脳血栓回収療法 実施医
 - ・難病・小児慢性特定疾病 指定医
 - ・日本脳神経血管内治療学会 脳血栓回収療法実施医
- 脳神経外科病棟マネージメントと若手教育に従事。自身もまた血管外科手術・脳手術全般の修行中。外來は週2回+α。脳手術全て、脳血管内治療全てに従事。北海道大学客員研究員として、脳血管難病(もやもや病)の基礎研究や大学院生指導も担当しています。

藤 原 史 明

- ・日本脳神経外科学会 専門医
- 福岡大学より国内留学2年目。井須先生直接指導により脊髄末梢神経外科手術、診療経験の蓄積、メキメキと論文執筆・academic neurosurgeonへの求道、さらには手薄な脳部門の補助にも精力的に携わり、脳卒中専門医取得への臨床経験の積まれております。

進 藤 崇 史

- ・日本脳神経外科学会 専攻医
- 2017-18年に次ぎ、2回目の当院勤務です。家業(寺院)の関係で出家もしましたので、二刀流です。日中ほぼ全ての救急応需に、主に脳部門の手術・血管撮影、病棟管理に従事して脳神経外科学会専攻医(後期研修医)の経験を積むため走り回り、病室で念仏を唱える暇もありません。

■ 主な対象疾患及び特色

当院の特徴は、脳・脊髄外科センターと末梢神経外科センターでの2本建てでの診療の実践です。

脳外科疾患部門：磯部・伊東(脳神経外科専門医)、進藤(脳神経外科専攻医)

脊髄・末梢神経外科疾患部門：井須・藤原・磯部(脳神経外科専門医)

■ 臨床研修医教育内容

自由選択科目期間(最長35週間)において、1, 2年次いずれにおいても研修可能です。

脳神経外科で推奨する研修期間は、最低8週間(診断・初期対応の修練が可能)～16週間(診断・初期対応修練に加え、侵襲性を伴う処置・検査・手術手技の経験が可能)です。

教育内容の全容は、当院の臨床研修プログラム(脳神経外科臨床研修プログラム)に記述していますが、

【釧路労災病院脳神経外科の特徴】は、日本脳神経外科学会「新規脳神経外科専門医制度」に基づく、認定連携施設、日本脳卒中学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター(PSC)、日本脊髄外科学会認定指導医在籍施設での研修が可能であることです。

【教育の理念】は、“患者第一”・“脳・脊髄・末梢神経・全ての神経系疾患を対象とした診療と研究”・“教育のシステムとしてのチーフレジデント制度”です。

泌尿器科

部長 佐々木 芳 浩

2020年度の目標及び方針

泌尿器科は、泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、がん診療連携拠点病院として、腎・腎盂尿管・膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌や腎機能低下例に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した開腹前立腺全摘除術を行っているが、近年急増しているロボット支援手術を希望した場合は関連施設を紹介している。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療を患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。免疫チェックポイント阻害薬の適応も増加している。各種癌に対する治療成績に関しての検証・発表も重要視している。

腎不全に関しては、保存期の内シャント造設と血液透析導入以後の維持透析管理を血液浄化センターで施行している。2020年7月からはオンラインHDFが施行可能となり、透析の質的向上に加え経費削減も果たせるようになった。

尿路結石に関しては、レーザーを用いた内視鏡的碎石術を施行している。

2020年度4 - 6月は新型コロナウイルスの影響で外来受診者数、手術件数（特に急を要さないもの）ともに減少したがその後回復傾向にある。

2020年度の具体的な重点項目

- 診療全般に関しては、医師の増員により外来が3診体制に戻ったため、外来待ち時間が短縮しており、紹介患者や予約外患者の受け入れを拡大していく。
- 北大関連病院や市立釧路総合病院泌尿器科との緊密な連携は従来通り保ち、人員不足の他施設の手術応援等も考慮していく。
- 癌診療に関しては、化学療法患者が増加しており、外来化学療法センターを利用しての前立腺癌や尿路上皮癌、腎細胞癌に対する化学療法・免疫チェックポイント阻害薬療法等をさらに進めていく。
- 血液浄化部門に関しては、血液浄化センターの運営を安全に進めていくとともに、オンラインHDFの適応や栄養指導の充実、服薬指導の工夫等によって透析患者のQOL向上にも努めていく。

- 排尿障害に対しては入院患者では、排尿ケアチームの介入を積極的に行い、患者のためになる尿路管理を行っていく。

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計

(人)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	439	520	545
前立腺の悪性新生物	130	112	148
その他及び部位不明の上皮内癌	45	55	52
膀胱の悪性新生物	44	77	88
前立腺肥大(症)	33	19	42
腎盂を除く腎の悪性新生物	28	32	32
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	19	22	19
腎盂の悪性新生物	17	8	5
腎結石及び尿管結石	15	17	9
前立腺の炎症性疾患	13	12	19
尿管の悪性新生物	11	8	8
そ の 他	84	158	123

(2) 手術実績

(件)

<麻酔別>	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	315	325	376
全 身	81	83	101
脊 椎	220	212	262
局 麻	6	26	13
無 麻 酔	8	4	0

<疾患・術式別>

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総 計	315	325	376
前立腺の悪性新生物	88	61	81
その他及び部位不明の上皮内癌	45	55	52
膀胱の悪性新生物	37	45	50
前立腺肥大(症)	32	19	40
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	19	21	16
腎盂を除く腎の悪性新生物	19	18	18
前立腺の炎症性疾患	12	2	14
下部尿路結石	10	17	13
腎結石及び尿管結石	8	11	3
精巣<睾丸>水腫及び精液腫	7	8	9
そ の 他	38	68	80

2019年度の評価

診療スタッフ2名にて診療を行い入院・外来・手術件数とも前年より減少した。

2019年度スタッフ構成

泌尿器科部長

佐々木 芳 浩

- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医
- ・日本泌尿器科内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医

泌尿器科副部長

宮 崎 将 也

- ・死体解剖適格者

主な対象疾患

- ・腎細胞癌
- ・腎盂尿管癌
- ・膀胱癌
- ・前立腺癌
- ・精巣癌
- ・副腎腫瘍
- ・後腹膜腫瘍
- ・前立腺肥大症
- ・神経因性膀胱
- ・過活動膀胱
- ・腎不全（腎前性・腎性・腎後性）
- ・尿路感染症
- ・先天性尿路・性器疾患

特 色

泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、がん診療連携拠点病院として、腎・尿管。膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した前立腺全摘除術を行っている。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。各種癌に対する治療成績の関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視している。

臨床研修医教育内容

日本泌尿器科学会認定教育施設である。研修医は腎・尿路疾患のプライマリー・ケアができるように、疾患の診断・標準的な治療・基本的な処置についての知識を習得するため、入院患者を中心に泌尿器科疾患全般に触れ、代表的な疾患に関しては自分自身の力で、複雑な疾患については指導医と相談しながら的確に対応できる能力を取得することを目標とする。また、手術に参加することはもちろん小手術の執刀を経験することも出来る。可能であれば地方学会等での症例報告も行うことが出来る。

眼科

副部長 藤戸達彦

■ 2020年度の目標及び方針

異動なく医師一人体制が継続されます。今年度から検査人員が減少していますが、検査数・待ち時間に影響が出ないよう対策を講じていきます。

眼窩疾患は直接生命予後と関係しにくく、外来・手術件数は新興感染症の流行の影響で減少しています。多少は回復傾向ですが、しばらく不安定な状況が続くものと考えられます。不安を抱えながら受診する患者様も多く、受診間隔の延長・点眼アドヒアランスの悪化が散見されます。患者様の希望に応じた形でも、なるべく治療に中断が生じないようにしていきます。

■ 2020年度の具体的な重点項目

1. 治療優先度の高い疾患の患者には、治療必要性のアナウンスを心がける。
2. 時間外紹介にも常時対応可能な体制を維持する。
3. 患者背景に応じた治療方針を選択していく。

■ 2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計	182	177	172
老人性白内障	174	169	166
結膜のその他の障害	3	1	5
視神経炎	2	0	0
その他の白内障	1	1	1
網膜血管閉塞症	1	1	0
眼球の障害	1	0	0
眼球及び眼窩の損傷	0	2	0
他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	0	1	0
角膜炎	0	1	0
眼球及び眼窩組織の挫傷	0	1	0

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計		311	276	300
局麻		311	276	300
<疾患・術式別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計		311	276	300
老人性白内障		306	274	293
結膜のその他の障害		3	1	5
その他の白内障		1	1	2
眼球の障害		1	0	0

■ 2019年度の評価

患者数・手術患者数共に前年より微増し、医師異動後の2018年度から例年並みの水準に回復しました。病棟・外来人員に大きな変更は無く、円滑な診療体制が維持できていたと考えます。処置件数・手術件数の増加で、午後の業務内容が前年より増加しましたが、検査機器等の更新で、一部検査時間の短縮・効率化が図れており、診療時間の延長無く対応可能で、安全面にも配慮した診療が行えていたと考えます。

■ 2019年度スタッフ構成

眼科副部長

藤戸達彦

■ 主な対象疾患

眼科一般

白内障・翼状片などについては手術対応

■ 特色

診療担当医師は1名であるため治療できる範囲には限界あるのが現状ですが、眼窩疾患全般について診療を行い、当科で対応可能なものかどうか鑑別し治療に遅れが生じないよう心がけております。糖尿病はもちろん、悪性腫瘍などの他科疾患と関連した眼病変について、近医・当院他科との連携を細かく行い診療を進めています。

また釧路赤十字病院と市立釧路総合病院のそれぞれの眼科と連携を図ることで、多くの症例において釧路市内で治療の完結が可能となっています。

■ 臨床研修教育内容

眼科全般について一般的な知識を学ぶのには十分な症例があり、研修期間中に眼科救急疾患の初療対応・一般的な外来診察手技の習得を目指します。手術は直接術野に入る助手としての研修が主体ですが、手術手技の導入としてWet Laboも可能です。

2020年度の目標及び方針

札幌・旭川・函館を除く北海道の地方都市の耳鼻咽喉科勤務医は減少する一方である。釧根地区も例外ではない。釧根地区人口およそ30万人で耳鼻咽喉科固定勤務医のいる病院は当院を含めてわずか3か所のみである。その内訳は当院3人、市立釧路総合病院4人、町立中標津病院1人となっている。ほかに釧路赤十字病院・市立根室病院・町立別海病院が耳鼻咽喉科を診療しているが週に数日間だけ大学からの出張でまかなわれている。市立根室病院に至っては当院からも外来診療に出張している現状である。

出張勤務医の場合、喉頭浮腫・扁桃周囲膿瘍・深頸部膿瘍・重症鼻出血などの緊急入院を必要とする患者や入院手術を必要とする患者に対応することができない。したがって勤務医の常駐する病院に紹介するしかない。さらに、釧根地区は札幌・旭川などの大都市圏と遠く離れているためそちらに搬送することも不可能である。当病院はいわば釧根地区の最後のとりでの一つといってもいいような病院である。そのため今後も可能な限り現在の体制を維持して住民の期待にこたえられるようにしていきたい。

また、釧根地区は開業の耳鼻咽喉科医もほかの地域に比べて圧倒的に少ない。開業医を含めても釧根地区の耳鼻咽喉科医はわずか13人のみである（日本全国で耳鼻咽喉科医は1万3千人に1人程度とされているので23人必要な計算になる）。

近隣の開業の先生と連携して綿密で効率の良い医療体制を作っていきたい。

2020年度の具体的な重点項目

1. 地域医療との連携

地域医療機関からの診療依頼は可能な限り引き受ける。ベッドが満床の場合やむなく入院依頼をお断りしたことがあるができる限り地域医療機関の期待にもこたえられるようにしていきたい。

2. 救急疾患に対する診療体制を維持する

当科は気道を扱う科で気道閉塞の危険がある疾患も数多い。それだけ緊急性のある疾患も多いわけである。それにもかかわらず先に述べたように釧根地区で救急疾患に対応できる病院が圧倒的に少ない。今後も救急疾患に対応できる体制を維持していきたいと考えている。

3. 耳疾患から頭頸部腫瘍に至るまで幅の広い疾患への対応

耳鼻咽喉科疾患は耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部腫瘍と多岐にわたり、まれな疾患もある。また医療が進歩するにしたがって患者数、施設の医療体制、医療機器などの点からすべてを賄うのは困難になってきている。その中でできる限り幅広く種々の疾患に対応していきたい。

2019年度の評価

2019年4月から形成外科常勤医が不在となり舌癌・口腔底がんなど遊離皮弁を必要とする頭頸部腫瘍の手術ができなくなった。現在そのような患者さんは市立釧路総合病院に紹介している。

2020年1月から新型コロナウイルス感染症の流行期に入り今までの診療体制が一変した。外来には患者さんが来なくなった。発熱患者に対して神経を使うようになった。また一般の患者でも咽喉頭ファイバーなどエアロゾルを発生する危険のある手技を行う場合はゴーグルN95マスク・手袋の着用を行うようになった。院内感染を防ぐ目的から耳・鼻・咽喉頭の手術を緊急性のある疾患を除いて行わないことにした。そのため外来患者数・入院患者数・手術件数が激減した。2020年6月中旬から上記手術を再開しているが入院前2週間の自宅待機を行うよう指導しているためまだ入院患者数・手術件数は元の状態に戻っていない。

■ 2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計	481	509	520
前庭機能障害	53	90	95
慢性副鼻腔炎	47	29	27
扁桃周囲膿瘍	43	24	38
その他の難聴	35	19	24
睡眠障害	21	30	19
扁桃及びアデノイドの慢性疾患	19	26	19
甲状腺の悪性新生物	18	19	8
気道からの出血	16	22	23
大唾液腺の良性新生物	16	6	10
びまん性非ホジキン <non-Hodgkin>リンパ腫	16	10	8
その他	197	234	249

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計	222	222	208
全麻	210	208	203
局麻	12	14	5

<疾患・術式別>	令和元年度	平成30年度	平成29年度
総計	222	222	208
慢性副鼻腔炎	46	29	27
扁桃及びアデノイドの慢性疾患	19	26	19
びまん性非ホジキン <non-Hodgkin>リンパ腫	16	7	8
大唾液腺の良性新生物	16	6	10
甲状腺の悪性新生物	13	17	6
甲状腺の良性新生物	9	6	4
鼻及び副鼻腔のその他の障害	9	10	2
鼻ポリープ	8	3	3
中耳及び呼吸器系の良性新生物	7	8	6
扁桃周囲膿瘍	6	0	0
その他	73	110	123

■ 2019年度スタッフ構成

耳鼻咽喉科部長

北 南 和 彦

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本医師会 認定産業医

石 井 秀 幸

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医

耳鼻咽喉科医師

市 川 晴 之

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医

■ 主な対象疾患

メニエール病、良性発作性頭位めまい症、突発性難聴、末梢性顔面神経麻痺（バル麻痺、ハント症候群）、急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、肥厚性鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血、シェーグレン症候群、睡眠時無呼吸症候群、扁桃周囲膿瘍、扁桃病巣疾患、声帯ポリープ、喉頭麻痺、音声・嚥下障害、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍、耳下腺腫瘍、上顎癌、咽頭癌、喉頭癌、その他の頭頸部腫瘍など。

■ 特 色

きわめて多岐にわたる疾患を扱っている。地域医療の状況から扱わざるを得ないのであり、裏を返せば特色のある診療を打ち出せない状況にある。その中で、睡眠時無呼吸外来は釧根地区では当院だけが行っている専門外来である。

2020年度の目標及び方針

放射線画像診断及び放射線治療を柱として各科のニーズに対応している。

今後の新しい診断機器や診断技術、治療技術にも迅速に対応できるよう心掛けたい。

2020年度の具体的な重点項目

1. MRI更新に伴う検査体制、読影体制の整備

昨年末に2台目のMRIが最新式装置に更新された。

これで2台とも新式の装置になり、各診療科からの全検査依頼が新たな撮像方法や高速撮像にて実施可能となった。それにより従来の検査体制の刷新が必要となる。

撮像された画像から得られる情報も、今まで以上に多くなる。読影も多岐詳細にわたることとなるので、他科の要請に応じられるよう努力したい。

2. IVRについて

今年度も昨年同様、一人体制での実施になる。

今年も動脈性出血の緊急止血塞栓術のみの実施となるが、釧路市立病院と釧路赤十字病院からの依頼を含め、可能な限り対応したい。

3. 体幹部定位放射線治療の実施

転移性脳腫瘍に対しては年間10例程度の定位放射線治療を実施している。

体幹部（転移性肺腫瘍）に関しては、検証機器がないので所定の点数が取れない状態である。しかし、症例を積み重ね、年間10例程度は施行したい。

4. 「放射線ワーキンググループ」の設置

院内の多職種（特に看護師）にとって放射線治療は身近ではなく知識不足の傾向がある。

放射線治療の看護の均てん化を目的に、「放射線安全運営委員会」の下部組織として「放射線治療ワーキンググループ」を設置し運営を開始している。

2019年度の評価

・画像診断部門

昨年末から2台の新式MRI装置での検査体制となり、全依頼検査が最新式撮像法で可能となった。従来装置での検査より精密かつ正確なものとなり、疾患の診断及び治療方針にさらに貢献出来るようになったと考える。

従来、MRI検査における患者の体内金属の安全性の院内指標が存在しなかったが、依頼各科が簡便に検査の可否が判定出来るように、体内金属ガイド

ラインを作成した。中央放射線部で作成した新チェックシートと併せて、当院におけるMRI検査実施の安全性が改善された。

・治療部門

放射線治療については、院外、特に釧路赤十字病院や釧路協立病院からの照会患者が増加傾向にある。より一層の宣伝及び普及に努めたい。

2019年度スタッフ構成

放射線科部長

梶山政義

・日本医学放射線学会 放射線診断専門医

米坂祥朗

・日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医

・日本医学放射線学会 放射線治療専門医

・日本医学放射線学会 放射線科専門医

永尾一彦

・日本核医学会 PET核医学認定

・日本核医学会 核医学専門医

特色

当科は放射線画像診断及び放射線治療の双方に対応している。

CT・MRI及びRI検査は読影依頼のあるものに対して、画像診断報告書を作成している。脳、頭頸部、胸腹部、四肢など全身の検査の診断を行っているが、特に悪性腫瘍の精査やスクリーニング、変性疾患の診断が中心となる。

緊急検査は連絡を受ければ迅速に、それ以外の検査は当日～翌日中までに読影レポートを作成している。読影依頼のない検査でも、検査後に読影が必要となった症例に対しては、後日読影依頼が可能となっている。

放射線治療については、年間新患が250例程度、照射患者数が350例程度であり、当院規模の地域がん診療拠点病院としては、標準的である。

疾患的には偏りなく、広く全身の癌腫に対して照射している。

麻酔科

部長 小田俊昭

■ 2020年度の目標及び方針

患者の安全を守る手術麻酔の実行

■ 2020年度の具体的な重点項目

1. 年間2,000件の全身麻酔
2. 麻酔科医として安全かつ円滑な手術室運用を目指す
3. 局所麻酔困難患者へのかかわり
4. 術前問診票の充実を図る

■ 2019年度の評価

常駐医1名応援医2名の計3名にて診療を行った。
全身麻酔件数は2,086件うち臨時手術は192件であった。

■ 2019年度スタッフ構成

麻酔科部長

小田俊昭

- ・日本麻酔科学会 認定医

2020年度の目標及び方針

歯科口腔外科は、口腔外科疾患を中心として、口腔がんや口腔顎顔面骨折などの高次歯科医療までの診療を、頭頸部領域に関わる院内および院外の各診療科と連携しつつ行っている。また、がん支持療法科として、内科や外科系診療各科との密な院内連携により、がん治療に対する口腔機能管理も多く実施している。このような高次歯科医療とがん支持療法の2本柱に緩和療法も加え、当科へのニーズに特化した診療体制を今後もさらに強化していく。

また当科は、日本口腔外科学会認定施設であり、口腔外科の研修を希望する歯科医師への教育指導と人材育成を継続する。

2020年度の具体的な重点項目

1. 地域医療との連携

従来通り紹介・逆紹介を基本に釧根地区の歯科医院、病院、医院との密に連携した診療を行う。地域医療における医科と歯科の橋渡し役を積極的に担う。

2. 釧路赤十字病院歯科口腔外科および市立釧路総合病院歯科口腔外科との連携

口腔外科的な疾患において、可能な限り地域完結型の診療を目指す。釧路根室3次医療圏内の3つの病院歯科口腔外科が連携して地域医療に貢献できる体制作りをさらに進める。現在すでに行われている3病院間での症例検討会などに加え、2015年度より開始したNR構想に基づく釧路赤十字病院との手術応援体制をさらに充実させる。組織再建が必要な進行口腔癌については、市立釧路総合病院耳鼻咽喉科と連携し、医療圏内で完結させる体制を構築した。

3. 薬剤性顎骨壊死の診断・治療・臨床研究

医科・歯科で共に問題となっている薬剤関連顎骨壊死に対して、北海道の多施設共同研究の中心となっている知識と経験を生かし、予防や治療、さらに新しい診断技術などの開発を行う。

4. 周術期等口腔機能管理の強化

がんの支持療法科としての機能を強化し、院内他科からの要望への迅速対応を継続する。

5. 臨床研究活動

道内外の口腔外科施設との共同研究の参加、学会発表を積極的に行う。

6. 若手歯科医師の指導体制の強化

外来、病棟、手術室すべてにおいて、若手歯科医師に広く手厚い教育環境を与え、知識と技術の段階

的習得をはかる。

7. 院内活動の強化

病院内での様々な部署と連携し（NST、緩和、感染、口腔ケアなど）、所属歯科医師全てが病院内での活動に積極的に参加する。

2019年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	583	636	563
埋伏歯		270	263	258
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患		226	280	204
悪性腫瘍		15	27	31
良性腫瘍		7	8	9
顎顔面外傷		6	7	12
唾液腺疾患		2	2	3
その他		57	49	46

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	478	556	495
全	身	293	257	268
局麻(入院下)		79	114	84
静	脈	105	185	143
な	し	1	0	0
<疾患・術式別>		令和元年度	平成30年度	平成29年度
総	計	478	556	497
埋伏歯		269	262	265
歯髄及び根尖部歯周組織の疾患		136	220	179
悪性腫瘍		9	27	17
良性腫瘍		7	8	6
顎顔面外傷		9	6	12
唾液腺疾患		1	2	2
その他		47	31	16

2019年度の評価

2019年度は藤盛、角の勤務交代はなかったものの、4月に嶋崎、小川が異動し、北川、藤井が着任して歯科医師4名体制が維持された。

前年度と同様に、近隣の歯科医院を中心とした医療機関からの紹介患者が増加、また周術期口腔機能管理を主とする院内紹介患者が増加した。初診患者は前年度比90名の増の2,496名、うち院外からの紹介患者は

前年度比28名増の965名であった。外来初診は1～2週間の予約待ちの状態であった。また全身麻酔下の手術については2ヶ月待ち、静脈麻酔下の手術も1ヶ月待ちの状態が継続したが、2月中旬より新型コロナウイルス感染症対策のため、外来患者および入院患者が著しく減少した。

当院形成外科常勤医減員のため、合同で実施する進行口腔癌の手術が不可となり、前年度6件から0件となった。早期口腔癌の治療は継続しているが、進行口腔癌の治療は市立病院耳鼻咽喉科との連携により継続している。薬剤関連顎骨壊死患者の治療は積極的に実施しており、治療から臨床研究までを一貫して実施する施設として他施設からの認識が定着してきたと思われる。

院内他科と連携して手術やがん治療前後の口腔の管理を実施し、がん治療中や治療前後の合併症の抑制が期待できる「周術期口腔機能管理」が院内で完全に定着した。2020年4月からは歯科衛生士が増員されて3名となり、さらに周術期口腔機能管理への対応が可能な体制となった。手術に関する周術期口腔機能管理の算定は2014年度から2019年度の5年間で739→2,723件、化学療法・放射線療法に関する算定も139→1,332件と増加した。

このような外来および入院診療、手術の待機期間を短縮、周術期口腔機能管理の充実を円滑にすすめるため、歯科医師4名および歯科衛生士3名体制の維持が望まれる。

■ 2019年度スタッフ構成

歯科口腔外科部長

藤 盛 真 樹

- 日本口腔外科学会 専門医
- 日本口腔科学会 認定医
- 日本救急医学会ICLSコース 認定インストラクター

歯科口腔外科副部長

角 伸 博

- 日本口腔外科学会 認定医

北 川 健

- 日本口腔外科学会 認定医

藤 井 ふ み

- 日本口腔外科学会 認定医

■ 主な対象疾患

口腔顎顔面領域の

- 腫瘍（悪性ならびに良性）
- 炎症
- 薬剤性顎骨壊死
- 外傷
- 嚢胞性疾患
- 粘膜疾患
- 唾液腺疾患
- 顎関節疾患
- 埋伏歯など歯の疾患
- 歯の移植・再植術
- がん支持療法としての歯科疾患全般
- がん緩和療法としての歯科疾患全般

■ 特 色

口腔外科疾患全般を対象としているが、顎顔面領域の悪性腫瘍は、形成外科など他の診療科、市立釧路総合病院耳鼻咽喉科とのチームアプローチによって治療を行う。がん診療連携拠点病院内の歯科口腔外科として、口腔領域のがん支持療法および緩和医療の一翼を担う。

■ 臨床研修医教育内容

院内各科をローテートしている臨床研修医に対して、主診療科の指導医とともに、症例を通して歯科口腔外科的疾患に対する教育と研修のサポートを行う。

2020年度の目標及び方針

疾病の早期発見と生活習慣病の改善により、受診者の健康の保持増進及び満足度の向上を図ることを目標としている。

2020年度の具体的な重点事項

病院の最上階の絶景の部屋に診療場所が移動したことも加えて、受診される方々も広々と美しい景色と街を楽しんでくださって、気持ちよく受診していただくと様々なメリットがあると思われます。2020年度は新型コロナウイルスの影響が大きく、長期間に渡って持続しておりいまだに続いていため、キャンセルが多く年度後半に再申し込みが増加すると思われます。

2019年度実績

内 訳 (件)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一 般 健 診	1,265	1,253	1,361	1,234
特 定 健 診	404	410	418	365
特 定 保 健 指 導	49	70	23	28
日帰り人間ドック	505	534	483	504
特 殊 健 診	391	398	336	500
合 計	2,614	2,674	2,621	2,631

2019年度の評価

概ね適切な検診件数を実施することができたため、個人的には満足している。

2019年度スタッフ構成

健康診断部長

辻本和代

看護師

田中郁子

特 色

当院の健康診断部では、人間ドックをはじめ、特殊健康診断などを実施しております。

人間ドックと脳ドックの併用健診や多数のオプションを設け、様々なニーズに対応しております。また、人間ドックには、患者さんが院内を迷わないように受診者一人ひとりに女性コンシェルジュが受診が終わるまで対応しており、受診者が安心して受診できる環境を整えております。

受診者の要望のある胃カメラのSedationの導入については検討していきたいと思ひます。

栄養管理部

部長(事) 宮城島 拓 人

2020年度の目標及び方針

栄養管理室では患者への食事の提供、入院時に栄養管理計画書の作成による栄養評価、栄養相談による患者や家族への適切な栄養管理法の情報提供、NST活動、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム等のチーム医療への参加による適切な栄養管理支援を行う役割がある。

栄養指導件数を増加させることにより患者の療養支援を行い、病院の収益にも寄与することへ繋がる。チーム医療において、管理栄養士としての役割を果たすため、また、効果的な栄養指導を実施するために管理栄養士の栄養管理に関する技術の向上も必要と考える。

また、提供する食事の内容について、試行調査、定期的な検討会を実施し、入院中の患者のQOL向上へ繋がるよう取り組みを行う。

患者の円滑な入退院の支援を行なうこと、また在宅での栄養管理が地域として今後取り組むべき課題であるため地域連携も重要な課題であり、栄養士会の活動及び今年度発足されるCKDネットワーク、栄養士会鈿根支部の摂食嚥下研究会への参加により院外の同職種、他職種との共同で地域住民の患者の健康管理の向上に関する取り組みに参画していく。

2020年度の具体的な重点項目

1. 栄養指導件数の維持

昨年度外来個別指導においてはCKD、入院個別指導においては腎摘の栄養指導件数の増加があり一昨年度と比し17%の件数増加となった。引き続き、栄養指導件数の増加を目標とする。管理栄養士の院内外の研修参加をサポートし給食管理、栄養指導、チーム医療への参画と段階を経て入院・外来患者の栄養管理を行っていきけるよう栄養管理に関する知識の習得へ繋げていく。

2. 栄養管理業務の推進

NST介入患者の増加、及びNST回診の円滑な運用を検討し、栄養サポートチーム加算増を目指す。職員の入れ替わりによる管理栄養士の人員減少時に業務が円滑に進むよう業務体勢の見直しを行い、採用職員に対し、適切な教育を行うことにより栄養管理の質の維持を心がける。

3. 給食管理における改善の検討

病院給食の配下膳業務導入に際し、円滑に業務を行えるよう調整を行い職員の業務負担軽減に寄与する。

4. 緩和ケア医療への参画

当院では2019年10月より緩和ケア診療加算の算定を開始し、併せて個別栄養食事管理加算の算定を行っている。算定件数の維持、緩和ケア病棟設立へ向けた準備等を行い、当院の緩和医療の充実へ寄与できるように、業務改善の検討、人員の確保等に努力していく。

2019年度の評価

昨年度外来個別指導においてはCKD、入院個別指導においては腎摘の栄養指導件数の増加があり一昨年度と比し17%の件数増加となった。

地域連携に関しては栄養管理情報書の提供開始に向け運用を検討し運用を継続。転院患者の情報として333件/年、昨年度とほぼ同数の栄養管理情報書を作成した。

特 色

給食管理・栄養管理・治療就労両立支援部活動を実施

給食管理

一般食、特別治療食を調理し個々の病態にあわせた食事を調理し提供しているほか、特別メニュー（選択できる食事）を一般食対象に週3日（水、木、金曜日の昼・夕食）に実施。

栄養管理

栄養管理計画書の作成、栄養指導（個別、集団）の他、褥瘡回診、緩和ケアチーム、NSTに所属しチーム医療に参加。NSTは管理栄養士を専従とし、チームマネジメントを実施している。今年度から外来透析回診に参加し、外来透析患者の栄養管理を医師と共同で実施している。

治療就労両立支援部活動

出前講座として生活習慣病予防のための食事について講演を実施している。

2020年度の目標及び方針

当院の特色として、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、治療就労両立支援モデル事業があり、中央リハビリテーション部としての協力では、外来患者の受け入れ、地域包括ケア病棟の運用、緩和ケア病棟立ち上げの準備、労災疾患の予防としての企業へ出張講演活動がある。また、新人研修を含めた人材育成、安全管理や感染対策を充実させ、カンファレンスに参加するなど主治医や病棟スタッフ、退院調整看護師やMSWと連携していく。在宅支援として退院時リハビリテーション指導をすることや、退院前訪問指導に患者さんにもなるべく同行して頂き、家族も含めて安心して帰宅できるようリハビリ指導を施行したい。

2020年度の重点項目

1. 地域包括ケア病棟におけるリハビリ支援

2020年4月の診療報酬改訂により、病棟への自宅などからの入院患者4割（転棟以外の患者割合）が追加された。それにより、今年度包括ケア病棟の目標として、自宅などからの入院患者割合の促進、「4割を目標に」を挙げている。その中でリハビリとしてはサブアキュート入院（機能低下患者など）のリハビリの充実を目指す。それと同時にカンファレンスの充実（初回 中間 退院前）を図り、他職種と目標を共有して連携してより充実した退院支援を行う。原則的にはリハビリ実施者に対しては在院日数に対して1日平均2単位（1単位20分のリハビリ）以上が必要であるので、財務上2.01単位の実数を目指して行く。リハビリの相乗効果のためにもしっかりと自主訓練や家族への指導も行い機能改善に向けて自立支援を促す。

病棟に専従として技師が1名配属されている。専従技師は1日10名程度の患者を担当している。実際単位数は18～20単位程度で患者と関わっている。その他の主な業務として毎週（火・木）他職種カンファ、毎日のリハビリ実施単位数の管理などを行っている。また、当院の地域包括ケア病棟の特徴として、8西にサブアキュートで入院する患者様は除き、ポストアキュートで入棟しリハビリを行っている方に関しては専従技師と元々リハビリ担当していた技師との複数での担当で介入している。それにより、よりリハビリ時間を確保することにより、急性期のリハビリが必要な時間に手厚い介入をしている。

包括運営面ではマニュアルを充実して、専従者変

更の際にもスムーズに業務を引き継ぎ患者に不利益が出ないような運営を目指す。専従者も原則1年での交替を行い多くのスタッフが実際に経験することにより良い病棟を目指す。

2. 専門チームへの参加

当院では緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム、認知症ケアチーム、排泄ケアチームなど数多くの専門チームが活動している。専門チームの多くにリハビリスタッフもメンバーとして参加し専門職としての役割を果たすことが求められている。主には多職種との連携、情報交換等が現在の活動内容となっているが、今後はチームに所属しているスタッフを中心に、全スタッフが一定レベルの知識・技術を持てるよう研鑽していく必要があると考えている。

3. がんのリハビリテーション 周術期の関わりについて

がんのリハビリテーションは2010年度の診療報酬改定で新設されたが、当院での周術期がん患者のリハビリ介入はそれ以前から実施している。がん患者リハビリテーション料が算定可能になる前は、周術期の呼吸器リハビリとして対応しており、実際にはがん患者の周術期は肺炎予防を目的とした呼吸器への対応が中心だったため、比較的スムーズに対応できた経緯がある。現在では消化器がんの周術期対応だけではなく、胆管、胆嚢や肝臓のがんの手術に対応する等、領域は拡大している。

今後の課題としては、超高齢な方や既往があるため手術後の対応が困難なケースが増えており、周術期の対応が終了した後も廃用予防的にリハビリ介入を必要とするケースが増えていることが上げられる。それに対応する為、若手を中心にがんや呼吸器の基礎知識の向上を促し、周術期がん患者への対応が可能なスタッフを更に育成していく事が必要である。

4. 勤労者予防医療の実践

勤労者へのリハビリテーション部の対応は、担当患者様への対応に加え、昨年度は（株）三ツ輪運輸様に同社産業保健師とタイアップして、実態調査及び職場巡視の結果を基に始業体操および就労中の運動方法を検討し、導入した。

また、その取り組みについては職業災害医学会学術集会での発表や雑誌「労務事情」2020年4月号に掲載、北海道医療新聞でも取り上げて頂いた。

スタッフ各の患者様への取り組みは継続して、釧

根地域の企業へのアプローチをより強化する方法で連携を深めていき、政策病院としての労災病院の存在をアピールしていきたい。

5. 神経難病リハビリテーション

当院は帯広以東の神経難病医療の大部分を担っており、その責務は大変大きなものであると考える。

神経難病リハビリテーションはプロトコルのような系統だった治療プログラムはなく、個々の症状やバックグラウンドに応じた対応が必要である。リハビリは単に運動療法や生活訓練をすれば良いというものではなく、物理的な整備や代償手段の検討、ご家族への指導や社会資源の導入・調整などが必要なことも多い。自宅への退院支援にはケアマネジャーのほか、訪問看護師、訪問リハスタッフ、福祉用具業者などと連携が必要である。昨年は福祉用具導入の際に北海道難病連のスタッフに旭川から来館していただき、助言を頂いたケースもあった。

今後も多職種で連携し、難病患者さんが1日も長くQOLの高い生活を送っていただけるよう支援していきたい。

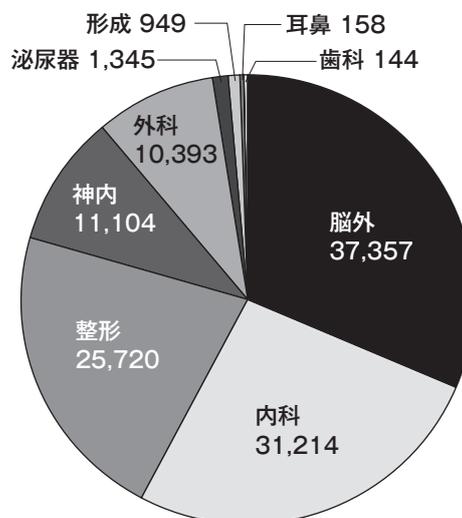
6. 休日訓練の実施

従来は年末年始やGWなどの長期休暇に対応していたが急性期病院として週末実施できていない事は数年前から問題視されていた。そこで外科術後、包括ケア病棟など段階的・試験的な実施を経て2019年11月より毎週土曜日のリハビリ訓練を開始した。理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の4名が、急性期を中心にリハビリニーズの高い患者に対し訓練を実施している。検査や入浴、会議等に影響されないため濃密な訓練が可能となっている。自分の担当以外の患者の訓練を行なう機会が増えるため、統一したシートでの申し送り・実施後の報告が日常的に行われるようになり全体の質向上の効果も期待できる。半面平日は代休で人員が実施前より少なくなったため、患者の状態により必要な訓練頻度を判断し対応している。今後は新人もシフトに加わるため祝日の実施や平日の対象患者を増やす、新患対応など業務の拡大を考えていきたい。また、休日は病棟のみで行っているため実施内容が限られてしまっている。できるだけ必要な訓練が適切に行えるよう病棟での訓練環境整備にも力を入れていきたい。

2019年度の評価

2019年度はスタッフ21名の診療体制であったが、産休・育休で3名が途中より復帰している。

当院診療科のほぼ全科からリハビリの処方があった。



診療科別リハビリ患者数

患者数は年々増加している。内科では、がん患者をはじめ、高齢患者で廃用症候群のリスクが高い場合には速やかにリハビリの処方が出される体制が構築され、外科では、周術期のリハビリの重要性が認識された結果である。

今後も各診療科に対応できるスタッフ数を確保したい。

■ 2019年度スタッフ構成

リハビリテーション科部長

津坂和文

中央リハビリテーション部長

山田毅

主任 理学療法士

猪野勝・小柳光明

田口暢秀

理学療法士

推井基陽・鈴木輝未

小松広樹・八幡恒平

磯貝美由紀・及川一也

廣瀬孝太・大道駿太郎

中條楓佳

主任 作業療法士

石田さえ子・吉川陽

作業療法士

久野紀子・加納祥子

池田美帆

主任 言語聴覚士

菅野栄子

言語聴覚士

福井あい・平山聖太

■ 主な対象疾患及び特色

【内科】・がん・肺炎・感染症、炎症など

【整形外科】・上下肢外傷・変形性関節症

・脊椎疾患など

【脳神経外科】・脳血管疾患・末梢神経疾患など

【外科】・がん・肺、肝、腸、胆道系疾患

【神経内科】・神経難病・末梢神経疾患

・脳血管疾患

【耳鼻咽喉科】・がん

【形成外科】・熱傷・がん・褥瘡

・蜂窩織炎など

【泌尿器科】・がん

【歯科口腔外科】・がん

■ 特色

中央リハビリテーション部は令和2年7月現在、理学療法士14名、作業療法士7名、言語聴覚士3名の総勢24名が配置され日々の診療を行っている。

開院当初は運動器疾患や脳血管疾患を中心に診療を行ってきた。近年は内科系、外科系問わず幅広いニーズに対応している。入院早期から介入することで、心身機能の悪化を予防するとともに、主治医や看護師と密に連携し機能回復を支援している。殆どの病棟とは週1回カンファレンスを実施し、情報や目標の共有をはかり、より質の高い訓練を安全に行えるように努力している。

対象患者の高齢化に伴い、複数の疾患と障害を持つ患者も多くなり、課題の多様化と複雑化が見られている。また訓練対象者の拡がり、医療の高度化等に伴い、スタッフに求められる知識や技術も高まっている。スタッフ個々人のスキルアップはもちろん、中央リハビリテーション部全体として、各種疾患と障害への対応能力向上を目指している。

対応患者数は年を追う毎に増加している。廃用症候群の予防的な介入依頼も多く、必要な患者に速やかに処方が出され、リハビリ開始となる体制が構築されていることは患者にとっても病院にとっても大変良いことであると考えます。

中央放射線部

部長 河野 文 一

2020年度の目標及び方針

中央放射線部は、放射線や磁場を用いた医療機器を使用して診断を行うための画像検査や、放射線を利用した治療を行う部門です。常に患者さんと接する部門ですので、患者さん寄り添った医療が提供できるように努めております。また、医療放射線被ばくの標準化への取り組みや、放射線治療の精度管理においても患者さんの安全に努めております。

昨年度は1.5Tの開口部が大きいMRIを更新することができ、2台のMRIともに最新の撮像が行えるようになりました。また一般撮影室のX線撮影装置が更新され、頭部から骨盤、骨盤から足首までを1枚の長尺対応のフラットパネルでのデジタル撮影が可能になり、撮影時間の短縮、待ち時間の短縮、患者さんの負担軽減につながっています。

今年度は新たに、最新の画像処理技術を搭載したCTを導入する予定で、最善の画像提供と、CTが2台体制になる事で、今まで1台で1日70人の撮影を行っていたのですが、導入後は余裕をもった検査が可能になり、待ち時間の短縮を見込んでいます。

診療放射線技師におきましても近年は様々な認定資格制度があります。放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士、医学物理士、検診マンモグラフィ認定診療放射線技師、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、救急撮影認定技師、医用画像情報専門技師など専門性を求められる資格があり、積極的に取得させていきたいと考えています。

最新の機器導入と、適切な技術をもって撮影、治療を行う事で、病院の診断の「要」になれるよう努力いたします。

2020年度の具体的な重点項目

1. 積極的な認定資格取得
2. 最新の技術を導入できるよう部内の勉強会
3. 計画的な機器更新準備
4. 最新の画像処理による、精密な画像の提供
5. 医療放射線被ばく管理及び、患者様への説明

2019年度の実績

一般撮影件数	44,517件
乳房撮影件数	2,182件
M R I	7,531件
C T	17,115件
歯科用 C T	546件
核医学検査	519件
透視検査	2,844件
骨密度測定	1,482件
放射線治療患者数	269件

2019年度の評価

令和元年度更新されたラージボア（大口径）1.5T MRI導入における整形領域の新規プロトコル導入、新しい3Dワークステーションの導入における各種血管等の繊細な3D画像作成や、肝臓を切除するためのシミュレーション画像の作成などの強化。年間25回開催した施設内での勉強会を通し、最新の技術や、法令等を学び知識の向上を図りました。

患者サービスや、医療安全面においてCT、MRIの検査説明用紙を改善し、検査種ごとに説明用紙を作成する方法に変更、さらにMRI検査前の体内金属のチェック方法を分かり易く変更し、より安全に検査が出来る体制づくりを行いました。

令和元年度の資格取得者は、がん拠点病院に必要とされる放射線治療における放射線治療品質管理士1名と、画像診断においてほぼ電子化されている現在、医療情報を管理するための知識を持った放射線技師が必要とされている中において、電子カルテや医事システムの知識が必要な「医療情報技師」を取得した者が1名いました。

2019年度スタッフ構成

受付 3名

診療放射線技師20名(男性技師17名、女性技師3名)

取得認定資格

放射線取扱主任者 4名

放射線治療専門技師 3名

放射線治療品質管理士 3名

医学物理士 1名

磁気共鳴専門技術者 2名

X線CT認定技師 3名

画像等手術支援認定診療放射線技師 1名

検診マンモグラフィ認定診療放射線技師 2名

医療情報技師 2名

医療画像情報専門技師 1名

主な機器構成

• 一般撮影(デジタル撮影装置) 4室

• 骨密度測定 1室

• 歯科パノラマ(歯科CT付) 1室

• 乳腺撮影装置(トモシンセシス付) 1室

• デジタル透視 2室

• 64列CT 1室

• MRI(1.5T) 2室

• 核医学検査用ガンマカメラ 1室

• アンギオ室 1室

• リニアック10MV 1室

• 治療計画用CTシミュレータ 1室

• ポータブル撮影装置 3台

• ポータブル透視装置 3台

中央検査部

部長 遊 佐 純 教

2020年度の目標及び方針

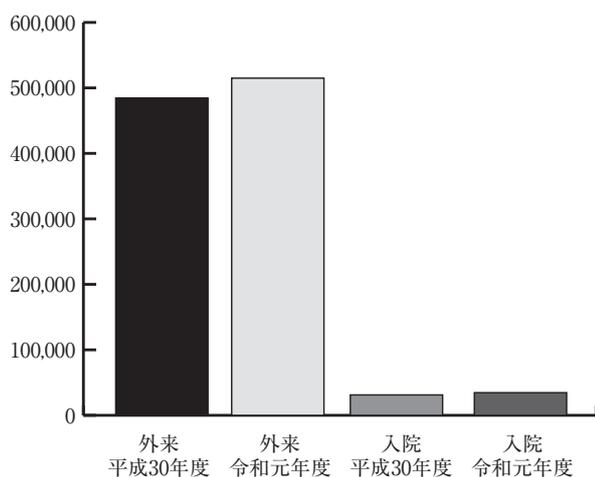
中央検査部では、勤労者医療の充実・勤労者の安全向上、病気・怪我からの早期の社会復帰に貢献するため、迅速・精密・正確な検査結果提供は使命である。これを継続するため、耐用年数を超える機器の更新を速やかに完結できるよう、また整備に力を入れなければいけない。

患者サービスやタスクシフティングでは7時45分からの早朝採血の実施と内科腹部超音波検査の取り込みを6月から開始できた。これを継続し増加できるようにスタッフ一同で取り組んでいきたい。

2020年度の具体的な重点項目

1. 内科腹部超音波検査数の増加
2. 糖尿病患者への末梢神経障害検査(神経伝導検査)の増加
3. サポートエンドとなる超音波検査装置2台の更新
4. 目視作業で行っている尿沈渣(100件/日、2019年度25,000件)の自動化への移行(中央採血室への技師投入のためにも)
5. 2021年度からの2交代制に備え各種準備を行う
6. 年休消化率の増加と残業ゼロを目指した業務の平均化(適切な人員配置)

令和元年度 検査実施料 (対2018年度)



外来 30,498,000 円
 入院 3,448,000 円
 合計 33,946,000 円の増収

	平成30年度	令和元年度	平成30年度	令和元年度
	外来	外来	入院	入院
合計(千円)	484,392	514,890	31,151	34,599

他に外注検査分では約1,200万円、検査判断料では約800万円の増収となった。また、検査管理加算料では約172万円の減収となった。

上記検査実施料を提示したが収入面では大幅な増収になったと考える。

2019年度の評価

1. 働き方改革に伴う技師育成

働き方改革に伴う医師、看護師のタスクシフティングに向け、超音波(腹部)の対応技師の育成、採血室の検査技師の常時配置に向けた採血技師の育成を重点的に実施した結果、対応技師の増加につながり柔軟な対応が可能になった。

2. 検査機器購入

全自動輸血検査システム ORTHO VISION、自動包埋装置 SAKURA Tissue-Tek VIP 6AIが導入され、輸血検査の全自動化が可能となり安全性が向上しました。また、自動包埋装置に関しても業務の効率化が図れるようになった。

3. 2019年度中央検査部内勉強会

例年どおり毎月1回開催され、検査部スタッフは各自でテーマを決めて発表し日々の業務に活用している。同時に、リスクマネージャーによるインシデント事例検討会も行われ、原因究明、改善策など活発な意見交換を行っている。

4. 内外部精度管理について、生化学、血液、血液ガスは許容範囲内で良好な結果だった。

外部精度管理

- ①日臨技精度管理調査は、98.7% (100.0%中) と良好であった。
- ②日本医師会臨床検査精度管理調査は、99.4点 (100点満点中) と良好であった。

■ 2019年度スタッフ構成

中央検査科部長

永尾 一彦

中央検査部（臨床検査技師）部長

谷口 大輔

中央検査部主任

斎藤 隆二 ・ 根本 珠恵

久末 浩樹 ・ 小笠原 由佳

及川 比佐子

中央検査部

下重 龍也 ・ 石橋 芳昭

下重 浩美 ・ 中村 明代

多田 憲司 ・ 風穴 澄香

鈴木 勝俊 ・ 小竹 美智子

今野 里南 ・ 大門 直美

川島 瑞季 ・ 高畠 麻衣

橋場 友希乃

中央検査部（事務等補助員）

佐藤 小百合

■ 認定資格

中央検査部

- 精度保証認証施設（日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会）

個人

- 日本糖尿病療養指導士
- 超音波検査士（健診、循環器、消化器、泌尿器、体表臓器、血管部門）
- 第二種ME技術検定合格者
- 細胞検査士（国際、国内）
- 特定化学物質 四ア鉛等作業主任者
- 有機溶剤作業主任者
- 血管診療技師
- 心電図認定技師
- 日本臨床神経生理学会認定技術師（脳波分野）
- 日本臨床神経生理学会認定技術師（筋電図、神経伝導分野）

2020年度の目標及び方針

部の理念として「臨床工学技士として、知識・技能の研鑽および資質の向上、生命維持管理装置をはじめとする医療機器の信頼性の向上に努め、患者様の安全に寄与することを目的とする」を掲げています。

基本方針としては以下の3つです。

1. 専門技術集団として、患者様へ質の高い医療サービスを提供するために、医師・看護師・他医療従事者と共に知識・技術・労力の向上に努めます。
2. 臨床工学技士の資格を活かす業務展開を基本とし、状況を把握し臨機応変に業務貢献します。
3. 常に問題提起し部内で議論を行い、賛同を得た上で決定事項には全員が従い業務を遂行します。

上記方針のもと、以下を目標として掲げています。

- ①自らの業務、職種に誇りが持てる臨床工学技士集団になる。
- ②医療機器管理を通じて、病院の経営に貢献する。
- ③個人の能力が各現場で発揮されるよう、満足度の高いチームにする。
- ④いかなる状況においてもチームワークを以て解決できる集団になる。
- ⑤他施設、他部門に対して積極鄭に交流を図り、視野の広い技士を目指す。
- ⑥臨床工学技士の地位・資質向上に努め、各分野において先駆的役割を果たす。

2020年度の具体的な重点項目

「医療機器管理センター」は、院内の医療機器の総合窓口の役割を担う立場として、今後も医療機器を使用するすべての現場に対応できるよう体制を整えます。臨床工学技士の業務内容として「臨床技術提供」にウェイトがあるため、部内スタッフ同士の情報共有に重点をおき、日々の診療の補助および治療手技に支障をきたさぬよう努めます。「これしかできない」という技士ではなく、呼吸・循環・代謝およびそれに付随する業務すべてにおいて、スタッフ同士が円滑にサポートできる職場環境を構築します。これに伴う、臨床へ必要な知識・技術の習得のために、さらなる各種認定技士の取得を目指します。

◎医療機器管理業務

医療機器管理センター（MEセンター）における院内医療機器の管理

◎臨床業務

①血液浄化センター

HD/HDF/IHDF/OHDFの操作および管理

②高気圧酸素治療室

治療装置の操作および管理

③病棟ラウンド

人工呼吸器/医用テレメータ/AED/除細動器/ペースメーカー関連

④消化器内視鏡センター

検査・処置介助および材料管理

⑤中央手術室

腹腔鏡手術および白内障手術に伴う装置介助

⑥アフエレーシス業務

血漿交換/血漿吸着/血液吸着/CHDF/CART/PBSC等

各診療科、各業務におけるマニュアルの再整備を行い効率よく職務に全うできる体制づくりを強化します。機器管理においては、トレーサビリティの実践により、機器にかかる時間コストおよび修理コストの軽減を図れるようにします。

院内の医療機器に関する総合窓口としての立場を関係各所に理解してもらい、無駄なコストを抑える体制を強化できるよう努めてまいります。

2019年度の実績（臨床工学技士独占業務のみ抜粋）

・高気圧酸素治療法	314件
・血液浄化	
1) 人工透析	5,708件
2) CART（腹水濾過濃縮再静注法）	55件
3) PE（血漿交換）	47件
4) PBSC（末梢血幹細胞採取）	21件
5) GCAP（顆粒球除去療法）	8件
6) CHDF（持続的血液濾過透析）	8件
・MEセンター	
1) 貸出	3,410件
2) 返却	3,609件
3) 点検	24,893件
4) 修理	593件
5) 人工呼吸器使用中点検	1,373件
6) AED 使用後解析	17件

2019年度の評価

年々、臨床業務の割合が増えてきています。スタッフの業務調整や部門毎の専属スタッフを置く等の対応をとりました。ローテーションの見直しを実施し、関係各所との情報共有および一人ひとりの業務へのモチベーションの意識改革を行いました。各領域における学会および研修やセミナー等の受講による知識の共有に時間をかけることができず、認定取得者はいませんでした。

医療機器管理による病院への貢献として、トラブルを未然に防ぐべく始業点検等の確実な実施および迅速な対応ができるさらなる体制の強化が必要と思います。

2019年度スタッフ構成

部長

佐々木 芳 浩

- 泌尿器科部長
- 日本泌尿器科学会 専門医 指導医
- 日本泌尿器科内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医

主任臨床工学技士

廣 瀬 孝 則

- 医療機器安全管理責任者
- 透析技術認定士
- 呼吸療法認定士
- 第1種消化器内視鏡技師
- MDIC（医療機器情報コミュニケーター）
- 認定医療機器管理臨床工学技士

臨床工学技士

櫻 庭 直 達

- 高気圧酸素治療専門技師
- 呼吸療法認定士
- 特定高圧ガス取扱主任者
- 特定化学物質等作業主任者

山 本 岳

綿 貫 顕 太

川 合 博 貴

大 江 悠 輔

長谷川 裕 輝

中 川 高 志

主な対象疾患

血液浄化室関連

- 糖尿病性糸球体腎硬化症/慢性糸球体腎炎/腎硬化症/多発性のう胞腎
- 2型糖尿病/IgA腎症 等

高気圧酸素治療関連

- 突発性難聴/CO中毒/閉塞性動脈硬化症/皮弁壊死/糖尿病性壊疽
- 脊髄梗塞/胸髄損傷/頸髄損傷/皮膚潰瘍/難治性潰瘍/放射線性潰瘍
- 化膿性脊椎炎/重症下肢虚血/左中指不全切断/網脈中心動脈閉塞症 等

血液浄化（人工透析を除く）関連

- 潰瘍性大腸炎/クローン病/TTP（血栓性血小板減少性紫斑病）
- 原発性マクログロブリン血症/GBS（ギランバレー症候群）
- MS（多発性硬化症）/CIDP（慢性炎症性脱髄性多発神経炎）
- 急性肝不全 等

手術室関連

- 消化器外科手術（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 泌尿器科領域（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 白内障（白内障超音波手術器使用を伴うもの）

特 色

スタッフ全員がどの業務にも従事できるような体制を確保しつつ、各診療科からのオーダーに即時対応しています。関わる業務は多岐にわたり、内科、外科、泌尿器科、眼科、神経内科、整形外科等の各診療科における臨床業務にも関わり、診療の補助を行っています。各種認定を所有している技士を有し、それぞれの専門性を生かし各領域で従事しています。医療機器に関する院内の総合窓口として、臨床における診療の補助および関わる医療機器の管理も含め、各診療科を横断的にサポートできる体制となっています。

2020年度の目標及び方針

薬剤部理念

「薬の専門職として、心ある良質な医療を提供します」

基本方針

1. 正しい調剤と薬の適正使用・管理を行います
2. 安全・安心な最良の薬物療法を提供します
3. 各々が成長と貢献を目指します

医薬品の適正使用を通じて「安全・安心で効果的な薬物治療」を提供するために、調剤をはじめ、薬品の供給・管理、薬学的管理及び服薬指導、DI（医薬品情報）業務、抗がん剤等の調製などの業務に携わっていきます。また、病棟薬剤業務における入院時の持参薬鑑別や病棟担当薬剤師による薬剤管理指導業務を積極的に実施して、患者サービスの向上、医薬品の安全管理と有効性の維持・向上のために努力します。

これらを通じて、薬剤部は診療業務における貢献、経営と連携における貢献、教育・研修と臨床研究における貢献の3つの貢献を目標としていきます。

2020年度の具体的な重点項目

1. 病棟薬剤業務の充実

病棟薬剤業務を実施して数年経つが、さらに質の高い薬物療法に積極的に介入して、医薬品の適正使用に貢献する必要がある。また、チーム医療の推進のために、医師・看護師らと連携し、これまで以上に情報の共有と患者個々に合った処方提案及びポリファーマシー対策を強化していきたい。

2. 薬剤管理指導業務の充実

薬剤管理指導業務は、薬物の有効性と安全性の向上や経営面においても大変重要な業務である。昨年度は実施率が6割程度であったが、まだまだ伸ばしていく必要がある。薬剤師を増員しながら100%の実施を目指していきたい。

3. 化学療法センターにおける業務の充実

現在、化学療法センターには3名の薬剤師が常駐して、レジメン管理・確認及び抗がん剤調製を行っている。患者数の増加に伴い、調整件数も増加している。また、がん患者の薬学的管理及び服薬指導を「がん患者指導管理料 ハ」として実践しているが、本年度は認定資格者を増やしてさらなる充実を図り、質・量ともに診療業務への貢献を目指す。

4. 医薬品安全管理体制の強化

薬物療法を安全に実施していくため、特に麻薬、毒薬、向精神薬、ハイリスク薬について医薬品安全

管理責任者を中心に全てのメディカル・スタッフが手順を励行して安全対策を推進していく。さらに医療安全管理者をはじめとする他部署の職員とも連携して、必要な安全対策・確認作業及び研修・教育を定期的に行い薬剤関連アクシデントの防止に努めていきたい。

5. 後発医薬品及びバイオシミラーの導入促進と経営面での貢献

後発医薬品の数量割合は、すでに最高目標値をクリアしているが、年々増加する後発品に対して、積極的に導入しなければ維持が困難となる。年間購入金額の大きい品目を調査し、効率の良い導入を行いたい。また、診療報酬を積極的に獲得することにより、経営面での貢献を行っていきたい。

6. 治験体制の整備と実施

SMO（治験施設支援機関）の協力のもと治験体制の整備を行って、2件の治験を開始しているのが現状である。本年度も、SMOまたは機構本部治験ネットワークからの紹介案件を中心にその実施可能性を十分検討し、関係各位と協力して治験受託・実施に向け取り組んでいきたい。

7. 専門・認定薬剤師の育成

薬剤師が薬の専門職として十分な力を発揮して成果をあげられるよう、常日頃から自己研鑽に励むとともに、各種専門・認定薬剤師の取得・更新をサポートできる部内の教育・研修体制を整備し支援していく。

8. 働きがいのある職場作り

一人一人の薬剤師が働きがいのある職場であることを実感できるよう、薬剤部の環境整備に努めるとともに活気に溢れお互いに協力し合えるような人間関係の構築に努めていく。

2019年度の評価

2019年度は、薬剤師の欠員が補充されず前年度と同様薬剤師17名、嘱託1名と薬剤助手2名で業務を行った。最初は新人薬剤師の教育に時間を要したが、徐々に病棟薬剤業務と化学療法センターの業務も軌道に乗り、薬剤管理指導業務の算定件数も徐々に増加していた。新型コロナの影響により病棟の入院数が減少している中、薬剤管理指導件数は多少減少傾向があるものの、大きな落ち込みはみせていない。薬剤師それぞれの努力が伺えた。

経営面においては、薬剤管理指導業務の算定件数が全体としてやや減少したが、病棟薬剤業務を通年実施するとともに、後発品への積極的な切替えにより薬品費の削減が達成された。同様に数量ベースにおいても前年度の87.4%から増加して90.1%（2019年度平均）となり、後発医薬品使用体制加算1の算定要件である85%以上を大きくクリアすることができた。

教育・研修、研究面においては、薬学生3名の10週間にわたる実務実習を完遂することができた。また、専門・認定薬剤師の育成については、がん領域で日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師1名、日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師1名となり念願のがん認定薬剤師の複数薬剤師体制が確立した。さらに、日本緩和薬物療法認定薬剤師1名が新規で取得し、益々がん領域での充実が図られた。その他、新設された日病薬の病院薬学認定薬剤師も合計5名取得することができた。さらに、各分野を担当する薬剤師が自己研鑽に励むとともに院内・外の研修会の講師や学会発表を行い、他の医療スタッフや保険薬局薬剤師、さらには地域住民（小学生を含む）等に対して教育的な立場で積極的に取り組むことができた。

2019年度スタッフ構成

スタッフ：20名

[内訳]

- 薬剤師 17名
- 嘱託 1名
- 助手 2名

取得認定

- 日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師 5名
- 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 4名
- 日本薬剤師研修センター認定薬剤師 9名
- 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 8名
- 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 1名
- 日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師 1名
- 日本緩和薬物療法認定薬剤師 1名
- 日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師 1名
- 日本糖尿病療養指導士 2名
- 日本静脈経腸栄養学会認定栄養サポートチーム専門療法士 2名
- 日本医療情報学会認定医療情報技師 1名

特色

薬剤部では病棟薬剤業務（道東地区初）及び薬剤管理指導業務を積極的に展開し、全病棟に担当薬剤師を配置してチーム医療に積極的に関わっている。院内の医師、看護師、他のメディカル・スタッフとも密に連携して薬の専門職としての職能を十分発揮している。薬剤部内には、がん薬物療法認定、外来がん治療認定、緩和薬物療法認定、NST専門療養士、糖尿病療養指導士、HIV感染症薬物療法認定など各種認定・専門資格を有した薬剤師がそれぞれの専門性を生かして多数活躍しています。特に抗がん剤の調製件数は道内トップレベルで、がん治療及び緩和領域に貢献しています。また、学会発表・講演会など積極的に取り組んでおり、日々自己研鑽に励んでいます。

看護部

看護部長 成田 美弥子

2020年度の目標及び方針

看護部理念

「人としての尊厳を守り、安全・安心・
優しさのある看護を実践します」

基本方針

1. 患者さんの権利を守り、その人らしさを大切に
した看護を実践します。
2. 専門知識・技術を高め、科学的根拠に基づいた質
の高い看護を実践します。
3. 全ての医療従事者と連携し、チーム医療に貢献
します。
4. 働く人々の持てる力を支援し、健康づくりに貢献
できる看護を実践します。

2020年度の具体的な重点項目

「私達の目指す看護」

1. 地域連携を密に行い、円滑な入退院を支援し、地
域包括ケアシステムの推進に貢献する。
今後は救命・救急・治癒・社会復帰という病院完
結型医療から病気と共存しながら生活の維持・向上
を目指す医療、患者を地域で支える医療に重点が移
行します。
広い視野でその先を予測する、看護の専門性を活
かした関りをします。
2. 認知症に対する理解を深め、適切な看護を提供す
る。
認知症看護は最後まで人としての尊厳を保たせる
という課題があります。看護師一人ひとりが確かな
知識・技術を持って看護を提供することで患者の負
担が軽減し看護師の負担も軽減します。
3. 専門職として誇りの持てる看護を実践する。
提供した看護を「対象にとって最良か」を常に問
い、自信をもってケアを行います。提供した看護に
より回復過程が促進され、ケアの成果を得ることは
看護のやりがい感に直結します。

2019年度評価

認知症看護の充実を目指し、認知症ケア能力向上委
員会を立ち上げ研修会の開催、加算状況の把握、認知
症ケアマニュアルの変更、事例検討等を行いました。
認知症看護認定看護師の誕生とともに、認知症ケアチ
ームの活動を開始いたしました。その結果認知症ケア
加算1の取得ができ128%※の件数上昇があり、認知症
ケアが拡充されたと評価しています。今年度は各部署

から委員を招集し、活動のさらなる充実を目指します。

地域包括ケアシステムの根幹に「早期に住み慣れた
場所に戻る」ことがあります。入院決定の時点から入
院中及び退院後の生活をイメージした関りにより、円
滑な退院支援を目指しました。入退院支援看護師を4
名配置し、PFM (Patient Flow Management) を開
始し、入院前から問題を予測し、早期からの関わりを
実現いたしました。一括で予定入院患者の情報収集・
スクリーニング・各種の説明を行い、病棟看護師の新
入院にかかる機械的な時間が短縮されベッドサイドケ
アの充実に繋がりました。

看護記録は叙述記録を減らし、機械的な入力形態を
推進しました。文字数制限があり、簡潔に伝える技術
の向上にもつながっています。働き方改革に対しては
PFM開始、業務の委譲、記録の見直し等の業務改善
の結果、超過勤務が一人当たり月平均2.3時間減少し
ました。今後も看護とは何かを追求し、質の高い看護
を目指します。

※認知症ケア加算

件数 2018年度：10,796件
2019年度：13,820件
上昇率 $13,820 / 10,796 \times 100 = 128\%$

2019年度活動実績

1. 就業状況

表1 看護部職員状況 (2019年4月現在)

	看護師	准看護師	看護補助者	合計
正規	303	6	1	310
嘱託	10 (再雇4)	2	21 (再雇1)	33
合計	313	8	22	343

表2 2019年度退職者数及び離職率

	退職者数 (内定年・転任)	離職率
正規	28(9)	7.6%
(内新卒)	0	0%

2. 看護実習生の受け入れ

表3 看護実習生受け入れ実績

学校名	延べ人数
釧路労災看護専門学校	2,812

3. 小中高校生の職場体験受け入れ

表4 小中高校生 職場体験受け入れ実績

学校名	学年	人数	実施日
札幌医療保健大学	4年生	1	5月24日
美原中学校	2年生	3	6月21日
札幌保健医療大学	3年生	1	7月29日
別海高等学校	2年生	1	7月31日 ～8月2日
横浜労災看護専門学校	2年生	2	8月7日
	3年生	2	
共栄中学校	2年生	3	10月17日
青陵中学校	2年生	3	10月24日
光陽小学校	6年生	3	11月1日
鳥取中学校	2年生	3	11月14日
高校生一日看護体験		18	9月24日

4. 施設間交流研修受け入れ

表5 施設間交流研修受け入れ実績

研修内容	所属施設	人数
褥瘡予防	町立厚岸病院	1
腎臓疾患看護	釧路協立病院	1

5. 研修受講状況

表6 労働者健康安全機構 参加実績

研修名	人数	研修名	人数
医療安全対策研修	1	中堅看護師研修	10
管理者研修Ⅰ	2	医療メデイエーション (基礎編)	1
管理者研修Ⅲ	2	医療メデイエーション (フォローアップ編)	1
新任管理者研修	2	両立支援基礎編	1
継続教育担当者研修	2		

表7 北海道看護協会等主催研修 参加実績

研修名	人数	研修名	人数
看護研究一看護研究計画書の作り方	1	糖尿病重症化予防(フットケア)	1
看護研究一看護研究に使える統計学	1	リスクマネジメントアドバンス編	3
研究をクリティックしてみよう	1	現場で活かせる感染管理	4
看護研究のまとめ方とプレゼンテーション	1	退院支援の基礎知識	15
看護倫理	14	認知症ケア対象を深く理解するために	11
その人らしさを支えるサポート	1	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	7
今こそベテランナースの力を活かすとき	1	看護職員認知症対応力向上研修	2
がん化学療法の基礎知識	2	病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上	2
基礎から学ぼうがん看護	2	認知症ケア	2
目指せ排泄ケアの達人	2	その人らしい最期を迎えるために	4
災害看護の基本的知識	5	看護補助者の活用推進	5
災害看護Ⅱ	1	看護管理のはじめの一步	4
論理的文書の作成	2	新人看護職員研修一実地指導者一	1
家族看護	3	終末期を迎える患者・家族の退院支援に必要な看護師の連携	12
摂食・嚥下障害ケアの基本を学ぼう	4	在宅療養移行支援	2

表8 学会等資格認定取得研修 参加実績

研修名	人数
ストーマリハビリテーション	1

6. 専門看護師・認定看護師公開講座

開催日：2019年8月31日（土） 12：30～16：30

表9 講義内容と参加人数

分野名	研修テーマ	参加人数
がん性疼痛看護	疼痛ケアで看護をつなぐ	43名
認知症看護	認知症の基礎知識と認知症の人の世界～その人が体験していること～	48名
感染管理	ベッドサイドの感染対策～耐性菌を増やさない～	43名
皮膚・排泄ケア	“IAD(失禁関連皮膚炎)”をもっと知ろう！～IADの予防と管理～	43名

7. 院外講師派遣実績

表10 2019年度院外講師等派遣実績

実施日	氏名	研修会名	依頼元・対象など
5月26日	門脇 郁美	NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会 北海道支部年次大会	日本ホスピス緩和ケア協会
6月15日	馬場かおり	日本感染管理ベストプラクティス “Saizen” 研究会釧路ワーキンググループ	日本感染管理ベストプラクティス “Saizen” 研究会
7月27日	中村 公子	コンバテックストーマケアセミナー in釧路	コンバテックジャパン(株)
7月4日 11月6日 2月3日	門脇 郁美	がん教育出前講座	北海道保健福祉部
9月7日	中田 沙織	日本手術看護学会北海道地区セミナーⅣ	日本手術看護学会 北海道地区
10月10日	馬場かおり	施設におけるインフルエンザの予防と蔓延防止 について	北海道釧路保健所
10月17日	喜多 智子	総合的な学習の時間	釧路市立共栄学校
11月16日	佐々木祐美	Myeloma Conference in Eastern Hokkaido	ヤンセンファーマ(株)
1月30日	馬場かおり	感染管理対策について	社会福祉法人アシリカ 多機能型通所施設はばたき
2月8日	雪田 悦子	第2回道東支部主催 移植医療勉強会	北海道移植医療推進財団

表11 非常勤講師派遣実績

学 科 目	時間数	学生	講 師 名	依頼校
基礎看護学方法論Ⅰ 安全と感染予防	10時間	1学年	感染管理認定看護師 馬場かおり	釧路医師会看護専門学校
成人看護学方法論Ⅰ 慢性期(糖代謝)	11時間	1学年	師長補佐 加藤真由美	釧路医師会看護専門学校
成人看護学方法論Ⅰ 透析療法の看護	5時間	1学年	透析看護認定看護師 伊藤織忠	釧路医師会看護専門学校
成人看護学方法論Ⅰ 呼吸機能障害	14時間	1学年	師長補佐 齊藤聡子	釧路医師会看護専門学校
成人看護学方法論Ⅱ 褥瘡	4時間	1学年	皮膚・排泄ケア認定看護師、 看護師長 中村公子	釧路医師会看護専門学校
成人看護学方法論Ⅲ 周手術期 (ストーマケア)	4時間	2学年	皮膚・排泄ケア認定看護師、 看護師長 中村公子	釧路医師会看護専門学校
成人看護学方法論Ⅳ 終末期	10時間	2学年	がん看護専門看護師 門脇郁美	釧路医師会看護専門学校
病態治療学Ⅴ 治療法概説(麻酔・放射線)	5時間	2学年	がん放射線療法看護認定看護師 野呂あゆみ	釧路医師会看護専門学校
専門基礎分野 感染症学 感染予防	12時間	1学年	感染管理認定看護師 馬場かおり	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 治療論 放射線療法の理解	4時間	1学年	がん放射線療法看護認定看護師 野呂あゆみ	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 治療論 化学療法の理解	8時間	1学年	がん化学療法看護認定看護師 村山由佳子	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 疾病と治療Ⅴ 女性生殖器：乳腺	4時間	1学年	乳がん看護認定看護師 小野紫穂	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 看護関係法規 医療安全、 看護事故事例	14時間	2学年	医療安全管理者 岩澤由美	釧路労災看護専門学校
専門基礎分野 労働と健康 治療と職業 生活の両立支援の実例(具体例)	2時間	2学年	がん看護専門看護師 門脇郁美	釧路労災看護専門学校
専門分野 臨床看護総論 急性期・周手 術期看護	6時間	2学年	手術看護認定看護師 中田沙織	釧路労災看護専門学校
専門分野 臨床看護総論 終末期看護	4時間	2学年	がん看護専門看護師 門脇郁美	釧路労災看護専門学校
専門分野 臨床看護総論 主要症状と看護：疼痛	2時間	2学年	がん看護専門看護師 門脇郁美	釧路労災看護専門学校
専門分野 臨床看護総論 治療処置に伴う看護：放射線療法	2時間	2学年	がん放射線療法看護認定看護師 野呂あゆみ	釧路労災看護専門学校

学 科 目	時間数	学生	講 師 名	依頼校
専門分野 成人看護学援助論Ⅰ 腎・泌尿器系	6時間	1学年	皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師長 中村公子	釧路労災看護専門学校
専門分野 成人看護学援助論Ⅱ 消化器系（食道・胃・大腸）	12時間	1学年	皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師長 中村公子	釧路労災看護専門学校
専門分野 成人看護学援助論Ⅲ 血液・造血器官系・免疫系	10時間	2学年	がん化学療法看護認定看護師、看護師長 佐々木祐美	釧路労災看護専門学校
専門分野 成人看護学援助論Ⅲ 女性生殖器系	4時間	2学年	乳がん看護認定看護師 小野紫穂	釧路労災看護専門学校
災害看護	4時間		梅川恵美子	帯広看護専門学校

8. 看護研究発表

北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表
会（2019.11.16）

①院内発表

・外来：小野 紫穂

乳がん患者の両立支援に関する看護師の役割

・血液浄化センター：鈴木 麻衣 太田 千秋

山崎 由佳 道念 智美 矢幡 由佳
駄場さおり 伊藤 織恵

透析患者の行動変容をもたらした紙芝居を併用した服薬指導

・化学療法センター：村山由佳子 佐々木祐美

三浦 郁恵 野澤 美佳 佐々木朋子
寺本 沙織 松田 由紀 原田 一顕
小林 良充 宮城島拓人

化学療法センターの移設、拡充における課題の検討

北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表
会（2019.11.16）

・5東：松浦 理沙 石塚 俊哲 田口沙由里

佐々木祐美 江端 浩 吉田 匠
宮城島拓人

同種造血幹細胞移植後患者の予防接種
-費用助成が導入された1事例の報告-
第42回日本造血細胞移植学会総会（2020.3.6）

・5東：中原 志穂 石黒 聡美 松浦 理沙

佐々木祐美 熊谷万里恵 若生 里紗
疋田 綾音

小室 拓人 小田いずみ 田口 理乃
江端 浩 吉田 匠 石塚 俊哲
矢澤 敏 宮城島拓人

AYA世代移植後患者へ退院前訪問の有用性
第42回日本造血細胞移植学会総会（2020.3.6）

・5東：藤枝 杏沙 松浦 理沙 佐々木祐美

江端 浩 吉田 匠 松澤 美祐
木下 琴美 斉藤 夢乃 川嶋 慧

菅原 早希 田口沙由里 田口 李砂
山下 美沙 尾野 幸子 大内 華代
宮城島拓人

非同種造血幹細胞移植施設での同種移植患者の受け入れ
第42回日本造血細胞移植学会総会（2020.3.7）

②院外発表

・外来：小野 紫穂 野呂あゆみ

乳がん患者の放射線皮膚炎のスキンケア指導～スキンケア開始時期について～
道東画像診断・治療ケア研究会（2019.8.24）

・手術室：吾妻 堯 中田 沙織 小瀧さつき

A病院手術室の術中急変対応への取り組み
-初期対応統一化を目指して-
第33回日本手術看護学会（2019.10.11）

・外来：小野 紫穂

乳がん患者の両立支援に関する看護師の役割
日本乳癌学会北海道地方会（2019.10.19）

・手術室：吾妻 堯 中田 沙織 小瀧さつき

A病院手術室の術中急変対応への取り組み
-初期対応統一化を目指して-
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表
会（2019.11.16）

・4西：本間 美記 太田 涼子 佐藤 貴美

神田みゆき
泌尿器科領域における腰椎麻酔後の安静時間を短縮して
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表
会（2019.11.16）

・7西：高田 慶子 石谷 瑞穂

ALS患者の「病い」の経験の語りから見えた看護の一考察

III. 委員会報告

(1) 委員会一覧	57	血液浄化室安全管理委員会	93
(2) 委員会活動報告		在宅医療運営委員会	94
・倫理委員会	58	公舎管理委員会	95
・地域医療支援病院運営委員会	59	栄養管理／NST委員会	96
・院内研修委員会	60	図書委員会	98
・院内感染対策委員会	61	脳死判定委員会	99
・化学療法委員会	62	省エネルギー推進委員会	100
・臨床研修管理委員会	63	防災委員会	101
・医師研修プログラム委員会	64	手術部運営委員会	102
・薬事／臨床研究審査委員会	66	輸血療法委員会	103
・DPC／クリニカルパス委員会	70	医療ガス安全管理委員会	104
・地域医療連携総合センター運営委員会	72	褥瘡対策委員会	105
・HIV運営委員会	74	診療用放射線／放射線安全運営委員会	107
・診療医事業務／査定減対策委員会	75	中央検査部管理運営委員会	108
・診療情報／個人情報管理委員会	76	保育委員会	110
・医療安全推進委員会	78	健診業務体制整備委員会	111
・医療情報システム委員会	80	広報編集委員会	112
・機器等整備委員会	82	病院誌「やちぼうず」編集委員会	114
・救急診療運営委員会	84	衛生委員会	115
・緩和医療委員会	86	患者サービス向上委員会	117
・臓器提供委員会	89	病院機能評価委員会	119
・禁煙実行委員会	90	ドクターズクランク運営委員会	120
・がん診療連携拠点病院運営委員会	91	勤務医／看護職員等負担軽減対策委員会	121
・診療材料等検討委員会	92	医学系研究利益相反管理委員会	122



委員会一覧

- 倫理委員会
- 地域医療支援病院運営委員会
- 院内研修委員会
- 院内感染対策委員会
- 化学療法委員会
- 臨床研修管理委員会
- 医師研修プログラム委員会
- 薬事／臨床研究審査委員会
- DPC／クリニカルパス委員会
- 地域医療連携総合センター運営委員会
- HIV運営委員会
- 診療医事業務／査定減対策委員会
- 診療情報／個人情報管理委員会
- 医療安全推進委員会
- 医療情報システム委員会
- 機器等整備委員会
- 救急診療運営委員会
- 緩和医療委員会
- 臓器提供委員会
- 禁煙実行委員会
- がん診療連携拠点病院運営委員会
- 診療材料等検討委員会
- 血液浄化室安全管理委員会
- 在宅医療運営委員会
- 公舎管理委員会
- 栄養管理／NST委員会
- 図書委員会
- 脳死判定委員会
- 省エネルギー推進委員会
- 防災委員会
- 手術部運営委員会
- 輸血療法委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 褥瘡対策委員会
- 診療用放射線／放射線安全運営委員会
- 中央検査部管理運営委員会
- 保育委員会
- 健診業務体制整備委員会
- 広報編集委員会
- 病院誌「やちぼうず」編集委員会
- 衛生委員会
- 患者サービス向上委員会
- 病院機能評価委員会
- ドクターズクラーク運営委員会
- 勤務医／看護職員等負担軽減対策委員会
- 医学系研究利益相反管理委員会

■ 目的と方針

当院で行われる医療行為について、リスボン宣言及び医師の職業倫理指針を尊重して、医の倫理に基づいて適正に行われることを審査する。

■ 委員会の構成

委員：11名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・院内委員：9名
- ・院外委員：2名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日

倫理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2020年3月5日(木)	10名	91.0%

■ 審議内容**(1) 2020年3月5日(木)**

- ・「アルコール代謝遺伝子活性と飲酒が胃癌内視鏡切除後の異時性多発胃癌発生に及ぼす影響」について
- ・「日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 構築に関する研究」について
- ・倫理委員会規程及び構成(案)について

地域医療支援病院運営委員会

委員長 高橋 弘 昌

■ 目的と方針

本委員会は、地域のかかりつけ医等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保のために必要な支援を行うよう定めた、地域医療支援病院に関する事項について審議し、外部委員から病院の管理者に意見を述べるものとする。

■ 2020年度の目標

1. 地域医療機関からの紹介患者に対する医療提供を行い、地域医療支援病院の承認要件の達成。
2. 地域医療機関との医療機器及び開放病床などの共同利用の促進。
3. 救急医療の提供。
4. 地域の医療従事者及び市民への研修会、講演会の実施。

■ 委員会の構成

委員：22名

(2020年3月現在、書記・事務局を含む)

[内 訳]

- ・院内委員：10名
- ・院外委員：12名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

地域医療支援病院運営委員会（4回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年5月23日(木)	18名	90.0%
第2回	2019年9月6日(火)	20名	100.0%
第3回	2020年1月16日(木)	20名	100.0%
第4回	2020年2月25日(火)	20名	100.0%

■ 審議内容

(1) 2019年5月23日(木)「大会議室」

- ・業務実績報告について
- ・患者満足度調査結果について
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

(2) 2019年9月9日(火)

- ・業務実績報告について
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

(3) 2020年1月16日(木)

- ・業務実績報告について
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

(4) 2020年2月25日(火)

- ・業務実績報告について
- ・病病・病診連携サービス実態調結果報告について
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

■ 年間活動実績

業務実績	2018年度	2019年度
紹介率	72.6%	77.1%
逆紹介率	62.9%	74.0%
開放病床		
内科	0件	0件
歯科	0件	0件
高額医療機器共同利用		
リニアック	314件	210件
C T	82件	84件
MR I	12件	12件
内視鏡	2件	2件
登録医図書室利用	2件	2件
カンファレンス参加状況		
内科	0件	0件
歯科	13件	8件
講演会開催		
医療従事者向け講演会	5回	7回
市民向け講演会等	7回	8回

目的と方針

院内研修委員会は職員研修会の企画及び実施を円滑に遂行し、職員の資質向上を図ることを目的とする。

委員会の構成

委員：16名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：3名
- ・医療職：5名
- ・看護学校教員：1名
- ・事務局：4名

年間活動内容

(1) 2019年12月25日(水)「小会議室」

- ・令和2年度職員研修会に係る計画案原案作成

(2) 2020年2月19日(水)「持ち回り開催」

- ・令和2年度職員研修会に係る開催計画についての承認

年間活動実績

2019年度研修会開催実績(9回開催)

開催日	区分	内 容 (テーマ)	講 師	開催日	開始時間	参加者 (外部含む)
4月	接遇	医療職に本当に必要な接遇を身につける	e-learning 同日3回開催 1回約30分	4月25日	①12:20 ②17:30 ③18:20	138名
5月	コンプライアンス	改正個人情報保護法について 情報システム(電子カルテ)使用の注意点 法令違反の実例	梶法律事務所 梶弁護士	5月16日	17:30～ 18:15	34名
6月	医療安全	病院の職員みんなで「医療安全」を考えてみよう ～患者安全に必要なことを知る～	e-learning 同日4回開催 1回約30分	6月25日	①12:20 ②16:40 ③17:20 ④18:00	234名
7月	感染対策	アウトブレイク対策 ～薬剤耐性菌と抗菌薬の適正使用を知ろう～	e-learning 同日3回開催 1回約30分	7月25日	①12:20 ②17:30 ③18:10	256名
8月	災害対策	病院スタッフの災害時の対応、気を付けること 火災発生の注意点について 等	釧路市消防本部	8月8日	17:30～ 18:30	41名
9月	認知症	優しさを伝えるケア技術(認知症研修会)	ユマニチュード 認定インストラクター 金沢小百合氏 (株)エクサウィザーズ	9月20日	17:30～ 18:30	48名
10月	在宅医療	在宅医療について ～3つのLIFEと継続看護マネジメント～	北海道医療大学 看護福祉学部看護学科 地域保健看護学 講師 地域看護専門看護師 川添恵理子氏	10月30日	18:00～ 19:00	18名
11月	医療安全 医薬品 安全管理	当院のインシデント・アクシデントについて (H31年度) 麻薬の管理の注意点	医療安全管理者 岩澤 由美氏 薬剤部長 重共孝一氏	11月28日	17:30～ 18:00	215名
1月	感染対策	みんなも知ろう! 新型インフルエンザと 当院の対応 インフルエンザ～薬のはなし～	院内感染管理者 馬場かおり氏 薬剤部 大森健太郎氏	1月30日	17:30～ 18:15	202名

院内感染対策委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

MRSA・HBV・HCV等の感染の防止に資することを目的とした病院長の諮問機関とする。

■ 2020年度の目標

1. 院内感染の調査研究
2. 院内感染の防止対策
3. 院内感染症に対する職員の啓発

■ 委員会の構成

委員：21名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：7名
- ・看護師：4名
- ・医療職：5名
- ・事務局：5名

■ 年間活動と実績

2019年度開催日と協議内容 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月16日(火)	21名	100.0%
第2回	2019年5月21日(火)	21名	100.0%
第3回	2019年6月18日(火)	19名	90.5%
第4回	2019年7月16日(火)	19名	90.5%
第5回	2019年8月20日(火)	21名	100.0%
第6回	2019年9月17日(火)	21名	100.0%
第7回	2019年10月15日(火)	20名	95.2%
第8回	2019年11月19日(火)	19名	90.5%
第9回	2019年12月17日(火)	19名	90.5%
第10回	2020年1月21日(火)	19名	90.5%
第11回	2020年2月21日(火)	19名	90.5%
第12回	2020年3月17日(火)	20名	95.2%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月16日(火)「小会議室」
 - ・平成30年度感染必須研修参加報告
 - ・平成30年度細菌検出状況・針刺し・血液曝露事故結果
 - ・感染防止対策加算地域連携相互ラウンドについて
- (2) 2019年5月21日(火)「小会議室」
 - ・院内感染対策マニュアルの改定について
 - ・MRSA発生、解除報告書式の変更について
- (3) 2019年6月18日(火)「小会議室」
 - ・ダフクリア錠の新規導入について
 - ・冷却塔水のレジオネラ培養検査報告
 - ・検出菌薬剤別感受性報告
- (4) 2019年7月16日(火)「大会議室」
 - ・院内感染対策マニュアル改定及びダフクリア使用

届出書について

- ・患者浴槽水のレジオネラ培養検査報告
- (5) 2019年8月20日(火)「小会議室」
 - ・院内感染対策マニュアルの改定について
 - ・給水、給湯、冷却塔水のレジオネラ培養検査報告
 - ・消化器軟性内視鏡定期培養検査報告
 - (6) 2019年9月17日(火)「大会議室」
 - ・感染防止対策加算地域連携相互ラウンドの実施について
 - ・令和元年度感染必須研修参加率について
 - ・インフルエンザワクチンの供給量について
 - (7) 2019年10月15日(火)「大会議室」
 - ・院内感染対策マニュアルの改定について
 - ・冷却塔水、給水、給湯のレジオネラ培養検査報告
 - (8) 2019年11月19日(火)「小会議室」
 - ・院内感染対策マニュアルの改定について
 - ・感染防止対策加算地域連携相互ラウンド他者評価について
 - ・検出菌薬剤別感受性報告
 - (9) 2019年12月17日(火)「小会議室」
 - ・患者浴槽水のレジオネラ培養検査報告
 - ・消化器軟性内視鏡定期培養検査報告
 - (10) 2020年1月21日(火)「小会議室」
 - ・面会制限に関するポスターについて
 - ・主要菌種別抗菌薬感染率について
 - (11) 2020年2月21日(火)「小会議室」
 - ・新型コロナウイルス感染症における対応について
 - ・院内感染対策マニュアルの改定について
 - (12) 2020年3月17日(火)「小会議室」
 - ・令和2年度委員会規程(案)について
 - ・新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制について
 - ・令和元年度感染必須研修参加報告
 - ・患者浴槽水のレジオネラ培養検査報告

■ 年間活動実績 (2019年度)

- ・MRSA・MDRP発生報告
- ・主な細菌検出と針刺し状況報告
- ・院内ラウンド報告
- ・耐性菌ラウンド報告
- ・材料・診療科・病棟別検出菌数報告
- ・4類・5類感染症発生件数報告
- ・保育所・栄養管理室、大腸菌検出報告
- ・抗生剤・抗MRSA薬使用状況報告

■ 目的と方針

本委員会は、当院における外来化学療法を安全に実施することを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 学療法センターの円滑な運営を図るため、化学療法の運営に関する事項、及びその他必要と認められる事項を審議する。
2. 院内化学療法レジメンの妥当性を審議し、整備する。
3. 化学療法に関する実績分析と安全対策に関することを審議する。

■ 委員会の構成

委員：14名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：6名
- ・看護師：3名
- ・医療職：3名
- ・事務局：2名

■ 年間活動と実績

2019年度開催日と審議内容（4回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年6月21日(金)	12名	85.7%
第2回	2019年9月27日(金)	14名	100.0%
第3回	2019年12月24日(金)	14名	100.0%
第4回	2020年3月25日(水)	12名	92.3%

■ 年間活動実績

●外来化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
457	439	419	525	544	501	499	434	458	472	461	510	5,719

※対前年度比：1,081件の増

●入院化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
170	214	193	165	163	143	183	177	255	222	227	219	2,331

※対前年度比：▲494件の増

■ 審議内容

- (1) 2019年6月21日(金)「化学療法センター内カンファレンスルーム」
 - ・新規プロトコルの申請（2件）
 - ・令和元年度入院・外来化学療法患者数について
 - ・軟膏・クリームの使用法のリーフレットの使用について
- (2) 2019年9月27日(金)「化学療法センター内カンファレンスルーム」
 - ・新規プロトコルの申請（2件）
 - ・令和元年度入院・外来化学療法患者数について
 - ・テレホン服薬管理サポートでの薬薬連携に向けた取組について
- (3) 2019年12月24日(金)「化学療法センター内カンファレンスルーム」
 - ・新規プロトコルの申請（6件）
 - ・令和元年度入院・外来化学療法患者数について
- (4) 2020年3月25日(水)「化学療法センター内カンファレンスルーム」
 - ・新規プロトコルの申請（1件）
 - ・令和元年度入院・外来化学療法患者数について
 - ・2020年度委員会規程等の見直しについて

臨床研修管理委員会

委員長 宮城島 拓 人

■ 目的と方針

臨床研修管理委員会は、臨床研修医（初期・後期）の受入等について円滑な実施を図ることを目的とする。

■ 2020年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。

■ 委員会の構成

委員：27名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：12名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：1名
- ・事務局：5名
- ・外部委員：8名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日

臨床研修管理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2020年3月17日(火)	23名	85.1%

■ 審議内容

(1) 2020年3月17日(火)「大会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・令和2年度初期臨床研修（1年次）ローテーション（案）について
- ・令和2年度初期臨床研修（2年次）ローテーション（案）について
- ・2020年度医師臨床研修マッチングのスケジュールについて
- ・医師研修プログラム委員会及び臨床研修管理委員会規程・行動指針・構成（案）について
- ・EPOC2使用に伴う患者向け包括同意書に係る掲示（案）について

目的と方針

医師研修プログラム委員会は、臨床研修医および専攻医の研修に対し、円滑な実施及び評価を図ることを目的とする。

2020年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。また、各基幹施設に設置される管理委員会と連携を図り、プログラム委員会として専攻医の研修を管理、評価する。

委員会の構成

委員：19名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：12名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：1名
- ・事務局：5名

年間活動と実績

2019年度開催日

医師研修プログラム委員会 (11回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月16日(火)	17名	89.4%
第2回	2019年5月21日(火)	15名	78.9%
第3回	2019年6月18日(火)	17名	89.4%
第4回	2019年7月16日(火)	17名	89.4%
第5回	2019年8月20日(火)	17名	89.4%
第6回	2019年9月17日(火)	16名	84.2%
第7回	2019年10月15日(火)	17名	89.4%
第8回	2019年11月19日(火)	16名	84.2%
第9回	2019年12月17日(火)	17名	89.4%
第10回	2020年1月21日(火)	17名	89.4%
第11回	2020年2月18日(火)	16名	84.2%

審議内容

(1) 2019年4月16日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・臨床研修指導医講習会受講状況について
- ・病院見学の受け入れ報告について
- ・市立釧路総合病院臨床研修医の受入れについて
- ・北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2019札幌の結果速報について

(2) 2019年5月21日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2019札幌の結果について
- ・民間医局レジナビフェア2019東京について
- ・病院見学・マッチング面接の実施状況について
- ・平成31年度初期臨床研修医(1年次)ローテーションの変更について

(3) 2019年6月18日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2020札幌について
- ・平成31年度初期臨床研修医(1年次)ローテーションの変更について
- ・平成31年度初期臨床研修医(2年次)ローテーションについて
- ・病院誌「やちぼうず」に掲載する委員会報告(案)について
- ・病院見学・マッチング面接の実施状況について

(4) 2019年7月16日(火)「大会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・レジナビフェア2019東京の結果について
- ・令和2年度から研修を開始する研修医の募集定員(案)について
- ・病院見学・マッチング面接等の実施状況について

(5) 2019年8月20日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・指導医講習会の参加について
- ・病院見学・マッチング面接の実施状況について

(6) 2019年9月17日(火)「大会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・第16回北海道大学病院指導医のための教育ワークショップの参加について
- ・マッチング登録について

(7) 2019年10月15日(火)「大会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・日本医科大学千葉北総病院臨床研修プログラム地域医療研修における臨床研修医の受入について
- ・令和元年度(第13回)初期臨床研修医研修の開催について
- ・マッチング中間発表について

(8) 2019年11月19日(火)「小会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・釧路赤十字病院二年次研修医の受入について

- 日本医科大学千葉北総病院研修医の研修取り止めについて
 - 令和2年度臨床研修医採用状況について
- (9) 2019年12月17日(火)「大会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
 - パンフレット「北海道の臨床研修病院2020」校正について
 - 地域保健研修について
- (10) 2020年1月21日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
 - 釧路赤十字病院二年次研修医の受入について
 - 臨床研修管理委員会の開催について
 - 令和2年度初期臨床研修(1年次)ローテーション(案)について
 - 令和2年度初期臨床研修(2年次)ローテーション(案)について
- (11) 2020年2月18日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
 - 令和2年度臨床研修総合講座(案)について
 - 2020年度旭川医科大学「早期体験学習Ⅱ(医学科)」における学生受入について

■ 年間活動実績

【2019年度採用活動】

- (1) 北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション
2019札幌
会場：札幌パークホテル
日時：平成31年4月14日(日)
- (2) 民間医局レジナビフェア
会場：幕張メッセ
日時：令和元年6月23日(日)

【2019年度採用状況】

試験申込数：10名
この10名について、マッチング協議会が行うマッチング制度にかけた結果、当院の臨床研修医受入枠が3名のところ、3名がマッチング確定となった。
令和2年度臨床研修医数は2年次1名、1年次3名の合計4名となった。

(薬 事)**■ 目的と方針**

本委員会は、医薬品の新規採用と採用見直しを薬理的及び病院経営の観点から行い、薬物療法の更新や医療安全の向上に寄与することを目的とする。また、院内製剤等薬事全般に関わる事項を審議し医薬品の適正使用を推進する。

■ 2020年度の目標

社会情勢を鑑み、診療業務に必要な医療安全的観点から最適な医薬品を選定する。また、採用医薬品の見直しを行い、採用医薬品数の削減に努めると共に、後発医薬品およびバイオシミラー等への切替えを推進し、病院経営に貢献する。

■ 委員会の構成

委員：11名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：5名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：1名
- ・医療安全管理者：1名
- ・事務局：2名
- ・書記：1名（薬剤師）

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

薬事委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月15日（月）	8名	80.0%
第2回	2019年5月20日（月）	6名	60.0%
第3回	2019年6月17日（月）	6名	60.0%
第4回	2019年7月22日（月）	8名	80.0%
第5回	2019年8月19日（月）	未開催	0.0%
第6回	2019年9月9日（月）	6名	60.0%
第7回	2019年10月21日（月）	9名	90.0%
第8回	2019年11月18日（月）	9名	90.0%
第9回	2019年12月16日（月）	8名	80.0%
第10回	2020年1月20日（月）	6名	60.0%
第11回	2020年2月17日（月）	7名	70.0%
第12回	2020年3月16日（月）	8名	80.0%

■ 審議内容**(1) 2019年4月15日（月）「中会議室」**

- ・薬事委員会規定の改定と薬事委員会開催日案を承認した。
- ・薬剤（イダマイシン静注用5mg、ヘプタボックスⅡ水溶懸濁シリンジ、ゼルフォームNo100）の一時供給停止について報告があった。
- ・削除薬品アンケート調査に基づき削除薬品が承認された。

採用薬) 注射薬 3品目 内服薬 6品目

外用薬 0品目(院外専用薬 4品目含む)

削除薬) 注射薬 3品目 内服薬 1品目

外用薬 1品目

(2) 2019年5月20日（月）「中会議室」

- ・「医薬品共同入札に係る独自契約希望品目について」審議した。
- ・後発医薬品指数調査について審議し「後発品指数体制加算1」を取れる後発薬品指数85%以上を保つ事を目標にする事が承認された。
- ・院外処方箋発行率を90%以上とする事を目標とする事が承認された。
- ・「メソトレキセート点滴静注液1000mg」の供給不足が報告され在庫の確保に努める事が決議された。

採用薬) 注射薬 3品目 内服薬 5品目

外用薬 3品目(院外専用薬 6品目含む)

削除薬) 注射薬 2品目 内服薬 1品目

外用薬 3品目

(3) 2019年6月17日（月）「講堂」

- ・「イダマイシン静注用5mg」の供給停止が報告された。
- ・「セフメタゾールNa静注用1g」と「献血ヴェノグロブリンIH5%静注」の品薄状態が報告され、今後の使用体制が審議された。
- ・6品目の先発薬品の後発薬品への移行が承認された（第Ⅰ期後発薬品選定）。

採用薬) 注射薬 1品目 内服薬 1品目

外用薬 3品目

削除薬) 注射薬 1品目 内服薬 1品目

外用薬 3品目

(4) 2019年7月22日（月）「講堂」

- ・「アネメトロ点滴静注用500mg」の出荷調整について報告され今後の対応が審議された。
- ・「イダマイシン静注用5mg」の現在の供給状況が

報告された。

- ・免疫グロブリン製剤の推奨投薬表が承認された。
- ・削除薬品アンケート調査に基づき削除薬品が承認された。

採用薬) 注射薬 5 品目 内服薬 3 品目
外用薬 1 品目

削除薬) 注射薬 4 品目 内服薬 2 品目
外用薬 2 品目

(5) 2019年8月19日(月) 未開催

採用薬) 注射薬 0 品目 内服薬 0 品目
外用薬 0 品目

削除薬) 注射薬 0 品目 内服薬 0 品目
外用薬 0 品目

(6) 2019年9月9日(月)「講堂」

- ・今まで報告された供給不足の薬品の現状について報告された。

採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 8 品目
外用薬 2 品目(院外専用薬 5 品目含む)

削除薬) 注射薬 3 品目 内服薬 2 品目
外用薬 1 品目

(7) 2019年10月21日(月)「講堂」

- ・近隣の精神科病院の閉鎖に伴い当院への受診患者が増える事により精神科の院外処方専用薬の追加が承認された。
- ・「抗インフルエンザ治療薬指針」が承認された。
- ・9品目の先発薬品の後発薬品への移行が承認された(第Ⅱ期後発薬品選定)。
- ・「ゼンタック錠150」を服用していた患者の治療薬変更の際の負担額清算について報告された。
- ・削除薬品アンケート調査に基づき削除薬品が承認された。
- ・「マイトマイシン注用10mg」の自主回収と1年以上供給が再開しない事が報告された。

採用薬) 注射薬 3 品目 内服薬 8 品目
外用薬 2 品目(院外専用薬 8 品目含む)

削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 4 品目
外用薬 0 品目

(8) 2019年11月18日(月)「講堂」

- ・アレバール吸入用溶解液の100mL規格の自主回収が報告され、代替薬として500mL規格とする事が承認された。
- ・「ポンタールシロップ3.25%」が出荷調整され、今後供給が停止される事が報告された。

採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 6 品目
外用薬 0 品目(院外専用薬 1 品目含む)

削除薬) 注射薬 2 品目 内服薬 4 品目
外用薬 2 品目(院外専用薬 1 品目含む)

(9) 2019年12月16日(月)「中会議室」

- ・「セニラン坐薬3mg」の適応外使用が承認された。
- ・「タモキシフェン錠20mg」の出荷調整が報告された。

採用薬) 注射薬 0 品目 内服薬 7 品目
外用薬 0 品目(院外専用薬 4 品目含む)

削除薬) 注射薬 2 品目 内服薬 2 品目
外用薬 0 品目

(10) 2020年1月20日(月)「中会議室」

- ・院外処方推進の為に「院内処方箋の分析」が報告され啓蒙活動を行う事が承認された。
- ・削除薬品アンケート調査に基づき削除薬品が承認された。

採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 2 品目
外用薬 3 品目(院外専用薬 1 品目含む)

削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 1 品目
外用薬 3 品目

(11) 2020年2月17日(月)「中会議室」

- ・院外処方推進の為、医師と患者に院外処方を啓蒙する為にポスターを掲示する事が承認された。
- ・「アクトヒブ」の品不足状態が報告された。
- ・「テトラミド錠10mg」の自主回収の報告と院内・院外処方を一時停止する事が承認された。

採用薬) 注射薬 0 品目 内服薬 9 品目
外用薬 0 品目(院外専用薬 3 品目含む)

削除薬) 注射薬 0 品目 内服薬 5 品目
外用薬 1 品目

(12) 2019年3月16日(月)「中会議室」

- ・来年度の薬事委員会の開催日程・委員・規定について承認された。
- ・「アクトヒブ」の品不足状態の解消が報告された。

採用薬) 注射薬 1 品目 内服薬 5 品目
外用薬 0 品目(院外専用薬 3 品目含む)

削除薬) 注射薬 1 品目 内服薬 1 品目
外用薬 0 品目

■ 年間活動実績

(2019年度採用・削除薬品 総計)

		品目数 (内 後発薬品数)	
採用薬品数	内服薬	56	6
	注射薬	19	4
	外用薬	14	4
合 計 (院外専用薬34品目含む)		89	14
削除薬品数	内服薬	24	3
	注射薬	20	4
	外用薬	16	4
合 計 (院外専用薬1品目含む)		60	11

(臨床研究)

■ 目的と方針

本委員会は、当院で実施される臨床研究が、「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「個人情報の保護に関する法律」及び、「臨床研究法」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づいて、科学的かつ倫理的に実施されることを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 機構の治験ネットワークなどを利用した開発治験を実施するための審議を行う。
2. 医師主導による臨床研究を実施するための審議を行う。
3. 医薬品の製造販売後の調査実施のための審議を行う。
4. 医薬品の副作用詳細調査報告のための審議を行う。

■ 委員会の構成

委員：12名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：5名
- 薬剤師：1名
- 看護師：1名
- 医療安全管理者：1名
- 事務局：2名
- 外部委員：2名
- 書記：1名 (薬剤師)

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

臨床研究審査委員会開催日 (11回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月15日(月)	10名	83.3%
第2回	2019年5月20日(月)	8名	66.7%
第3回	2019年6月17日(月)	8名	66.7%
第4回	2019年7月22日(月)	10名	83.3%
第5回	2019年9月9日(月)	8名	66.7%
第6回	2019年10月21日(月)	9名	75.0%
第7回	2019年11月18日(月)	9名	75.0%
第8回	2019年12月16日(月)	9名	75.0%
第9回	2020年1月20日(月)	8名	66.7%
第10回	2020年2月17日(月)	8名	66.7%
第11回	2020年3月16日(月)	9名	75.0%

■ 審議内容

(1) 2019年4月15日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 2件
- 継続申請 治験 1件
- 委員会規程の改訂について(目的及び構成委員の変更)

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 2件
製造販売後調査 1件
- 継続申請 臨床研究 1件
- 終了報告 製造販売後調査 1件

(2) 2019年5月20日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 2件
- 継続申請 治験 1件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 臨床研究 1件
- (その他)
- 終了報告 製造販売後調査 1件

(3) 2019年6月17日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 6件
- 継続申請 治験 1件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 臨床研究 2件

(4) 2019年7月22日(月)「講堂」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 治験 1件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 臨床研究 2件
製造販売後調査 1件

(5) 2019年9月9日(月)「講堂」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 治験 1件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件

- 継続申請 臨床研究 4件
製造販売後調査 3件
- (その他)
- 終了報告 製造販売後調査 1件
- 重篤な有害事象に関する報告 臨床研究 1件

(6) 2019年10月21日(月)「講堂」

審議事項

- 新規申請 治験 1件 臨床研究 2件
- 継続申請 治験 1件
- 臨床研究審査委員会標準業務手順書及び治験実施に関する標準業務手順書の改訂

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 2件
製造販売後調査 1件
- 継続申請 臨床研究 2件
- 重篤な有害事象に関する報告 臨床研究 1件

(7) 2019年11月18日(月)「講堂」

審議事項

- 継続申請 治験 2件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 4件
- 継続申請 臨床研究 3件

(8) 2019年12月16日(月)「中会議室」

審議事項

- 継続申請 治験 1件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
製造販売後調査 1件

(その他)

- 終了報告 臨床研究 1件
製造販売後調査 1件
- 研究計画書からの逸脱に関する報告
臨床研究 1件

(9) 2020年1月20日(月)「中会議室」

審議事項

- 継続申請 治験 2件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 2件
製造販売後調査 1件

(10) 2020年2月17日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 1件
- 継続申請 治験 1件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
製造販売後調査 1件

(その他)

- 終了報告 製造販売後調査 1件

(11) 2020年3月16日(月)「中会議室」

審議事項

- 新規申請 臨床研究 2件
- 継続申請 治験 2件

報告事項

(迅速審査)

- 新規申請 臨床研究 1件
製造販売後調査 2件
- 継続申請 臨床研究 2件

■ 活動実績

- 新規申請 治験 1件
臨床研究 34件
製造販売後調査 7件
- 継続申請 治験 14件
臨床研究 17件
製造販売後調査 4件

■ 目的と方針

DPC／クリニカルパス委員会は、DPC対象病院の要件である適切なコーディングを行う体制を確保するための委員会として設置され、医療の標準化と透明化を計り、医療サービスの質の向上およびクリニカルパスの効果的な運用と経営の改善を目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 院内電子クリニカルパスの新規作成及び見直し
2. クリニカルパスにおける継続的な教育及びパス大会の開催
3. DPC請求における適切なコーディングの検証

■ 委員会の構成

委員：24名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：7名
- ・看護師：4名
- ・薬剤部：2名
- ・リハビリ部：1名
- ・放射線部：1名
- ・検査部：1名
- ・事務局：8名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

DPC／クリニカルパス委員会開催日（11回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月18日（木）	23人	95.8%
第2回	2019年5月16日（木）	20人	83.3%
第3回	2019年6月20日（木）	24人	100.0%
第4回	2019年7月18日（木）	23人	95.8%
第5回	2019年8月15日（木）	24人	100.0%
第6回	2019年10月17日（木）	24人	100.0%
第7回	2019年11月21日（木）	24人	100.0%
第8回	2019年12月19日（木）	23人	95.8%
第9回	2020年1月16日（木）	22人	91.7%
第10回	2020年2月20日（木）	21人	87.5%
第11回	2020年3月19日（木）	24人	100.0%

・第2回 院内クリニカルパス大会開催

■ 審議内容

(1) 2019年4月18日（木）「大会議室」

- ・委員会規程の見直しについて

- ・クリニカルパス委員会の組織構成（案）について
- ・大腸ポリープ切除術パスの在院日数短縮について
- ・ドクタークラーク用クリニカルパス作成マニュアル（案）について
- ・当院のクリニカルパスマスタについて
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(2) 2019年5月16日（木）「大会議室」

- ・委員会規程の見直しについて
- ・クリニカルパスの申請について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(3) 2019年6月20日（木）「大会議室」

- ・クリニカルパスの申請について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(4) 2019年7月18日（木）「大会議室」

- ・クリニカルパスの申請について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

(5) 2019年8月15日（木）「大会議室」

- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・DPC分析について

(6) 2019年10月17日（木）「大会議室」

- ・第2回 クリニカルパス大会開催（案）について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・DPC分析について
- ・適切なコーディングについて

(7) 2019年11月21日（木）「大会議室」

- ・クリニカルパスの申請について
- ・DPC分析について
- ・適切なコーディングについて
- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・令和元年度上半期BSC（バランススコアカード）評価について

(8) 2019年12月9日（木）「大会議室」

- ・クリニカルパスの申請について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について
- ・クリニカルパスに係る研修(学習等)参加について

(9) 2020年1月16日（木）「大会議室」

- ・クリニカルパスの申請について
- ・DPC分析について
- ・クリニカルパスに係る活動報告について

- BOM（日本クリニカルパス学会推奨マスタ）の更新について

(10) 2020年2月20日（木）「大会議室」

- クリニカルパスの申請について
- DPC分析について
- クリニカルパスに係る活動報告について
- 適切なコーディングについて

(11) 2020年3月19日（木）「小会議室」

- クリニカルパスの申請について
- 次年度委員会規程（案）について
- DPC基礎調査票（様式1）の変更（案）について
- DPC分析について
- クリニカルパスに係る活動報告について
- 適切なコーディングについて

■ 年間活動実績

【クリニカルパス作成に係る活動について】

- BOMを導入したクリニカルパスの作成（17件）及び更新（2件）
- クリニカルパス大会の実施
- 詳細なバリエーション分析の実施

【適切なコーディングについて】

	変更箇所	事例
10月	医療資源病名の変更	術後性上顎のう胞に対し手術を行ったのち、発作性夜間ヘモグロビン尿症の再発にも治療を行ったため、資料資源病名を発作性夜間ヘモグロビン尿症へ変更した。
11月	医療資源病名の変更	末梢神経障害に対し血漿交換療法を行った症例について病名が正しいか確認した。
2月	医療資源病名の変更	カンジダ性の肺炎に対する治療を行った症例について病名が正しいか確認した。
3月	医療資源病名の変更	複数の疾患に対し治療を行った症例について最も医療資源を投与した病名が正しいか確認した。

【DPC分析について】

- 新規作成されたクリニカルパスに対し、DPCコードから症例の検証を行い、収益的観点より設定された在院日数が適切であるか分析を行った。

目的と方針

本委員会は、地域医療連携総合センターの円滑な運営を行うため、各部門より報告を行い、情報共有し連携を図ることで、地域医療の質の向上に貢献寄与することを目的とする。また、機能分担、専門性を明確にした他医療施設との連携強化を推進する。

2020年度の目標

1. 地域医療機関との連携強化（ホームページ・広報誌等による情報提供）
2. 退院調整部門の連携強化により、スムーズな退院・転院をサポートする。
3. 治療就労両立支援事業の強化
4. PFMの運用強化

委員会の構成

委員：24名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：10名
- ・看護師：5名
- ・医療職：3名
- ・事務局：6名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

地域医療連携総合センター運営委員会（11回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月22日(月)	21名	100.0%
第2回	2019年5月20日(月)	21名	100.0%
第3回	2019年6月24日(月)	21名	100.0%
第4回	2019年7月22日(月)	21名	100.0%
第5回	2019年8月22日(月)	21名	100.0%
第6回	2019年10月21日(月)	21名	100.0%
第7回	2019年11月25日(月)	21名	100.0%
第8回	2019年12月23日(月)	21名	100.0%
第9回	2020年1月20日(月)	21名	100.0%
第10回	2020年2月26日(月)	21名	100.0%
第11回	2020年3月23日(月)	21名	100.0%

審議内容

(1) 2019年4月22日(月)「大会議室」

- ・2019年度委員会規程について
- ・2018年度（紹介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(2) 2019年5月20日(月)「大会議室」

- ・2019年度（紹介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(3) 2019年6月24日(月)「大会議室」

- ・2019年度（紹介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(4) 2019年7月22日(月)「大会議室」

- ・2019年度（紹介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(5) 2019年8月22日(月)「大会議室」

- ・2019年度（紹介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(6) 2019年10月21日(月)「大会議室」

- ・2019年度（紹介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

- ・デジタルサイネージディスプレイの設置について
- ・病病・病診・介護連携サービス実態調査について

(7) 2019年11月25日（月）「大会議室」

- ・2019年度（介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(8) 2019年12月23日（月）「大会議室」

- ・2019年度（介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

(9) 2020年1月20日（月）「大会議室」

- ・2019年度（介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について
- ・ろうさいカフェ開催について

(10) 2020年2月26日（月）「大会議室」

- ・2019年度（介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について
- ・地域包括ケア病棟運用マニュアルの改訂について
- ・デジタルサイネージに係る広告掲載基準について
- ・ろうさいカフェアンケート結果について

(11) 2020年3月23日（月）「大会議室」

- ・2019年度（介率・逆紹介率）実績報告について
- ・地域医療支援病院関連報告について
- ・退院調整、PFMの進捗・実績報告について
- ・転院、施設入所等の動向について
- ・がん相談、両立支援業務の実績報告について
- ・地域包括ケア病棟実施報告について

■ 目的と方針

H I V 運営委員会は、エイズ患者の診断的治療のケア実践及び近隣地域住民を対象にエイズ・性感染症に関する正しい知識の普及・啓発の推進を図ることを目的とする。

■ 2020年度の目標

本委員会は、エイズ患者の診断的治療のケア実践及び近隣地域住民を対象にエイズ・性感染症に関する正しい知識の普及・啓発の推進を図るため、以下の活動を行う。

1. 近隣医療機関（拠点病院・協力病院等）へのH I V 診療支援及び連携、研修の実施と情報提供による人材育成。（道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会等）
2. エイズ・性感染症の予防・啓発に関する支援活動。（H I V 抗体検査会、師走講演会等）
3. エイズ・性感染症の予防・啓発に関する情報の収集・発信及び職員の教育。
4. エイズ患者における診療体制に関すること。
5. その他、当方針を達成するために必要な事案の実施。

■ 委員会の構成

委員：18名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医 師：4名
- ・薬 剤 師：1名
- ・看 護 師：4名
- ・臨床検査技師：1名
- ・理学療法士：1名
- ・心理判定員：1名
- ・M S W：1名
- ・事 務 局：5名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

H I V 運営委員会（1回開催）

	開 催 日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月24日(水)	16名	89.0%

■ 審議内容

(1) 2019年4月24日(水)「小会議室」

- ・委員会規定について
- ・第13回道東エイズ中核拠点病院協議会・研修会について
- ・平成30年度エイズ治療中核拠点対策推進事業委託業務の支出内訳について
- ・令和元年H I V 抗体検査会について

■ 実績

6月 第13回道東エイズ中核拠点病院協議会・研修会

日時：令和元年6月15日(土)

①協議会：15:00～16:00

②研修会：16:30～17:30

講師：横浜市立市民病院

感染症内科部長 立川 夏夫 先生

演題：「H I V 診療の最新情報」

9月 H I V 抗体検査会

日時：令和元年9月14日(土)

開始：13:00～16:00

会場：釧路大漁どんぱく（くしろ国際交流センター2階）

主催・共催：釧路労災病院・釧路市健康推進課・

釧路保健所・イルファァー釧路

12月 第16回 師走講演会

日時：令和元年12月8日(日)

開始：15:00～17:30

講師：ふれいす東京代表

社会福祉士 生島 嗣 氏

演題：『UPDATE!! 話そうH I V/エイズのとなりで～H I V 検査・治療と生活～』

診療医事業務／査定減対策委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

本委員会は、医事業務の運用にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 医事関連業務の実施、現状分析と不完全事項の確認
2. 解決策と実施計画の決定
3. 実施効果の測定
4. 運営上の調整
5. 査定減対策
6. その他医事業務に関して

■ 委員会の構成

委員：29名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：15名
- ・看護師：3名
- ・医療職：5名
- ・事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

診療医事業務/査定減対策委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月25日(木)	27名	93.1%
第2回	2019年5月23日(木)	27名	93.1%
第3回	2019年6月27日(木)	27名	93.1%
第4回	2019年7月25日(木)	26名	89.7%
第5回	2019年8月22日(木)	26名	89.7%
第6回	2019年9月26日(木)	22名	75.9%
第7回	2019年10月24日(木)	23名	79.3%
第8回	2019年11月28日(木)	25名	86.2%
第9回	2019年12月26日(木)	24名	82.8%
第10回	2020年1月23日(木)	25名	86.2%
第11回	2020年2月27日(木)	21名	72.4%
第12回	2020年3月26日(木)	24名	82.8%

■ 審議内容

(1) 2019年4月25日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・手術同意書について
- ・CT用造影剤の使用に関する説明・同意書について
- ・診察券の生年月日表記について

(2) 2019年5月23日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(3) 2019年6月27日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について
- ・手術同意書、死亡診断書の様式変更について

(4) 2019年7月25日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(5) 2019年8月22日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(6) 2019年9月26日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について
- ・「入院時の状態についての確認票」の取扱いについて

(7) 2019年10月24日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(8) 2019年11月28日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について
- ・年末年始の患者確保について

(9) 2019年12月26日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(10) 2020年1月23日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(11) 2020年2月27日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について

(12) 2020年3月26日(木)「大会議室」

- ・査定状況について
- ・査定症例報告について
- ・地域包括ケア病棟入院診療計画書の様式について
- ・2020年度委員会規程等の見直しについて

目的と方針

(個人情報)

院内のセキュリティを維持するために必要な手続きや組織内でのマネジメントシステムを構築して、個人情報適切に保護することを目的とする。

(診療情報)

診療情報管理全般について審議し、診療情報整理業務の質的向上を図るため、指導と援助を行う。

2020年度の目標

(個人情報)

1. ポリシーが遵守されているかの定期的な確認と問題点及び改善
2. 情報セキュリティに関する教育・起毛活動

(診療情報)

1. 入院診療録の退院後2週間以内の回収100%の継続
2. 入院診療録の質的向上

委員会の構成

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

委員：20名

委員：22名

(診療情報) [内 訳]

- ・医師：7名
- ・看護師：3名
- ・薬剤部：1名
- ・リハビリ部：1名
- ・放射線部：1名
- ・検査部：1名
- ・事務局：6名

(個人情報) [内 訳]

- ・医師：7名
- ・看護師：3名
- ・薬剤部：1名
- ・リハビリ部：1名
- ・放射線部：1名
- ・検査部：1名
- ・事務局：8名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

診療情報管理委員会開催日

(12回開催うち個人情報管理委員会3回)

	開催日	出席人数	出席率
第1回*	2019年4月12日(金)	21	95.5%
第2回	2019年5月10日(金)	19	95.0%
第3回	2019年6月14日(金)	20	100.0%
第4回	2019年7月12日(金)	19	95.0%
第5回*	2019年8月9日(金)	21	95.5%
第6回	2019年9月13日(金)	20	100.0%
第7回	2019年10月11日(金)	20	100.0%
第8回	2019年11月8日(金)	20	100.0%

第9回	2019年12月13日(金)	20	100.0%
第10回	2020年1月10日(金)	18	90.0%
第11回	2020年2月14日(金)	17	85.0%
第12回*	2020年3月8日(金)	17	77.3%

*個人情報管理委員会開催

審議内容

(1) 2019年4月12日(金)「大会議室」

- ・拠点個人管理者等の業務(個人情報保護規程抜粋)及び個人情報保護管理体制(案)について
- ・入院診療録質的監査における監査項目等の見直しについて
- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
- ・入院診療計画書の不備及び基準について

(2) 2019年5月10日(金)「大会議室」

- ・令和元年度診療録等の廃棄について(案)
- ・カンファレンス記録について
- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(8西・8東病棟)
- ・入院診療計画書の不備について

(3) 2019年6月14日(金)「大会議室」

- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(7西・7東病棟)
- ・入院診療計画書の不備について

(4) 2019年7月12日(金)「大会議室」

- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(6西・6東病棟)
- ・入院診療計画書の不備について

(5) 2019年8月9日(金)「大会議室」

- ・放射線被ばく線量管理用アプリケーションの導入における個人情報の提供について
- ・未作成の入院診療計画書について
- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(5西・5東病棟)
- ・入院診療計画書の不備について

(6) 2019年9月13日(金)「大会議室」

- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
- ・入院診療録質的監査について(4西)
- ・入院診療計画書の不備について
- ・診療録等の廃棄について

(7) 2019年10月11日(金)「大会議室」

- ・入院診療録質的監査における監査項目の見直し及び実施予定について
- ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告

- ・入院診療計画書の不備について
- ・内部監査における指摘事項について
- (8) 2019年11月8日(金)「大会議室」
 - ・入院診療計画書及び同意書におけるチェック体制について
 - ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
 - ・入院診療録質的監査について(8西・8東)
 - ・入院診療計画書の不備について
- (9) 2019年12月13日(金)「大会議室」
 - ・入院診療計画書の運用について
 - ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
 - ・入院診療録質的監査について(7西・7東)
 - ・入院診療計画書の不備について
- (10) 2020年1月10日(金)「大会議室」
 - ・入院診療計画書の作成について
 - ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
 - ・入院診療録質的監査について(6西・6東)
 - ・入院診療計画書の不備について
- (11) 2020年2月14日(金)「大会議室」
 - ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
 - ・入院診療録質的監査について(5西・5東)
 - ・入院診療計画書の不備について
- (12) 2020年3月13日(金)「大会議室」
 - ・令和2年度診療情報/個人情報管理委員会規程(案)について
 - ・診療録未回収状況及び2週間回収率の報告
 - ・入院診療録質的監査について(4西)
 - ・入院診療計画書の不備について

診療録未回収状況

(委員会報告時の前月分回収率)

2週間回収率

報告月	回収率	退院数	報告月	回収率
4月	99.4%	798	4月	100.0%
5月	97.5%	768	5月	100.0%
6月	100.0%	692	6月	100.0%
7月	99.1%	741	7月	100.0%
8月	96.8%	804	8月	100.0%
9月	99.5%	765	9月	100.0%
10月	99.3%	686	10月	100.0%
11月	96.0%	742	11月	100.0%
12月	100.0%	756	12月	100.0%
1月	98.1%	810	1月	100.0%
2月	100.0%	649	2月	100.0%
3月	99.7%	713	3月	100.0%
			年間	100.0%

■ 実 績

入院診療録質的監査

平成31年度/令和元年 入院診療録監査

項目	監査項目	H31.4		R1.5		R1.6		R1.7		R1.8		R1.10		R1.11		R1.12		R1.1		R1.2		
		8西(内科)	8東(外科)	7西(神経内科)	7東(整形外科)	6西(内科)	6東(内科)	5西(内科)	5東(内科)	4西(泌尿科)	4東(耳鼻科)	3西(内科)	3東(外科)	2西(神経内)	2東(整形外科)	1西(内科)	1東(内科)	4西(泌尿科)	4東(内科)	3西(内科)	3東(内科)	
1	入院時臨床診断名は記載されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	<医師記録>																					
2	1日1回は、医師が観察した経過(医師)が記載されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	少なくとも週に1回以上、アセスメント・診療計画(カンファレンス含む)が記載されているか(診療科としての計画、方針)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	病状説明後、患者本人(家族を含む)の反応は、医師記録に記載されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	<看護記録>																					
5	1日1回は、看護師が観察した経過(看護師)が記載されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	病状説明後、患者本人(家族を含む)の反応や診察内容を、看護記録に記載されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	看護計画と医師記録とが整合的に記載されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	<プロセス評価>																					
8	病状説明に医師だけでなく、看護師及びその他の医療職が関与しているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	多職種(医師・看護師のほか薬剤師や理学療法士)による検討が行われているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	記載事項は適切か	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	<その他>																					
11	医師記録と患者記録において算定している診療報酬データとの整合性がとれているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	スクリーンを必要とする文書は正しく管理されているか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*改替無し:○ 一部改替有り:△ 改替有り:○ 該当無し:／

目的と方針

本委員会は、当院における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために必要な事項を定めることを目的とする。

2020年度の目標

医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立する。

1. 災害時の緊急事態に対応できる行動指針を部署ごとに作成することで、職員が災害マニュアルに沿った行動が取れる。
2. 転倒・転落防止マニュアルを活用することで、転倒・転落の予防ケアが実施でき、患者への影響が最小限となる。
3. 全職員対象の一次救命研修を企画・運営することで、職員全体の救急蘇生に対する認識と知識を高める。

委員会の構成

委員：17名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：3名
- ・看護職：3名
- ・医療職：6名
- ・事務局：5名

年間活動

2019年度開催日と審議内容

医療安全推進委員会開催日（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月17日（水）	13名	81.2%
第2回	2019年5月15日（水）	12名	75.0%
第3回	2019年6月19日（水）	15名	93.7%
第4回	2019年7月17日（水）	13名	81.2%
第5回	2019年8月21日（水）	14名	87.5%
第6回	2019年9月18日（水）	15名	93.7%
第7回	2019年10月16日（水）	14名	87.5%
第8回	2019年11月16日（水）	16名	100.0%
第9回	2019年12月18日（水）	14名	87.5%
第10回	2020年1月15日（水）	14名	87.5%
第11回	2020年2月19日（水）	15名	93.7%
第12回	2020年3月18日（水）	12名	75.0%

審議内容

(1) 2019年4月17日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・今年度の目標について

(2) 2019年5月15日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・医療安全必須研修について
- ・医療安全職員手帳について

(3) 2019年6月19日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・造影剤投与マニュアルの保存先の変更について

(4) 2019年7月17日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・造影剤投与マニュアルの追加について
- ・医療安全相互チェックシートについて
- ・医療安全チェックシート（本部提出用）について

(5) 2019年8月21日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について

(6) 2019年9月18日（水）「大会議室」

- ・労災病院間医療安全相互チェックについて
- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・内部監査での指摘事項について

(7) 2019年10月16日（水）「大会議室」

- ・医療安全対策マニュアルの改訂について
- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・医療安全対策の取り組みに関する掲示文書について

(8) 2019年11月16日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について

- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・医療安全推進週間について
- ・医療安全相互間チェックについて

(9) 2019年12月18日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・労災病院間医療安全相互チェックの報告

(10) 2020年1月15日（水）「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・労災病院間医療安全チェックについて
- ・医療安全対策地域連携 医療安全相互チェックについて
- ・MR I 検査における体内金属ガイドラインについて
- ・医療安全必須研修について

(11) 2020年2月19日（水）「大会議室」

- ・医療安全対策マニュアルの改訂について
- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・医療安全対策地域連携 医療安全相互チェックについて
- ・労災病院間医療安全チェックについて
- ・MR I 検査における体内金属ガイドラインについて

(12) 2020年3月18日（水）「大会議室」

- ・MR I 検査予約票・チェックシートについて
- ・令和2年度の委員会目標について
- ・医療安全推進委員会規程・医療事故調査部会規程について
- ・医療安全対策マニュアル 医療に係る安全管理のための指針の改訂について
- ・インシデント・アクシデント報告について
- ・リスクマネージャー部会報告について
- ・医療安全に係るカンファレンス報告について
- ・令和2年度の委員会開催日程について

年間活動実績

【インシデント・アクシデント報告件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
0	28	35	30	29	33	14	22	30	28	27	32	19	327
1	68	78	59	70	72	63	56	85	67	58	62	62	800
2	27	24	39	24	22	16	24	26	25	28	21	24	300
3a	7	7	9	5	9	8	5	6	4	4	10	7	81
3b	3	2	2	1	3	3	1	1	1	1	0	3	21
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	133	146	139	129	139	104	109	148	125	118	125	115	1,530

【医療安全対策研修会開催状況】

	開催日	テーマ	出席人数
第1回	2019年6月25日(火)	病院の職員みんなで「医療安全」を考えてみよう ～患者安全に必要なことを知る～	485名
第2回	2019年6月27日(木)	アドレナリン注0.1シリンジの使用上の注意点	205名
第3回	2019年11月28日(木)	当院のインシデント・アクシデント報告について 麻薬の管理上の注意点 ～事故に関する管理と対応～	475名
第4回	2019年12月6日(金)	医療ガス取扱講習会	17名

■ 目的と方針

本委員会は、電子カルテシステムを中核として各部門との連携を図り、情報の相互利用・共有化を実施するため、その取扱い及び管理に関し必要な事項を審議し、当院において診療情報を適正に管理・利用することを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 電子カルテシステムを中核として、各部門との連携を図り、情報の相互利用・共有化を実施するため、その取扱い及び管理に関し必要な事項を審議し、診療情報を適正に管理・利用する。
2. システム更新を見据え、基幹システム及び各部門システムにおける障害発生を総括し改訂要望を集積する。
3. 2020年度実施するシステム更新について、円滑な移行、運用ができるよう管理する。

■ 委員会の構成

委員：11名 オブザーバー：1名
(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・医師：2名
- ・看護師：4名
- ・事務局：5名
- ・IT専門員（業務委託）：1名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

医療情報システム委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月23日(火)	9人	81.8%
第2回	2019年5月28日(火)	10人	90.9%
第3回	2019年6月25日(火)	9人	81.8%
第4回	2019年7月30日(火)	10人	90.9%
第5回	2019年8月27日(火)	8人	72.7%
第6回	2019年9月24日(火)	8人	72.7%
第7回	2019年10月29日(火)	10人	90.9%
第8回	2019年11月26日(火)	10人	90.9%
第9回	2019年12月24日(火)	9人	81.8%
第10回	2020年1月28日(火)	10人	90.9%
第11回	2020年2月25日(火)	10人	90.9%
第12回	2020年3月24日(火)	10人	90.9%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月23日(火)「大会議室」
 - ・医療情報システム管理体制と緊急連絡網（案）について
 - ・次期医療情報システム導入スケジュールについて
 - ・文章の元号について
 - ・臨床データベース登録用PC及び電子カルテの設置について
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
- (2) 2019年5月28日(火)「大会議室」
 - ・プロジェクト構成（案）について
 - ・病院情報システム更新に係るコンサルタント支援業務評価委員会設置について
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
- (3) 2019年6月25日(火)「大会議室」
 - ・医療情報システム更新について
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
- (4) 2019年7月30日(火)「大会議室」
 - ・医療情報システム更新に係るコンサルタントについて
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
 - ・仮入院病棟のシステム改修について
- (5) 2019年8月27日(火)「大会議室」
 - ・医師TODOボタンの点滅消去の対応について
 - ・医療情報システム更新に係るコンサルタント導入について
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
- (6) 2019年9月24日(火)「大会議室」
 - ・排尿ケアマニュアルのデスクトップ表示について
 - ・医療情報コンサルタント業者について
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
- (7) 2019年10月29日(火)「大会議室」
 - ・病棟端末のウイルスチェックの日時変更について
 - ・NECからの作業報告（システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定）
- (8) 2019年11月26日(金)「大会議室」
 - ・文書作成フォルダの追加について
 - ・外来技能職（歯科衛生士、視能訓練士、聴力調査

- 員)の所属科登録変更について
- N E Cからの作業報告(システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- (9) 2019年12月24日(火)「大会議室」
- 化学療法センター電子カルテ端末のU S B接続許可について
 - N E Cからの作業報告(システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- (10) 2020年1月28日(火)「大会議室」
- 院内インターネット環境の拡充について
 - 「日未定オーダーの削除」についてのアンケートの実施について
 - 生理検査システム更新について
 - N E Cからの作業報告(システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- (11) 2020年2月25日(火)「大会議室」
- 2020年度医療情報システム委員会及び行動指針(案)について
 - 電子カルテ操作説明会の実施(案)について
 - N E Cからの作業報告(システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
- (12) 2020年3月24日(火)「大会議室」
- 2020年度医療情報システム委員会規程(案)について
 - 医療情報システム運用管理規程(案)について
 - N E Cからの作業報告(システム対応作業報告、今後のシステム対応作業予定)
 - 緩和ケア内科のシステム変更について

■ 目的と方針

本委員会は、機器等整備計画の作成及び購入する機種 of 適正な選定に資すること、購入機器の活用状況を確認することを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 医療の向上及び経営基盤の強化を踏まえ、適正な機種を選定し機器等計画を作成する。
2. 機器購入後の活用状況を確認し、更なる活性化を図る。

■ 委員会の構成

委員：23名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：8名
- 看護師：3名
- 医療職：5名
- 事務局：6名
- 書記：1名

■ 年間活動内容

2019年度開催日と審議内容

機器等整備検討委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年7月18日(金)	21名	91.0%
第2回	2019年8月27日(火)	23名	100.0%
第3回	2019年10月1日(火)	18名	78.0%

■ 審議内容

(1) 2019年7月18日(月)「大会議室」

[審議内容]

- 令和2年度計画機器の選定・優先順位の決め方について
- 令和元年度機器等整備計画外の要求について

[報告事項]

- 平成30年度購入機器に係る実績について

(2) 2019年8月27日(火)「院内メール」

[審議内容]

- 機器故障による自動ジェット式洗浄機（中央材料室）臨時購入の審議について

(3) 2019年10月1日(火)「大会議室」

[審議内容]

- 令和2年度機器等等整備計画について
- 令和2年度機器等等整備計画の購入について

■ 実 績

令和元年度 導入機器 (内訳)

No	品 名	数量	メ ー カ ー 名	取得月
1	サージカルチェアー	1台	村中医療	H31.4
2	コンビオープン	1台	ナショナルジャパン	H31.5
3	ストレッチャー	10台	パラマントベット	H31.5
4	オートクレーブ	1式	日本ストライカー	R1.6
5	ラジオ波手術器械	1式	村中医療	R1.6
6	内視鏡NBIビデオシステム	1式	オリンパス	R1.6
7	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	1式	キャンデラ	R1.6
8	医用テレメーター	1式	日本光電	R1.6
9	全自動輸血検査システム	1式	オーソ	R1.6
10	内視鏡洗浄消毒装置	1台	オリンパス	R1.8
11	全身麻酔器	2台	GEヘルスケア	R1.8
12	食器洗浄機	3台	フジマック	R1.8
13	ストレッチャースケール	2台	エーアンドデイ	R1.8
14	密閉式自動固定包埋装置	1式	サクラ精機	R1.8
15	筋弛緩モジュール	1台	日本光電	R1.9
16	X線撮影装置	1式	島津メディカル	R1.9
17	外来処置用顕微鏡	1式	イナミ	R1.9
18	光学式自動固定包埋装置	1式	トーマー	R1.9
19	膀胱用超音波診断装置	1式	リリアム	R1.9
20	静脈可視装置	1式	テルモ	R1.9
21	磁気共鳴診断撮影装置	1式	フィリップス	R1.9
22	自動ジェット式洗浄装置	1式	村中医療	R2.1
23	生理検査システム	1式	日本光電	R2.3
24	携帯型精密輸液ポンプ持続・PACポンプ	2台	テルモ	R2.3
25	シリンジポンプ	2台	テルモ	R2.3
26	ベッドパンウォッシャー	1台	モーレン	R2.3
27	姿勢矯正鏡	1台	酒井医療	R2.3
28	パラフィン浴装置	1式	OG 技研	R2.3
29	生物顕微鏡	1式	ニコン	R2.3
30	電子自動精米機	1式	I S E K I	R2.3

■ 目的と方針

救急診療の運営にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的としている。

■ 2020年度の目標

1. 救急診療関連業務の実施、現状分析と問題点の改善
2. 救急診療ガイドライン、要綱等の策定
3. 宿日直業務の実施
4. 運営上の調整
5. その他救急診療業務

■ 委員会の構成

委員：21名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：8名
- ・看護師：8名
- ・医療職：4名
- ・事務局：5名

■ 年間活動

2019年度開催日と審議内容

救急運営委員会開催日（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月17日（水）	20名	95.2%
第2回	2019年5月15日（水）	20名	95.2%
第3回	2019年6月19日（水）	18名	85.7%
第4回	2019年7月17日（水）	18名	85.7%
第5回	2019年8月21日（水）	19名	90.5%
第6回	2019年9月18日（水）	19名	90.5%
第7回	2019年10月16日（水）	19名	90.5%
第8回	2019年11月20日（水）	19名	90.5%
第9回	2019年12月18日（水）	19名	90.5%
第10回	2020年1月15日（水）	19名	90.5%
第11回	2020年2月19日（水）	18名	85.7%
第12回	2020年3月18日（水）	17名	81.0%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月17日（水）「大会議室」
 - ・診療科別ガイドライン対応基準について
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・救急隊が行うトリアージについて
- (2) 2019年5月15日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急外来処置室のシャウカステンについて
 - ・救急隊からの意見・要望等について
- (3) 2019年6月19日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・救急隊からの意見・要望等について
 - ・外来看護師の2交代制について
- (4) 2019年7月17日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・救急隊からの意見・要望等について
- (5) 2019年8月21日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・救急隊からの意見・要望等について
- (6) 2019年9月18日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・頬骨骨折疑いの患者の取扱いについて
 - ・救急医療管理加算算定について
- (7) 2019年10月16日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・Dr to Drの照会について
- (8) 2019年11月20日（水）「大会議室」
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・救急隊が行うトリアージについて

- (9) 2019年12月18日（水）「大会議室」
- ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
- (10) 2020年1月15日（水）「大会議室」
- ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
- (11) 2020年2月19日（水）「大会議室」
- ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
- (12) 2020年3月18日（水）「大会議室」
- ・救急診療運営委員会規程（案）について
 - ・診療科別ガイドライン対応基準の調査について
 - ・宿日直業務打合せについて
 - ・救急診療実績報告について
 - ・救急患者の受入が出来なかった実績報告について
 - ・救急外来用のポータブルエコーの管理について

■ 目的と方針

本委員会は、がん診療及び緩和医療の実施にあたり、予防・診断・手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法を効果的に組み合わせた集学的治療および終末期医療の様々な段階に対して、専門的立場から適切な医療を提供する体制を整備し、医療の質の向上を図ることを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 緩和ケアマニュアルの整備、Webカンファレンスや勉強会を開催し、院内職員へ周知することで、統一した緩和ケアの実践に向けて活動する。
2. 地域の人々および医療従事者に緩和ケアを周知し協働することで、地域で暮らす人々に質の高いケアを提供する。

■ 委員会の構成

委員：27名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：9名
- ・看護師：7名
- ・医療職：5名
- ・事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

緩和医療委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月11日(木)	23名	88%
第2回	2019年5月9日(木)	24名	92%
第3回	2019年6月13日(木)	24名	92%
第4回	2019年7月11日(木)	22名	85%
第5回	2019年8月8日(木)	22名	81%
第6回	2019年9月12日(木)	26名	96%
第7回	2019年10月10日(木)	23名	85%
第8回	2019年11月14日(木)	26名	96%
第9回	2019年12月12日(木)	25名	93%
第10回	2020年1月9日(木)	25名	93%
第11回	2020年2月13日(木)	23名	85%
第12回	2020年3月12日(木)	21名	78%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月11日(木)「大会議室」
 - ・緩和ケアリンクナース部会の廃止について
 - ・エンゼルセットの購入について
 - ・緩和ケア研修会の日程について
 - ・緩和ケアチームの活動報告(3月分)
 - ・ワーキンググループ活動報告(3月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (2) 2019年5月9日(木)「大会議室」
 - ・緩和ケア研修会について
 - ・緩和ケアチームの活動報告(4月分)
 - ・ワーキンググループ活動報告(4月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (3) 2019年6月13日(木)「大会議室」
 - ・緩和ケア市民公開講座について
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計方法
 - ・緩和ケア研修会プロジェクトチームについて
 - ・緩和ケアチームの活動報告(5月分)
 - ・ワーキンググループの活動報告(5月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (4) 2019年7月11日(木)「大会議室」
 - ・緩和ケアチームの活動報告(6月分)
 - ・ワーキンググループの活動報告(6月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (5) 2019年8月8日(木)「大会議室」
 - ・委員会規程の一部改正について
 - ・委員会構成員の変更について
 - ・緩和ケアチームの活動報告(7月分)
 - ・ワーキンググループの活動報告(7月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (6) 2019年9月12日(木)「大会議室」
 - ・院外の医療従事者に対する教育活動について
 - ・緩和ケアチームの活動報告(8月分)
 - ・ワーキンググループの活動報告(8月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (7) 2019年10月10日(木)「大会議室」
 - ・緩和ケア診療加算及び外来緩和ケア管理料の算定について
 - ・緩和ケアチームの体制について
 - ・緩和ケアチームの活動報告(9月分)
 - ・ワーキンググループの活動報告(9月分)
 - ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果
- (8) 2019年11月14日(木)「大会議室」
 - ・緩和ケアチームの活動報告(10月分)

- ・ワーキンググループの活動報告（10月分）
- ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果

(9) 2019年12月12日（木）「大会議室」

- ・市立釧路総合病院との緩和ケア研修会の共同開催について
- ・緩和ケア病棟先進事例見学について
- ・緩和ケアチームの活動報告（11月分）
- ・ワーキンググループの活動報告（11月分）
- ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果

(10) 2020年1月9日（木）「大会議室」

- ・在宅療養WGの活動について
- ・緩和ケアチームの活動報告（12月分）
- ・ワーキンググループの活動報告（12月分）
- ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果

(11) 2020年2月13日（木）「大会議室」

- ・緩和ケアチーム介入の促進について

- ・入院中のがん終末期患者の緩和ケア内科転科の促進について

- ・緩和ケア病床の運用について

- ・次年度のワーキンググループ活動について

- ・緩和ケア研修会の共同開催について

- ・緩和ケアチームの活動報告（1月分）

- ・ワーキンググループの活動報告（1月分）

- ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果

(12) 2020年3月12日（木）「大会議室」

- ・次年度の委員会規程、委員の変更について

- ・次年度のワーキンググループメンバーについて

- ・緩和ケアチームの活動報告について（2月分）

- ・ワーキンググループの活動報告（2月分）

- ・がん患者緩和ケアスクリーニングシート集計結果

■ 年間活動実績

緩和ケアチームの活動実績

①緩和ケア外来患者数：合計124人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5人	10人	10人	7人	5人	5人	5人	11人	16人	14人	13人	23人

②緩和ケアチームによる介入件数：合計199件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
12件	12件	8件	6件	14件	17件	25件	21件	24件	16件	15件	29件

③緩和ケア病床患者数：合計37人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3人	4人	5人	5人	2人	2人	3人	2人	1人	2人	4人	4人

がんサロンの活動実績

開催日	学習会内容	参加人数
2019年4月24日(水)	男も！女も！ハンドネイルケア	10名
2019年5月22日(水)	きれいに“菌みがき”してみましよう！	11名
2019年6月18日(火)	採血・採尿データを学ぼう	10名
2019年7月26日(金)	リンパ浮腫ケアの基本	13名
2019年8月21日(水)	最期まで自分らしく生きる	12名
2019年9月25日(水)	毎日食事を美味しく食べる工夫	12名
2019年10月23日(水)	痛みとの上手な付き合い方	8名
2019年11月19日(火)	臨床試験・治験について	8名
2019年12月17日(火)	冬の感染を予防しよう！～インフルエンザやノロウイルスのお話～	12名
2020年1月24日(金)	自宅でできるリハビリテーション	8名
2020年2月19日(水)	あなたが利用できる社会制度を知っていますか？	5名
2020年3月25日(水)	気持ちのつらさと対処法	中止

講演会の活動実績

①緩和ケア研修会

開催日：2019年9月1日（日）

研修内容：がん診療に携わる全ての医療従事者に
対する「緩和ケア研修会」

②緩和市民公開講座

開催日：2019年11月9日（土）

テーマ：「当院の緩和ケアについて」
「緩和ケアとホスピタルアート」

臓器提供委員会

委員長 小笠原 和 宏

目的と方針

本委員会は、脳死臓器提供施設である当院において、臓器提供を円滑に行うため、臓器移植に関する職員教育及び市民への啓発活動を目的とする。

2020年度の目標

院内外移植コーディネーター等による講習・研修会、脳死下臓器提供に係る周術期対応シミュレーションの開催に努める。

委員会の構成

委員：14名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：4名
- ・看護師：3名（内コーディネーター3名）
- ・医療職：1名（内コーディネーター1名）
- ・事務局：6名（内コーディネーター1名）

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

臓器提供委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年7月19日(金)	11名	84.6%
第2回	2019年11月27日(水)	10名	76.9%
第3回	2020年2月19日(水)	12名	92.3%

審議内容

(1) 2019年7月19日(火)「大会議室」

- ・2019年度院内体制整備支援事業の申込について
- ・2019年度コーディネーター活動報告及び2019年度活動計画について
- ・ドナーカード所持率について

(2) 2020年11月27日(水)「大会議室」

- ・院内脳死下判定シミュレーション実施（案）について
- ・院内シミュレーション実施に伴う院内研修会開催について
- ・コーディネーターの活動報告

(3) 2020年2月19日(水)「大会議室」

- ・脳死下臓器提供に係る周術期対応シミュレーション研修実施概要について
- ・移植医療推進協議会研修会開催について
- ・令和2年度委員会規程（案）について

研修会

開催日：令和2年1月16日(木) 17:30～19:00

参加者数：37名

研修①：手術室対応について

講師：日本臓器移植ネットワーク

コーディネーター 渡辺手術室認定看護師

研修②：脳死臓器提供の現状とドナー管理

講師：国立研究開発法人国立循環器病研究センター
移植医療部 部長 福寫 教偉 先生

脳死下臓器提供に係る周術期対応シミュレーション研修

※新型コロナウイルス感染予防対策として中止

実施日：令和2年2月29日（土）

会場：3階講堂及び手術室

時間：9時00～12時15分

■ 目的と方針

本委員会は、患者と職員の健康増進のために、院内に於ける受動喫煙防止及び職員の禁煙向上を目的とした病院長の諮問機関であり、病院内の受動喫煙防止に努める。

■ 2020年度の目標

1. 院内の禁煙の問題の把握（禁煙問題報告書）
2. 禁煙ポスターの提示
3. 禁煙啓発活動の実施（禁煙講演会を行う。禁煙標語の提示）

■ 委員会の構成

委員：10名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- 医師：2名
- 看護師：1名
- 薬剤師：1名
- 理学療法士：1名
- 調理師：1名
- 事務局：3名
- 書記：1名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日審議内容

禁煙実行委員会開催日（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月12日(金)	10名	100.0%
第2回	2019年7月19日(金)	8名	80.0%
第3回	2020年3月16日(月)	7名	70.0%

■ 審議内容

(1) 2019年4月12日(金)「小会議室」

[審議内容]

- 禁煙ポスターの更新について

[報告事項]

- 喫煙問題報告書 禁煙誓約書について

(2) 2019年7月19日(金)「小会議室」

[審議内容]

- 職員喫煙実態調査の実施について

[報告事項]

- 喫煙問題報告書 禁煙誓約書について

- 禁煙ポスターの更新について

(3) 2020年3月16日(月)「サイボウズメール」

[審議内容]

- 禁煙実行委員会規定(案)について

- 禁煙実行委員会運営方針(案)について

- 喫煙者への対応マニュアル(案)について

[報告事項]

- 職員喫煙実態調査の結果報告

がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

がん診療拠点病院としてがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制を構築すること。

■ 2020年度の目標

がん診療連携拠点病院の指定要件を継続できるように、定期的に現状を確認し、がん診療体制の充実にむけて、全職員で指定要件を意識し、満たすことができるように促していく。また、連携協力体制を強化できるように内容の見直しを図っていく。

■ 委員会の構成

委員：25名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：5名
- ・看護師：6名
- ・医療職：4名
- ・事務局：10名

■ 実績

- ・がんセンターボード（8回開催）
- ・病理・内科・外科合同カンファレンス（48回開催）

がんセンターボードの活動実績

	開催日	症例検討内容	出席人数	場所
第1回	2019年4月10日(水)	肺腫瘍を合併した咽頭がんの1例	28	3階大会議室
第2回	2019年5月8日(水)	大腸がん、肝内胆管がん、腎細胞がんの合併が疑われる1例	25	3階大会議室
第3回	2019年6月5日(水)	多発肺転移を伴う食道癌が疑われた1例	15	3階大会議室
第4回	2019年8月7日(水)	保存的加療後に結腸膀胱瘻を来したS状結腸癌穿孔の1例	21	3階大会議室
第5回	2019年9月4日(水)	制吐剤により薬剤性パーキンソニズムを来した胃癌の1例	20	3階大会議室
第6回	2019年10月2日(水)	高度肥満と病的骨折を伴った乳がんステージⅣの1例	30	3階大会議室
第7回	2019年11月6日(水)	癌性髄膜炎を発症した若年胃癌の1例	20	3階大会議室
第8回	2019年12月4日(水)	血友病を合併した悪性リンパ腫の1例	19	3階大会議室

■ 年間活動と実績

2019年度開催日と審議内容

がん診療連携拠点病院運営委員会開催日（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年5月30日(木)	21名	84.0%
第2回	2020年2月6日(木)	23名	88.0%

■ 審議内容

(1) 2019年5月30日(木)「大会議室」

- ・がん診療連携拠点病院運営委員会規程（案）について
- ・がん診療連携拠点病院の整備に関する指針について

(2) 2020年2月6日(木)「大会議室」

- ・市立釧路総合病院との緩和ケア研修会の共同開催について
- ・がん診療連携拠点病院の整備に関する指針について

目的と方針

本委員会は、診療材料等の適正な管理と効率的な購入を図ることを目的とする。

2020年度の目標

1. 安価で質を落とさない医療材料の採用を検討し、コスト削減に努める。
2. 医療材料の適正な使用を検討する。

委員会の構成

委員：20名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：10名
- ・看護師：4名
- ・医療職：3名
- ・事務局：2名
- ・書記：1名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

機器等整備検討委員会 (11回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月15日(月)	15名	75.0%
第2回	2019年5月13日(月)	15名	75.0%
第3回	2019年6月17日(金)	14名	70.0%
第4回	2019年7月12日(月)	14名	70.0%
第5回	2019年8月19日(月)	12名	60.0%
第6回	2019年9月30日(月)	14名	70.0%
第7回	2019年10月28日(火)	15名	75.0%
第8回	2019年11月29日(金)	16名	80.0%
第9回	2019年12月23日(月)	16名	80.0%
第10回	2020年1月27日(月)	13名	65.0%
第11回	2020年3月23日(月)	15名	71.4%

審議内容

[審議内容]

- ・コスト削減品の提案について
- ・サンプル品の調査結果について

[報告事項]

- ・値下げ品について

実績

- ・診療材料費を品目切替等により 2,400,482円(年間)削減した。

No.	切替品	金額(年間)	備考	No.	切替品	金額(年間)	備考
	ワンウェイガーゼCW 1302	▲ 4,229	値下げ	1	弾性ホータイ 各サイズ	▲ 32,750	切替
	検査用パンツ フリー・ロング	▲ 35,456	切替	2	綿耳付包帯 3裂・4裂・5裂	▲ 8,835	切替
	WiSM ソニック HS	▲ 4,901	切替	3	サージフィット 各サイズ	▲ 97,944	切替
	防水シート 90×100cm	▲ 33,772	切替	4	イレウスチューブ 開口 GW付き	▲ 257,950	値下げ
	検診ロールシート 37×30cm	▲ 3,782	切替	5	メディアンアルファ ディスポパーフォレーター	▲ 957	切替
	PQ酵素系洗剤 低起泡中性 4L	▲ 12,100	切替	6	セーフステップ 22G×19mm	▲ 43,395	切替
	滅菌Yカット 不織布タイプ 8piy	▲ 39,744	切替	7	ヒューバープラス 22G×18.8mm	▲ 7,370	値下げ
	パーカースバイアル 気管チューブ 7.0・8.0	▲ 6,600	切替	8	OBGYN KIT	▲ 71,552	切替
	ニトリルグローブソフトフィット 各サイズ	▲ 474,580	切替	9	ディスポガーゼカウン トホルダー	▲ 17,735	値下げ
	インターサーム 各種	▲ 184,800	切替	10	コンプライ 化学的インジケーターテープ	▲ 16,280	切替
	プラスチックエブロン 袖なし	▲ 33,621	切替	11	サラヤ プラスチック 手袋E 各サイズ	▲ 115,031	値下げ
	アルコール綿2-E 100包	▲ 76,300	値下げ	12	コンファウロシステムⅢ 各サイズ	▲ 37,455	切替
	内視鏡穿刺針 スーパーグリップ	▲ 649,363	値下げ	13	インジェクターチューブ 各種	▲ 133,980	切替
					合計	▲ 2,400,482	

血液浄化室安全管理委員会

委員長 佐々木 芳 浩

■ 目的と方針

本委員会は、透析機器の安全管理と安全な透析医療の提供に資することを目的とする。

■ 2020年度の目標

透析機器に関する安全管理を検討し、関係する医療関係者への啓発・意識向上に努める。

■ 委員会の構成

委員：12名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：5名
- ・看護師：2名
- ・臨床工学技士：2名
- ・事務局：2名
- ・書記：1名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

血液浄化センター安全管理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2020年3月27日(金)	7名	66.0%

■ 審議内容

(1) 2020年3月27日(金)

- ・水質管理報告について
- ・血液透析装置オンラインHDF用輸液ポンプの早期導入の依頼について

■ 実績

- ・透析装置（15台）の定期点検
- ・水質検査の実施

■ 目的と方針

本委員会は、在宅療養を行う患者及びその家族に対して、専門的立場から医療を提供し、地域と連携しながら在宅療養を支援する。

■ 委員会の構成

委員：12名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：4名
- 看護師：4名
- 医療職：1名
- 事務局：3名

■ 年間活動

2019年度開催日と審議内容

在宅医療運営委員会（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年5月13日(月)	11名	91.7%
第2回	2019年8月19日(月)	10名	83.3%
第3回	2019年9月9日(月)	10名	83.3%
第4回	2019年11月11日(月)	12名	100.0%
第5回	2020年1月20日(月)	10名	83.3%
第6回	2020年3月9日(月)	10名	83.3%

■ 審議内容

(1) 2019年5月13日(月)「栄養指導室」

- 訪問診療実施状況報告 4名の訪問診療

(2) 2019年8月19日(月)「栄養指導室」

- 訪問診療実施状況報告 4名の訪問診療

(3) 2019年9月9日(月)「栄養指導室」

- 訪問診療実施状況報告 4名の訪問診療

(4) 2019年11月11日(月)「栄養指導室」

- 訪問診療実施状況報告 5名の訪問診療

(5) 2020年1月20日(月)「栄養指導室」

- 訪問診療実施状況報告 5名の訪問診療

- 訪問診療の処方箋について

(6) 2020年3月9日(月)「栄養指導室」

- 訪問診療実施状況報告 4名の訪問診療

- 訪問診療時の患者への衛生材料の提供について

公舎管理委員会

委員長 磯部正則

■ 目的と方針

公舎管理委員会は、職員宿舎の効率的利用と貸与の公平を確保することを目的とする。

■ 2020年度の目標

職員宿舎の効率的な運用を検証し検討する。また、宿舎の施設管理に必要な事項を行う。

■ 委員会の構成

委員：11名

(2019年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：1名
- ・職員代表：1名
- ・事務局：7名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と協議内容

開催実績なし

目的と方針

職種や診療科の壁を越えたチームにより栄養管理を実践することにより、患者中心の医療を提供して患者QOL向上を達成することを目的とする。

2020年度の目標

1. 職種を超えたチームにより栄養治療を実施し院内での栄養治療に関する事項を協議・検討しその効果的な推進をはかる。
2. 摂食機能療法算定件数増に向けて取り組む。
3. NSTセミナーを年4回、継続的に実施する。

委員会の構成

委員：27名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：10名
- ・看護師：4名
- ・医療職：6名
- ・事務局：7名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

栄養管理／NST委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月9日(火)	26名	96.3%
第2回	2019年5月14日(火)	25名	92.6%
第3回	2019年6月11日(火)	27名	100.0%
第4回	2019年7月9日(火)	23名	85.2%
第5回	2019年8月13日(火)	25名	92.6%
第6回	2019年9月10日(火)	24名	88.9%
第7回	2019年10月8日(火)	26名	96.3%
第8回	2019年11月12日(火)	26名	96.3%
第9回	2019年12月10日(火)	27名	100.0%
第10回	2020年1月14日(火)	27名	100.0%
第11回	2020年2月18日(火)	26名	96.3%
第12回	2020年3月10日(火)	24名	88.9%

審議内容

(1) 2019年4月9日(火)「中会議室」

- ・栄養管理/NST委員会規定(案)について
- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について

- ・WGメンバー活動報告について

(2) 2019年5月14日(火)「中会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST生活習慣病対策チーム介入報告について
- ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について
- ・NSTセミナーについて

(3) 2019年6月11日(火)「小会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について
- ・摂食機能療法算定件数について
- ・次期医療情報システム更新時の意見・要望について

(4) 2019年7月9日(火)「小会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について

(5) 2019年8月13日(火)「中会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について
- ・NSTセミナー開催報告について

(6) 2019年9月10日(火)「大会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について

(7) 2019年10月8日(火)「中会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について

(8) 2019年11月12日(火)「小会議室」

- ・回診・介入報告について
- ・NST月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- ・栄養管理室業務報告について
- ・NST生活習慣病対策チーム介入報告について

(9) 2019年12月10日 (火) 「小会議室」

- 回診・介入報告について
- N S T月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- 栄養管理室業務報告について
- N S Tセミナー開催報告について

(10) 2020年1月14日 (火) 「中会議室」

- 回診・介入報告について
- N S T月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- 栄養管理室業務報告について
- 半固形栄養剤の注入に使用するコネクタについて

(11) 2020年2月18日 (火) 「中会議室」

- 回診・介入報告について
- N S T月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- 栄養管理室業務報告について
- N S Tセミナー開催報告について
- 次期病院情報システム更新について

(12) 2020年3月10日 (火) 「中会議室」

- 回診・介入報告について
- N S T月別介入人数・栄養サポートチーム加算・摂食機能療法算定件数について
- 栄養管理室業務報告について

■ 目的と方針

本委員会は、病院図書の購入、管理保管を目的とし、図書室及び電子ジャーナルの有効的な運用を含めた検討を行う。

■ 2020年度の目標

1. 電子ジャーナルの必要理由の確認について
2. 研修医向けのジャーナルの検討
3. 医学書・看護書巡回展示販売会の開催

■ 委員会の構成

委員：11名

(2019年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：5名
- ・看護師：1名
- ・薬剤師：1名
- ・事務局：3名
- ・書記：1名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

図書委員会開催日（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年6月19日(水)	11名	100.0%
第2回	2019年11月27日(水)	10名	90.0%

■ 審議内容

(1) 2019年6月19日(水)「中会議室」

[審議内容]

- ・医学書・看護書展示販売について

[報告事項]

- ・電子ジャーナルの利用状況について

(2) 2019年11月27日(水)「中会議室」

[審議内容]

- ・令和元年度メディカルオンライン、医中誌、Up to Dateの契約について

[報告事項]

- ・平成30年度電子ジャーナルの利用状況及び令和元年度継続利用について
- ・令和元年度以降の医学書、看護書展示販売については開催しない

■ 目的と方針

釧路労災病院において脳死者から臓器移植実施にあたって、レシピエントの選択並びにその適応を検討する。

■ 委員会の構成

委員：9名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：6名
- ・医療職：1名
- ・事務局：2名

■ 年間活動内容と実績

なし

■ 審議内容

なし

■ 目的と方針

エネルギーの効率的、効果的かつ合理的な使用について努め、エネルギー使用の節減と有効な利用を推進することを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 効率的で効果的な省エネルギー情報を収集し、実施する。
2. 職員の省エネルギーに対する意識向上と啓発を図る。

■ 委員会の構成

委員：12名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- | | |
|--------------|------------|
| ・医師：2名 | ・看護師：1名 |
| ・薬剤師：1名 | ・臨床検査技師：1名 |
| ・診療放射線技師：1名 | ・リハビリ技師：1名 |
| ・臨床工学技士：1名 | ・調理師：1名 |
| ・事務局：2名 | |
| ・エネルギー管理員：1名 | |

■ 年間活動内容と実績

なし

防災委員会

委員長 北 南 和 彦

■ 目的と方針

災害の防止及び火災時における初期消火並びに適正な避難誘導を訓練することによって、被害防止に資することを目的とする。

■ 2020年度の目標

火災や地震等を想定した訓練の実施及び適切な行動の検証を行うことで、職員の防災意識の啓発に努める。もって、災害発生時における在院者の安全確保と病院機能の維持を目指すものとする。

■ 委員会の構成

委員：12名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：1名
- ・医療安全管理者：1名
- ・医療職：3名
- ・防火・防災管理者：1名
- ・事務局：5名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

防災委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年10月4日(金)	10名	83.0%

■ 審議内容

(1) 2019年10月4日(金)「小会議室」

- ・災害対策マニュアルの改訂について
- ・消防訓練の実施について
- ・防災訓練の実施について

■ 年間活動実績

4月 新規採用職員消火訓練実施

10月 消防訓練実施

12月 防災訓練実施

■ 目的と方針

本委員会は、手術部の円滑な運営及び的な管理を図ることを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 手術室の効果的な運用
2. 手術枠の弾力的な見直し

■ 委員会の構成

委員：18名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

【内 訳】

- ・ 医 師：9名
- ・ 看 護 師：3名
- ・ 臨床工学技士：1名
- ・ 事 務 局：5名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

手術部運営委員会（11回開催）

	開 催 日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月10日(水)	17名	94.4%
第2回	2019年5月15日(水)	18名	100.0%
第3回	2019年6月13日(水)	17名	94.4%
第4回	2019年7月10日(水)	18名	100.0%
第5回	2019年8月14日(水)	15名	83.3%
第6回	2019年9月11日(水)	15名	83.3%
第7回	2019年10月9日(水)	16名	88.9%
第8回	2019年11月13日(水)	16名	88.9%
第9回	2019年12月11日(水)	14名	77.8%
第10回	2020年1月15日(水)	16名	88.9%
第11回	2020年2月12日(水)	17名	94.4%
第12回	2020年3月11日(水)	-	-

※第12回は開催中止

■ 審議内容

(1) 2019年4月10日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- ・ 2019年度手術枠について
- ・ 2019年度麻酔科体制について
- ・ 麻酔科学会期間の全身麻酔制限について

(2) 2019年5月15日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- ・ 2019年度手術枠について
- ・ 2019年度麻酔科体制について

- ・ 麻酔科学会期間の全身麻酔制限について

- ・ 2019年度夏季休暇時の麻酔科体制について

(3) 2019年6月13日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ 時間外、夜間の麻酔科対応について

- ・ 麻酔科学会期間の全身麻酔制限について

- ・ 2019年度夏季休暇時の麻酔科体制について

- ・ インジケーターの滅菌業務について

(4) 2019年7月10日(水)「小会議室」

- ・ 手術室の業務分析調査実施について

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

(5) 2019年8月14日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ 手術室の業務分析調査実施の予定日について

- ・ 手術枠の見直しについて

(6) 2019年9月11日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ 手術室の業務分析調査の報告会について

(7) 2019年10月9日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ 手術室の業務分析調査の経過について

(8) 2019年11月13日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ 年末年始における全身麻酔枠の制限について

(9) 2019年12月11日(水)「小会議室」

- ・ 2月以降の形成外科の手術枠について

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ シリンジ口径の規格変更について

- ・ 手術室の業務分析調査の結果報告について

(10) 2020年1月15日(水)「小会議室」

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ 2月以降の形成外科の手術枠について

- ・ シリンジ口径の規格変更について

- ・ 手術材料のキット化について

(11) 2020年2月12日(水)「小会議室」

- ・ 2020年3月以降の形成外科手術の運用について

- ・ 全身麻酔実施件数及び手術件数について

- ・ シリンジ口径の規格変更について

輸血療法委員会

委員長 宮城島 拓 人

目的と方針

本委員会は、厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」（平成17年9月6日付）に沿い、病院内の血液製剤の適正使用及び輸血療法の適正化に努めるよう審議することを目的とした病院長の諮問機関とする。

2020年度の目標

1. 剤の適正使用のための必要事項を審議する。
2. 血液製剤使用状況を報告する。

委員会の構成

委員：13名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

〔内 訳〕

- ・医師：6名
- ・看護師：2名
- ・薬剤師：1名
- ・医療職：2名
- ・事務局：2名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

輸血療法委員会（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年5月30日(木)	11名	84.6%
第2回	2019年7月30日(火)	10名	76.9%
第3回	2019年9月26日(木)	11名	84.6%
第4回	2019年11月21日(木)	12名	92.3%
第5回	2020年1月28日(火)	12名	92.3%
第6回	2020年3月24日(火)	9名	69.2%

報告・審議内容

(1) 2019年5月30日「小会議室」

血液製剤使用状況の報告
その他

- ・輸血の全自動機械導入について

(2) 2019年7月30日「小会議室」

血液製剤使用状況の報告
その他

(3) 2019年9月26日「小会議室」

血液製剤使用状況の報告
その他

- ・輸血療法説明書の改訂について
- ・不規則抗体スクリーニング検査の依頼と交差試験の検査法の変更について

(4) 2019年11月21日「小会議室」

血液製剤使用状況の報告
その他

(5) 2020年1月28日「小会議室」

血液製剤使用状況の報告
その他

- ・施設基準上位取得について

(6) 2020年3月24日「小会議室」

血液製剤使用状況の報告
その他

- ・来年度の委員メンバー及び規程について
- ・適正なオーダーについてお願い
- ・輸血管理料1取得について

■ 目的と方針

医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 医療ガスに関する知識を普及し、啓発に努める。
2. 医療ガス設備の安全管理に努める。

■ 委員会の構成

委員：8名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医 師：2名
- ・看 護 師：1名
- ・薬 剤 師：1名
- ・臨床工学技士：2名
- ・事 務 局：2名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

医療ガス安全管理委員会（2回開催）

	開 催 日	出席人数	出席率
第1回	2019年5月28日(火)	8名	100.0%
第2回	2019年11月26日(火)	7名	87.5%

■ 審議内容

- (1) 2019年5月28日(火)「小会議室」
 - ・医療ガス設備保守点検の報告（4月分）
- (2) 2019年11月26日(火)「小会議室」
 - ・4月医療ガス設備保守点検時の指摘事項についての経過報告
 - ・7月と10月分医療ガス設備保守点検の報告
 - ・E O G作業環境測定について作業環境測定結果報告

■ 実 績

- ・2019年5月31日
新人看護師研修「医療ガス取扱講習会」
- ・2019年12月6日
「医療ガス取扱講習会」

褥瘡対策委員会

委員長 池田正起

目的と方針

病院内の褥瘡対策を討議。検討しその効果的な推進をはかる。

2020年度の目標

1. 定期的な委員会の開催による情報の把握と管理を行う。
2. 月毎の褥瘡発生件数データを収集し、動向を把握する。
3. 褥瘡予防用具を検討し、選定を行う。

委員会の構成

委員：9名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・専任医師：1名
- ・褥瘡管理者：1名
- ・専任看護師：2名
- ・医療安全管理者：1名
- ・管理栄養士：1名
- ・主任薬剤師：1名
- ・主任理学療法士：1名
- ・事務局：1名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

褥瘡対策委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月9日(火)	8名	100.0%
第2回	2019年5月14日(火)	8名	100.0%
第3回	2019年6月11日(火)	7名	87.5%
第4回	2019年7月9日(火)	7名	87.5%
第5回	2019年8月13日(火)	8名	100.0%
第6回	2019年9月10日(火)	8名	100.0%
第7回	2019年10月8日(火)	8名	100.0%
第8回	2019年11月12日(火)	8名	100.0%
第9回	2019年12月10日(火)	8名	100.0%
第10回	2020年1月14日(火)	8名	100.0%
第11回	2020年2月13日(火)	8名	100.0%
第12回	2020年3月10日(火)	7名	87.5%

審議・報告内容

(1) 2019年4月9日(火)「小会議室」

- ・3月の褥瘡患者について
- ・平成30年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について

- ・褥瘡発生報告書未提出について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(2) 2019年5月14日(火)「小会議室」

- ・4月の褥瘡患者について
- ・平成31年度4月褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について
- ・褥瘡学会の開催予定について

(3) 2019年6月11日(火)「小会議室」

- ・5月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(4) 2019年7月9日(火)「小会議室」

- ・6月の褥瘡患者について
- ・除圧用品の検討について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」(用紙2)について

(5) 2019年8月13日(火)「小会議室」

- ・7月の褥瘡患者について
- ・褥瘡学会の開催予定について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」(用紙2)について
- ・各診療科の褥瘡対策について
- ・褥瘡対策委員会の開催時刻について

(6) 2019年9月10日(火)「小会議室」

- ・8月の褥瘡患者について
- ・褥瘡学会の開催予定について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(7) 2019年10月8日(火)「小会議室」

- ・9月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について

- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(8) 2019年11月12日(火)「小会議室」

- ・10月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(9) 2019年12月10日(火)「小会議室」

- ・11月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(10) 2020年1月14日(火)「小会議室」

- ・12月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について
- ・褥瘡学会の開催予定について

(11) 2020年2月13日(火)「小会議室」

- ・1月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について

(12) 2020年3月10日(火)「小会議室」

- ・2月の褥瘡患者について
- ・令和元年度褥瘡有病率・褥瘡推定発生率について
- ・褥瘡発生報告書未提出について
- ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ・「褥瘡対策に関する診療計画書」作成状況について
- ・褥瘡対策委員会規程について
- ・褥瘡対策マニュアルの見直しについて
- ・褥瘡学会の開催中止について

●褥瘡ハイリスク加算算定件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
83	75	89	89	92	94	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
83	94	90	96	92	82	1,059

●褥瘡有病率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
2.8%	2.5%	2.1%	2.5%	2.1%	3.2%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2.7%	2.5%	2.8%	3.8%	2.2%	2.9%	2.63%

●褥瘡推定発生率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
1.11%	0.00%	0.30%	1.11%	0.60%	0.95%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
1.20%	0.92%	1.23%	1.26%	0.83%	0.33%	0.83%

年間活動実績

- ・1年にわたり、3回（新人看護師対象2回、前職員対象1回）の褥瘡研修を行った。
- ・医療関連機器損傷予防の材料を導入した。
- ・NSTと連携した褥瘡回診を行った。
- ・褥瘡に係るサンプル商品の評価
- ・院内褥瘡発生要因から自部署の特徴をとらえ、来年度の褥瘡予防活動計画へ反映させた。

診療用放射線/放射線安全運営委員会

委員長 梶山政義

■ 目的と方針

本委員会は、放射線障害予防規程、放射線障害予防運用細則の適正で効率的運用を図るため、予防規程第11条に定める放射線障害防止について必要な事項を企画、審議するため、及び、放射線関連業務を円滑に運営することを目的とする。

■ 2020年度の目標

1. 放射線測定器の構成について計画的に実施する。
2. 個人被曝線量測定器を順次更新し、従事者の安全を確保する。
3. 放射線関連機器の精度管理、早期点検の実施。
4. 放射線機器更新に係る円滑な導入。

■ 委員会の構成

委員：21名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：6名
- ・看護師：1名
- ・医療職：12名
- ・事務局：2名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

診療用放射線/放射線安全運営委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年11月14日(木)	20名	100.0%
第2回	2020年3月10日(金)	12名	100.0%

■ 審議・報告内容

(1) 2019年11月14日(木)「小会議室」

- ・診療用放射線安全管理指針(案)について
- ・MR I体内金属ガイドラインの作成(案)について
- ・放射線治療ダブルチェック継続について
- ・被ばく線量の管理法について

(2) 2020年3月10日(火)「小会議室」

- ・令和2年4月から施行する医療法施行規則改定に伴う委員会指針、及び、委員会規程について
- ・MR I金属ガイドラインに沿った運用について

目的と方針

中央検査部の円滑な運営及び適切な管理を図ることを目的とする。

2020年度の目標

1. 中央検査部内の統計状況（件数・収支など）の報告をする。
2. 臨床検査の精度管理状況を報告する。院内の日常的精度管理に加え、日本臨床検査技師会や日本医師会など外部組織が主催する精度管理調査への参加。
3. 他部門への連絡事項の発信と提案事項の審議を行う。検査項目の追加や削除、院内検査から外部委託検査への変更あるいはその逆、検査基準範囲の見直しなど。

委員会の構成

委員：12名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

〔内 訳〕

- ・医師：6名
- ・看護師：2名
- ・事務局：1名
- ・臨床検査技師：3名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

中央検査部管理運営委員会開催日（3回開催）

	開催日	出席(委任を含む)人数	出席率
第62回	2019年6月24日(月)	9名	75.0%
第63回	2019年10月31日(木)	9名	75.0%
第64回	2020年2月26日(水)	新型コロナウイルス入院患者発生の為、開催中止(委員へ資料配布のみ)	

審議・報告内容

(1) 第62回 2019年6月24日(月)「栄養指導室」

- ・補正カルシウム値の追加報告提案
- ・精度管理報告…中央検査部内部精度管理について
- ・中央検査部統計報告…検査件数、検体管理加算件数および管理加算料等について

(2) 第63回 2019年10月31日(木)「栄養指導室」

- ・リンパ球数実数の追加報告提案
- ・精度管理報…中央検査部内部精度管理および令和元年度日本臨床検査精度管理調査
- ・中央検査部統計報告…検査件数、検体管理加算件数および管理加算料等について

(3) 第64回 2020年2月26日(水)「委員へ資料配布のみ」

- ・精度管理報告…中央検査部内部精度管理、令和元年度日本医師会精度管理調査および日本臨床検査精度管理調査是正処置
- ・中央検査部統計報告…検査件数、検体管理加算件数および管理加算料等について

実績

- ①追加報告提案（補正カルシウム値）が承認された。
- ②追加報告提案（リンパ球実数）が承認された。
- ③令和元年度日臨技臨床検査精度管理調査報告…99.2点/100点で良好であった。
- ④令和元年度日本医師会臨床検査精度管理調査報告…99.4点/100点で良好であった。

⑤検査件数および各種金額（表中括弧内%は前年同時期比）

委員会開催回数	第62回	第63回	第64回
委員会開催日	2019.6.24	2019.10.31	2020.2.26
集計期間	2018.4.1-2019.3.31	2019.4.1-2019.9.30	2019.4.1-2020.1.31
検査件数 (件)	1,759,636 (8.6%増)	970,380 (11.7%増)	1,619,771 (10.2%増)
検体管理加算件数 (件)	98,858 (77.3%増)	50,619 (2.8%増)	83,814 (1.5%増)
検体管理加算料 (千円)	62,573 (10.6%増)	31,023 (0.4%増)	51,457 (1.6%減)
検査実施料 (千円)	515,543 (8.0%増)	282,875 (10.8%増)	468,863 (9.0%増)
委託検査件数 (件)	30,381 (20.3%増)	18,932 (34.4%増)	32,242 (30.5%増)
委託検査支払額 (千円)	60,207 (19.9%増)	38,934 (38.9%増)	70,954 (47.0%増)

■ 目的と方針

保育委員会は、院内保育所の適正な運営に資することを目的とする。

■ 2020年度の目標

保育所の運営に関する重要事項、保育所管理者の諮問事項を審議し、適正な運営を行う。

■ 委員会の構成

委員：10名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：1名
- ・保育士：2名
- ・母親代表：1名
- ・職員代表：1名
- ・事務局：4名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容
開催実績なし

健診業務体制整備委員会

委員長 辻 本 和 代

■ 目的と方針

本委員会は、健康診断業務体制整備を目的としたものであり、健康診断業務に関する事項の業務遂行を円滑に運営するために審議、検討を行う。

■ 2020年度の目標

1. 情勢に応じた健診項目の導入。
2. 迅速な結果通知。
3. 安心して検査を受けられるよう体制整備。

■ 委員会の構成

委員：9名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：2名
- ・医療職：2名
- ・事務局：4名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

健診業務体制整備委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年9月11日(水)	8名	100.0%
第2回	2020年1月16日(木)	8名	100.0%

■ 審議内容

(1) 2019年9月11日(水)「小会議室」

- ・2019年度委員会規程（案）について
- ・MRI更新に伴う脳ドック枠の増設について
- ・健診部の移設について
- ・各種健診実施件数の報告について

(2) 2020年1月16日(木)「人間ドック室」

- ・人間ドック等の検診を受けられる方への検査結果説明について
- ・特殊外来等の移設について

目的と方針

広報の円滑な発行に資すること及び患者、医療関係者、マスコミ、その他外部機関に対して病院職員が組織横断的に広報活動を行い病院の広報戦略を企画立案し実行する。

2020年度の目標

1. 病院の情報を素早く、正確に、わかりやすく地域に伝達する。
2. 既成概念にとらわれず、柔軟な発想力を持って委員会を運営する。
3. 各委員会が自覚を持ち、委員会の質の向上を図って行く。

委員会の構成

委員：15名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：1名
- ・医療職：5名
- ・看護師：1名
- ・事務局：8名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

広報編集委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月8日(月)	14人	93.3%
第2回	2019年5月13日(月)	15人	100.0%
第3回	2019年6月10日(月)	13人	86.7%
第4回	2019年7月8日(火)	13人	86.7%
第5回	2019年8月13日(火)	13人	86.7%
第6回	2019年9月9日(月)	13人	86.7%
第7回	2019年10月7日(月)	14人	93.3%
第8回	2019年11月11日(月)	15人	100.0%
第9回	2019年12月9日(月)	12人	80.0%
第10回	2020年1月14日(月)	13人	86.7%
第11回	2020年2月10日(月)	12人	80.0%
第12回	2020年3月3日(火)	15人	100.0%

審議内容

(1) 2019年4月8日(月) [大会議室]

- ・4月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「春号」の進捗状況について
- ・ホームページ改修作業報告
- ・その他(広報編集委員会について)

(2) 2019年5月13日(月) [大会議室]

- ・5月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「春号」の進捗状況について
- ・ホームページ改修作業報告について
- ・その他(広報紙の配布先について)

(3) 2019年6月10日(月) [大会議室]

- ・6月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「秋号」の発行スケジュールについて
- ・ホームページ改修作業報告について
- ・その他(病院DVD作成について)

(4) 2019年7月8日(火) [大会議室]

- ・7月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「秋号」の進捗状況について
- ・ホームページ改修作業報告
- ・その他(病院DVD作成について)

(5) 2019年8月13日(火) [大会議室]

- ・8月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「秋号」の進捗状況について
- ・ホームページ改修作業報告
- ・その他(病院DVD作成について)

(6) 2019年9月9日(月) [大会議室]

- ・9月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「秋号」の進捗状況について
- ・ホームページ改修作業報告
- ・その他

(7) 2019年10月7日(月) [大会議室]

- ・10月発行分広報紙(地域医療連携総合センターだより)について
- ・ろうさいかわら版「新春号」の発行スケジュールについて
- ・ホームページ改修作業報告

- その他
- (8) 2019年11月11日（月）〔大会議室〕
 - 11月発行分広報紙（地域医療連携総合センターだより）について
 - ろうさいかわら版「新春号」の進捗状況について
 - ホームページ改修作業報告
 - その他（病院DVDホームページ掲載について）
- (9) 2019年12月9日（月）〔大会議室〕
 - 12月発行分広報紙（地域医療連携総合センターだより）について
 - ろうさいかわら版「新春号」の進捗状況について
 - ホームページ改修作業報告
 - その他
- (10) 2020年1月14日（月）〔大会議室〕
 - 1月発行分広報紙（地域医療連携総合センターだより）について
 - ろうさいかわら版「新春号」の進捗状況について
 - ホームページ改修作業報告
 - バランス・スコアカード評価指標実績報告
- (11) 2020年2月10日（月）〔大会議室〕
 - 令和2年度委員会規程について
 - 2月発行分広報紙（地域医療連携総合センターだより）について
 - ろうさいかわら版「春号」の発行スケジュールについて
 - ホームページ改修作業報告
- (12) 2020年3月3日（火）〔持ち回り〕
 - 3月発行分広報紙（地域医療連携総合センターだより）について
 - ろうさいかわら版「春号」の進捗状況について
 - ホームページ改修作業報告

■ 目的と方針

病院誌「やちぼうず」編集委員会は、釧路労災病院年報の円滑な発行に資することを目的とする。また、当院が果たせる役割や機能を可能な限り情報提供し、組織の透明性を高めることで、地域との信頼関係を構築させる。

■ 2020年度の目標

1. 釧路労災病院年報の円滑な発行に資すること。
2. 当院が果たせる役割や機能の情報提供をわかりやすく行う。

■ 委員会の構成

委員：9名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：3名
- 看護師：1名
- 事務局：5名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

病院誌「やちぼうず」編集委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月24日(水)	8人	88.9%
第2回	2019年10月18日(金)	9人	100.0%
第3回	2020年3月11日(水)	9人	100.0%

■ 審議内容

(1) 2019年4月24日(水)「大会議室」

- 2018年病院誌「やちぼうず」の構成案、スケジュールについて
- 「やちぼうず」の配付について
- 病院誌「やちぼうず」編集委員会規程(案)について

(2) 2019年10月18日(金)「持ち回り」

- 2018年病院誌「やちぼうず」の進捗状況について

(3) 2020年3月11日(水)「持ち回り」

- 令和2年度委員会規について

衛生委員会

委員長 高見文猛

■ 目的と方針

職員の安全及び衛生管理に関して調査・研究審査し、安全衛生活動の推進徹底を図ることを目的とし、長時間労働者の実態把握のみならず、長時間労働となっている医師、診療科ごとの対応策について個別に議論できるよう長時間労働の要因を分析し、労働時間の短縮に努める。

■ 2020年度の目標

1. 職員の健康障害を防止するための基本となる対策の樹立
2. 職員の健康障害の原因の調査及び再発の防止に係る対策の樹立
3. 職員の衛生に係る教育の実施計画の作成
4. 健康診断の実施及びその結果に対する対策
5. 前各号に掲げるもののほか健康管理に必要な措置

■ 委員会の構成

委員：13名

(2020年3月現在、委員長・労働者代表推薦6名・書記含む)

【内 訳】

- ・医師：2名
- ・看護師：5名
- ・医療職：2名
- ・事務局：4名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

衛生委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月16日(火)	13名	100.0%
第2回	2019年5月23日(火)	11名	84.6%
第3回	2019年6月18日(火)	11名	84.6%
第4回	2019年7月16日(火)	9名	69.2%
第5回	2019年8月20日(火)	8名	61.5%
第6回	2019年9月17日(火)	11名	84.6%
第7回	2019年10月15日(火)	11名	84.6%
第8回	2019年11月19日(火)	12名	92.3%
第9回	2019年12月17日(火)	11名	84.6%
第10回	2020年1月21日(火)	9名	69.2%
第11回	2020年2月18日(火)	12名	92.3%
第12回	2020年3月17日(火)	12名	92.3%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月16日(火)「小会議室」
 - ・職員定期健康診断日程(案)について
 - ・特定健康診査の質問票のOCR化について
 - ・新規採用職員ワクチンプログラム(案)について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (2) 2019年5月23日(火)「大会議室」
 - ・新規採用職員ワクチンプログラム(案)の変更について
 - ・令和元年度職場巡視(案)について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (3) 2019年6月18日(火)「小会議室」
 - ・病院誌「やちぼうず」に掲載する委員会報告(案)について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・職員定期健康診断について
- (4) 2019年7月16日(火)「小会議室」
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・職場巡視について
 - ・令和元年度職員健康診断受診状況について
- (5) 2019年8月20日(火)「小会議室」
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (6) 2019年9月17日(火)「小会議室」
 - ・インフルエンザ予防接種の実施について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (7) 2019年10月15日(火)「小会議室」
 - ・令和元年度特殊業務従事者健康診断の実施について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・疲労蓄積度自己診断チェックリストについて
- (8) 2019年11月19日(火)「小会議室」
 - ・当機構健康保険組合による出張特定保健指導の実施について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・令和元年度特殊業務従事者健康診断の実施について

- (9) 2019年12月17日 (火) 「小会議室」
- ・職員健康情報等の取扱について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・令和元年インフルエンザ予防接種実施者数について
- (10) 2020年1月21日 (火) 「小会議室」
- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・令和元年度特殊業務従事者健康診断受診者数について
- (11) 2020年2月18日 (火) 「小会議室」
- ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
- (12) 2020年3月17日 (火) 「小会議室」
- ・令和2年度委員会規程・運営方針・構成(案)について
 - ・産業医による長時間勤務者への面接指導について
 - ・業務上災害及び診断書提出者について
 - ・職場巡視について

■ 年間活動実績

- (1) 産業医による長時間労働者への面談
- (2) 業務上災害・病気療養者の報告
- (3) ワクチン予防接種の実施 (B型肝炎ワクチン、4種流行性ワクチン、インフルエンザワクチン)
- (4) 職員定期健康診断・特殊業務従事者健康診断の実施
- (5) 職場巡視の実施
- (6) 職員ストレスチェックの実施

患者サービス向上委員会

委員長 杉山好美

■ 目的と方針

患者サービスに関する問題点を明確にした上で、その改善策を検討し、これらの継続的な活動を進める。

■ 2020年度の目標

1. 接遇改善
2. 患者の利便性改善（患者図書の改善、掲示板の整備・ラウンドの実施等）
3. 療養環境の向上（敷地内清掃、フロアの飾り付け等）
4. 患者投書の回答掲示・職員への周知

■ 委員会の構成

委員：20名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

[内 訳]

- ・医師：3名
- ・看護部：5名
- ・医療職：4名
- ・事務局：8名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月10日(水)	19名	95.0%
第2回	2019年5月8日(水)	18名	90.0%
第3回	2019年6月12日(水)	19名	95.0%
第4回	2019年7月10日(水)	19名	95.0%
第5回	2019年8月14日(水)	20名	100.0%
第6回	2019年9月11日(水)	18名	90.0%
第7回	2019年10月9日(水)	19名	95.0%
第8回	2019年11月13日(水)	18名	90.0%
第9回	2019年12月11日(水)	18名	90.0%
第10回	2020年1月8日(水)	19名	95.0%
第11回	2020年2月12日(水)	18名	90.0%
第12回	2020年3月19日(水)	14名	70.0%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月10日(水)「大会議室」
 - ・今年度の活動計画について
 - ・投書について
- (2) 2019年5月8日(水)「大会議室」
 - ・グループ年間活動計画について
 - ・看護週間コンサートについて
 - ・投書について
- (3) 2019年6月12日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について（病棟浴室の特別清掃の実施について）
- (4) 2019年7月10日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
 - ・全国労災病院の患者サービス向上委員会の活動実績について
- (5) 2019年8月14日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について（病棟トイレの案内表示について）
 - ・令和元年度患者満足度調査の実施について
- (6) 2019年9月11日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (7) 2019年10月9日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (8) 2019年11月13日(水)「大会議室」
 - ・クリスマスコンサートの開催案について
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (9) 2019年12月11日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
- (10) 2020年1月8日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・投書について
 - ・患者満足度調査の結果について
- (11) 2020年2月12日(水)「大会議室」
 - ・グループ活動について
 - ・接遇チェックリストの改定について
 - ・投書について
- (12) 2020年3月19日(水)「持ち回り」
 - ・令和2年度の委員会規定（案）について

- グループ活動について
- 投書について

■ 実績

- ロビーコンサート、クリスマスコンサートの実施
(5月、12月)
- 院内ラウンド及び院内掲示物整備 (5月)
- 七夕飾りの実施 (7月)
- 敷地内清掃の実施 (8月)
- 患者満足度調査の実施 (9月)
- 接遇チェックの実施 (11月)
- 市内児童作品展の作品展示 (2月)
- 患者図書室の整備

病院機能評価委員会

委員長 小笠原 和 宏

■ 目的と方針

本委員会は、病院機能評価の認定期間における医療の質改善活動の推進及び中間にあたる取組状況の報告に対応することを目的とする。

■ 委員会の構成

委員：13名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：4名
- ・医療職：1名
- ・事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

病院機能評価委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年10月23日(水)	12名	100.0%
第2回	2019年12月6日(金)	12名	100.0%

■ 審議内容

(1) 2019年10月23日(水)「小会議室」

- ・病院機能評価認定更新について
- ・病院機能評価作業分担票について
- ・前回の病院機能評価（3rdg：V1.1）結果について
- ・今回の病院機能評価（3rdg：V2.0）について
- ・病院機能評価に向けた組織体制（案）、スケジュール（案）について

(2) 2019年12月6日(金)「小会議室」

- ・他施設病院機能評価受審見学の報告について
- ・病院機能評価項目の分担表について
- ・訪問審査受入不可能日の登録及び、訪問審査当日の進行表について

■ 目的と方針

医師の業務負担軽減及び処遇改善に資する計画・評価を行うため、ドクターズクラークの対制及び業務内容の整備を目的とする。

■ 2020年度の目標

1. ドクタークラークが行う業務教育
2. ドクタークラークの適正配置
3. 医師が依頼する業務のルール作成
4. 年間計画の達成

■ 委員会の構成

委員：23名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- 医師：12名
- 看護師：3名
- 事務局：8名

■ 年間活動内容と実績

2019年度開催日と協議内容

ドクターズクラーク運営委員会（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月10日(木)	20名	87.0%
第2回	2019年6月12日(木)	19名	82.6%
第3回	2019年8月15日(木)	19名	82.6%
第4回	2019年10月9日(木)	16名	69.6%
第5回	2019年12月11日(木)	19名	82.6%
第6回	2020年2月12日(水)	20名	87.0%

■ 審議内容

- (1) 2019年4月10日(木)「大会議室」
 - ドクタークラーク運営委員会規定(案)について
 - ドクタークラーク配置状況について
 - ドクタークラーク業務内容について
- (2) 2019年6月12日(木)「大会議室」
 - ドクタークラーク配置状況について
 - ドクタークラークに対するアンケート調査の実施について
- (3) 2019年8月15日(木)「大会議室」
 - ドクタークラーク配置状況について
 - ドクタークラークに対するアンケート調査の実施について
 - ドクタークラークの外来配置に関する院内掲示について
- (4) 2019年10月9日(木)「大会議室」
 - ドクタークラーク配置状況について
 - ドクタークラーク業務内容について
 - ドクタークラークに対するアンケート調査の結果について
- (5) 2019年12月11日(木)「大会議室」
 - ドクタークラーク配置状況について
 - ドクタークラーク業務内容について
 - ドクタークラークの作業スペース確保について
- (6) 2020年2月12日(水)「大会議室」
 - ドクタークラーク配置状況について
 - ドクタークラーク業務内容について

勤務医／看護職員等負担軽減対策委員会

委員長 宮城島 拓 人

目的と方針

医師および看護職員等の負担軽減及び処遇改善を図ることを目的とする。

委員会の構成

委員：14名

(2020年3月現在、委員長・書記を含む)

[内 訳]

- ・医師：4名
- ・看護師：4名
- ・医療職：3名
- ・事務局：3名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

勤務医／看護職員負担軽減対策委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年7月4日(木)	13名	92.9%
第2回	2019年11月12日(火)	14名	100.0%
第3回	2020年2月27日(木)	10名	71.4%

審議内容

(1) 2019年7月4日(木)「小会議室」

- ・令和元年度医師業務負担軽減計画の対応状況について
- ・令和元年度看護師負担軽減計画の対応状況について

(2) 2019年11月12日(火)「小会議室」

- ・令和元年度医師業務負担軽減計画の対応状況について
- ・令和元年度看護師負担軽減計画の対応状況について

(3) 2020年2月27日(木)「小会議室」

- ・勤務医負担軽減対策委員会及び看護職員等負担軽減対策委員会規程及びメンバー(案)について
- ・令和元年度医師業務負担軽減計画の対応状況について
- ・令和元年度看護師負担軽減計画の対応状況について
- ・令和2年度医師業務負担軽減計画(案)について
- ・令和2年度看護師負担軽減計画(案)について

目的と方針

病院長（及び釧路労災看護専門学校長）から付議された研究者の利益相反（COI）自己申告書の審査及び利益相反回避勧告を行うことを目的とする。

委員会の構成

委員：10名

（2020年3月現在、委員長・書記を含む）

【内 訳】

- ・医師：1名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・外部委員：2名
- ・事務局：5名

年間活動内容と実績

2019年度開催日と審議内容

医学系研究利益相反管理委員会（5回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2019年4月12日(金)	10人	100.0%
第2回	2019年6月14日(金)	10人	100.0%
第3回	2019年8月20日(火)	10人	100.0%
第4回	2019年12月18日(水)	10人	100.0%
第5回	2020年1月31日(金)	10人	100.0%

審議内容

（1）2019年4月12日（金）「持ち回り開催」

- ・利益相反自己申告書にかかる審査
「RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFOXIRI+ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験」

（2）2019年6月14日（金）「持ち回り開催」

- ・利益相反自己申告書にかかる審査
「北海道におけるC型非代償性肝硬変肝炎患者数と治療導入率に関する検討」
「C型肝炎ウイルス感染患者に対するsofosbuvir/velpatasvir併用療法の安全性、治療効果の検討」

（3）2019年8月20日（火）「持ち回り開催」

- ・利益相反自己申告書にかかる審査
「RAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発大腸癌患者に対するmFOLFOX6+ベバシズマブ併用療法とmFOLFOX6+パニツムマブ併用療法の有

効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験」

「遠隔転移を有するまたは再発腺癌に対する一次治療Oxaliplatin+Irinotecan+S-①併用療法（OX-IRIS療法）の他施設共同医師主導前向き単群第Ⅱ相臨床試験」

（4）2019年12月18日（水）「持ち回り開催」

- ・利益相反自己申告書にかかる審査
「切除不能進行再発大腸癌の2次治療患者を対象としたfluoropyrimidine+irinotecan+bevacizumab療法とtrifluridine/tipiracil+bevacizumab療法のランダム化比較第2/3相試験」

（5）2020年1月31日（金）「持ち回り開催」

- ・利益相反自己申告書にかかる審査
「スモンに関する調査研究（釧路地区における患者の現状調査）」
「初回化学療法に不応の治癒切除不能進行・再発胃癌に対するイリノテカン／ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験」
「切除不能・再発胃癌に対するS-1, Nab-paclitaxel, Oxaliplatin併用療法第Ⅰ／Ⅱ相試験」

IV. 医療統計

患者数の推移（入院・外来）	125
診療科別入院患者数の推移	126
診療科別外来患者数（令和元年度）	127
診療科別入院単価の推移	128
診療科別外来単価の推移	128
紹介率・逆紹介率の推移	129
病床利用率の推移	129
平均在院日数の推移	130
時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移	131
救急車受入件数（総数と1日平均）	132
手術件数の推移（手術室内）	132
全身麻酔件数の推移	133
化学療法件数の推移（入院・外来）	133
透析件数の推移（入院・外来）	134
内視鏡件数の推移（上部・下部）	134
放射線治療件数の推移	135
解剖件数の推移	135
2019年度後発医薬品指数	136
D P C 14桁 診断群分類上位頻度表（全科共通）	136
D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表	137
K c o d e 診療科別上位頻度表	140



患者数の推移（入院・外来）

年度別		単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入院	承認病床数(床)		500	467	450	450	450
	稼働病床数(床)		450	450	450	450	450
	入院患者延数(人)		135,740	134,099	132,724	133,276	125,929
	1日平均患者数(人)		371	367	364	365	344
	新入院患者数(人)		8,643	8,783	8,805	9,054	8,779
	退院患者数(人)		8,647	8,755	8,870	9,043	8,803
	病床利用率(%)		82.4	81.6	80.8	81.1	76.4
	平均在院日数(日)		16.1	15.6	15.3	15.1	14.7
	病床回転数(回)		22.7	23.4	23.9	20.1	19.0
	1人1日当単価(円)		47,878	47,173	47,729	49,558	51,965
	診療実日数(日)		366	365	365	365	366
	院内死亡患者数(人)		400	393	353	409	345
	院内死亡率(%)		4.4	4.3	4.1	4.5	3.9
	解剖検体数(件)		9	4	6	6	6
	剖検率(%)		2.3	1.0	1.7	1.5	1.7
	労災患者延数(人)		3,732	3,197	3,570	3,952	2,879
	労災患者比率(%)		0.5	2.4	2.7	3.0	2.3
	時間外新入院患者数(人)		962	1,156	1,070	1,190	1,139

年度別		単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
外来	外来患者延数(人)		241,294	240,156	241,328	244,278	239,997
	1日平均患者数(人)		993	988	989	1,001	1,000
	新外来患者数(人)		18,058	16,702	16,212	16,583	15,858
	新外来患者率(%)		7.5	7.0	6.7	6.8	6.6
	平均通院回数(回)		13.4	14.4	14.9	14.7	15.1
	1人1日当単価(円)		13,790	14,169	14,837	14,551	15,660
	診療実日数(日)		243	243	244	244	240
	入院中外来併診数(人)		36,531	42,103	40,251	41,904	40,895
	労災患者延数(人)		8,885	8,766	11,414	12,207	15,820
	労災患者比率(%)		3.7	3.7	4.7	5.0	6.6
	時間外外来患者数(人)		3,691	3,815	3,439	3,481	3,443

診療科別入院患者数の推移

(単位：人)

	29 年 度				30 年 度				元 年 度			
	入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	52,554	144.0	3,831	10.5	56,071	153.6	4,049	11.1	52,667	143.9	4,217	11.5
神 経 内 科	5,430	14.9	214	0.6	6,066	16.6	197	0.5	6,085	16.6	204	0.6
循 環 器 内 科	0	0.0	0	0.0	4	0.0	1	0.0	27	0.1	3	0.0
小 児 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
外 科	12,551	34.4	801	2.2	11,944	32.7	885	2.4	13,401	36.6	966	2.6
整 形 外 科	24,185	66.3	1,047	2.9	24,929	68.3	1,032	2.8	22,113	60.4	819	2.2
形 成 外 科	4,209	11.5	356	1.0	4,603	12.6	391	1.1	2,022	5.5	231	0.6
脳 神 経 外 科	20,126	55.1	886	2.4	18,249	50.0	815	2.2	20,139	55.0	816	2.2
皮 膚 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
泌 尿 器 科	5,061	13.9	541	1.5	4,682	12.8	518	1.4	3,758	10.3	435	1.2
産 婦 人 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
眼 科	1,342	3.7	172	0.5	907	2.5	179	0.5	672	1.8	183	0.5
耳 鼻 咽 喉 科	5,522	15.1	512	1.4	3,968	10.9	508	1.4	3,525	9.6	484	1.3
リ ハ 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	1,744	4.8	445	1.2	1,853	5.1	479	1.3	1,520	4.2	421	1.2
合 計	132,724	363.6	8,805	24.1	133,276	365.1	9,054	24.8	125,929	344.1	8,779	24.0
労 災 患 者 数 (再掲)	3,570	9.8	-	-	3,952	10.8	-	-	2,879	7.9	-	-

診療科別外来患者数（令和元年度）

（単位：人）

	新 患	再 来	合 計	一 日 平 均 患 者 数		
				新 患	再 来	合 計
内 科	2,769	53,522	56,291	11.5	223.0	234.5
精 神 科	138	2,296	2,434	0.6	9.6	10.1
神 経 内 科	606	8,928	9,534	2.5	37.2	39.7
循 環 器 内 科	771	7,296	8,067	3.2	30.4	33.6
小 児 科	0	0	0	0.0	0.0	0.0
外 科	995	11,224	12,219	4.1	46.8	50.9
整 形 外 科	1,994	29,981	31,975	8.3	124.9	133.2
形 成 外 科	762	4,912	5,674	3.2	20.5	23.6
脳 神 経 外 科	1,184	16,625	17,809	4.9	69.3	74.2
皮 膚 科	28	65	93	0.1	0.3	0.4
泌 尿 器 科	412	15,792	16,204	1.7	65.8	67.5
産 婦 人 科	47	323	370	0.2	1.3	1.5
眼 科	669	7,429	8,098	2.8	31.0	33.7
耳 鼻 咽 喉 科	1,376	10,995	12,371	5.7	45.8	51.5
リ ハ 科	986	42,213	43,199	4.1	175.9	180.0
放 射 線 科	149	4,290	4,439	0.6	17.9	18.5
麻 酔 科	3	26	29	0.0	0.1	0.1
歯 科 口 腔 外 科	2,489	8,217	10,706	10.4	34.2	44.6
医 療 相 談 科	480	5	485	2.0	0.0	2.0
合 計	15,858	224,139	239,997	66.1	933.9	1,000.0
労災患者数（再掲）	-	-	15,820	-	-	65.9

診療科別入院単価の推移

(単位：円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
内 科	48,082	48,121	47,824	48,566	50,702
精 神 科	—	—	—	—	—
神 経 内 科	35,000	36,074	40,211	37,998	39,382
循 環 器 内 科	159,750	184,099	—	334,687	139,559
小 児 科	—	—	—	—	—
外 科	56,371	57,240	55,787	64,342	66,258
整 形 外 科	50,202	46,075	45,282	47,048	49,642
形 成 外 科	41,865	39,858	41,516	44,972	52,751
脳 神 経 外 科	43,161	42,104	47,597	47,092	46,717
皮 膚 科	—	—	—	—	—
泌 尿 器 科	43,831	48,751	51,669	55,968	63,222
産 婦 人 科	—	—	—	—	—
眼 科	63,133	57,182	54,994	72,624	99,496
耳 鼻 咽 喉 科	45,832	46,594	41,785	48,997	52,583
リ ハ 科	—	—	—	—	—
放 射 線 科	—	—	—	—	—
麻 酔 科	—	—	—	—	—
歯 科 口 腔 外 科	62,097	66,321	62,507	64,632	70,515
医 療 相 談 科	—	—	—	—	—
合 計	47,878	47,173	47,729	49,558	51,965

診療科別外来単価の推移

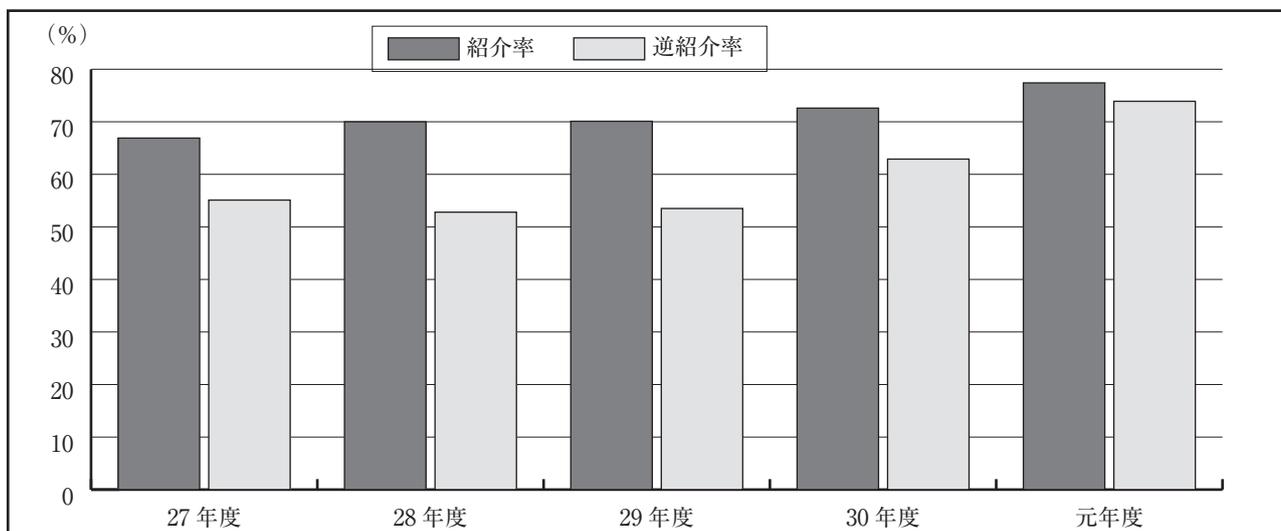
(単位：円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
内 科	29,859	32,192	34,958	34,294	38,561
精 神 科	5,490	5,524	5,455	5,179	5,229
神 経 内 科	10,302	9,650	10,954	11,155	10,351
循 環 器 内 科	6,753	6,861	6,624	6,055	6,441
小 児 科	—	—	—	—	—
外 科	19,243	19,671	19,519	18,941	18,660
整 形 外 科	6,725	6,568	6,797	7,305	7,851
形 成 外 科	9,232	9,385	8,424	10,005	7,854
脳 神 経 外 科	8,502	9,134	9,362	8,154	8,088
皮 膚 科	1,624	1,896	1,560	1,922	3,941
泌 尿 器 科	18,235	17,965	18,381	18,808	19,907
産 婦 人 科	7,086	5,277	5,798	4,951	5,800
眼 科	4,803	5,223	4,937	5,519	7,126
耳 鼻 咽 喉 科	6,329	6,571	7,251	6,763	7,149
リ ハ 科	3,418	3,510	4,145	3,445	2,665
放 射 線 科	14,852	15,892	17,550	18,149	17,879
麻 酔 科	1,943	1,456	1,516	4,434	4,033
歯 科 口 腔 外 科	7,372	7,328	7,067	7,373	6,816
医 療 相 談 科	37,203	35,908	37,131	36,304	37,082
合 計	13,790	14,169	14,837	14,551	15,660

紹介率・逆紹介率の推移

(単位：%)

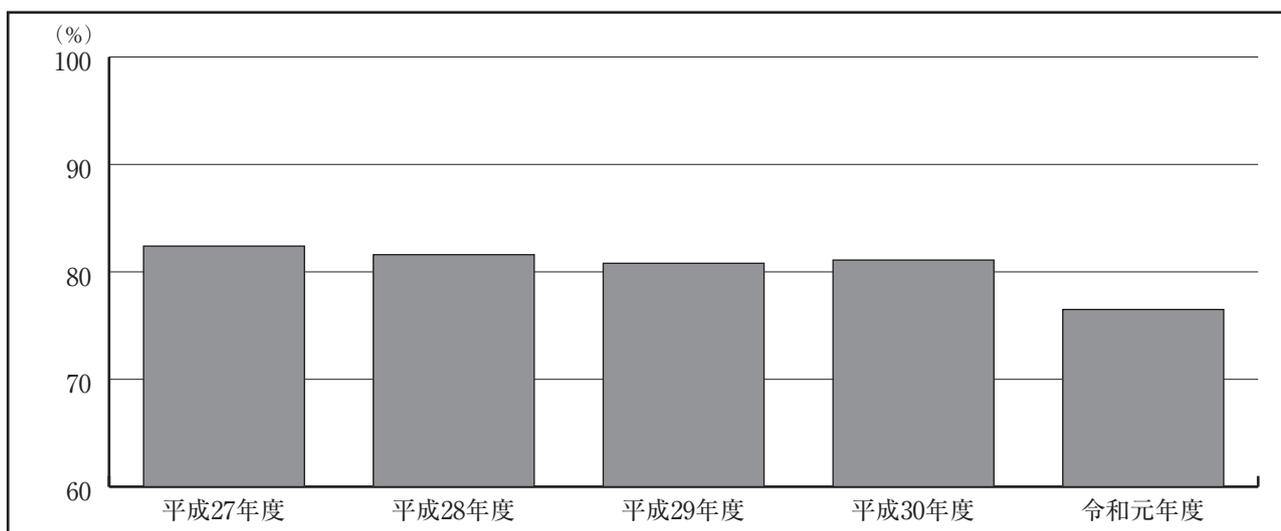
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
紹介率	66.9	70.0	70.1	72.6	77.4
逆紹介率	55.1	52.8	53.5	62.9	73.9



病床利用率の推移

(単位：%)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
病床利用率	82.4	81.6	80.8	81.1	76.5



平均在院日数の推移

(単位：日)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
内 科	14.9	13.7	14.0	14.1	12.7
神 経 内 科	31.4	31.5	25.4	32.4	31.5
循 環 器 内 科	10.0	9.0	0.0	4.0	9.0
小 児 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外 科	15.3	16.8	16.5	14.3	14.7
整 形 外 科	23.5	25.8	23.6	24.7	27.5
形 成 外 科	13.9	13.3	11.8	12.0	8.7
脳 神 経 外 科	25.4	25.5	23.2	23.0	25.3
皮 膚 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌 尿 器 科	13.3	11.6	9.4	9.2	8.7
産 婦 人 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼 科	7.2	7.2	7.8	5.1	3.7
耳 鼻 咽 喉 科	9.3	9.0	10.7	7.9	7.4
リ ハ 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	4.0	3.5	3.9	3.9	3.6
医 療 相 談 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	16.1	15.6	15.3	15.1	14.7

時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移

(単位：人)

総数	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
内科	1,204	1,234	1,139	1,216	1,204
精神科	0	1	1	0	0
神経内科	58	62	59	65	52
循環器内科	1	3	6	0	3
小児科	0	0	0	0	0
外科	168	185	157	166	226
整形外科	863	927	733	733	743
形成外科	312	274	244	255	162
脳神経外科	669	722	697	646	699
皮膚科	0	0	1	0	0
泌尿器科	117	114	108	135	99
産婦人科	0	0	0	0	0
眼科	52	64	53	69	53
耳鼻咽喉科	207	203	211	175	171
リハ科	0	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0	0
麻酔科	0	1	0	0	0
歯科口腔外科	40	25	30	21	31
医療相談科	0	0	0	0	0
合計	3,691	3,815	3,439	3,481	3,443

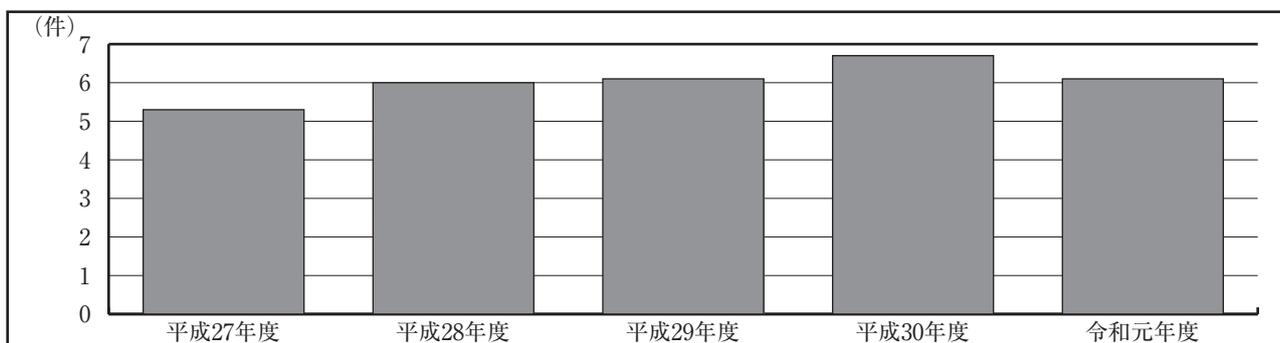
(単位：人)

1日平均	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
内科	3.3	3.4	3.1	3.3	3.3
精神科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
神経内科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1
循環器内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小児科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科	0.5	0.5	0.4	0.5	0.6
整形外科	2.4	2.5	2.0	2.0	2.0
形成外科	0.9	0.8	0.7	0.7	0.4
脳神経外科	1.8	2.0	1.9	1.8	1.9
皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3
産婦人科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼科	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
耳鼻咽喉科	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5
リハ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
医療相談科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	10.1	10.5	9.4	9.5	9.4

救急車受入件数（総数と1日平均）

（単位：件）

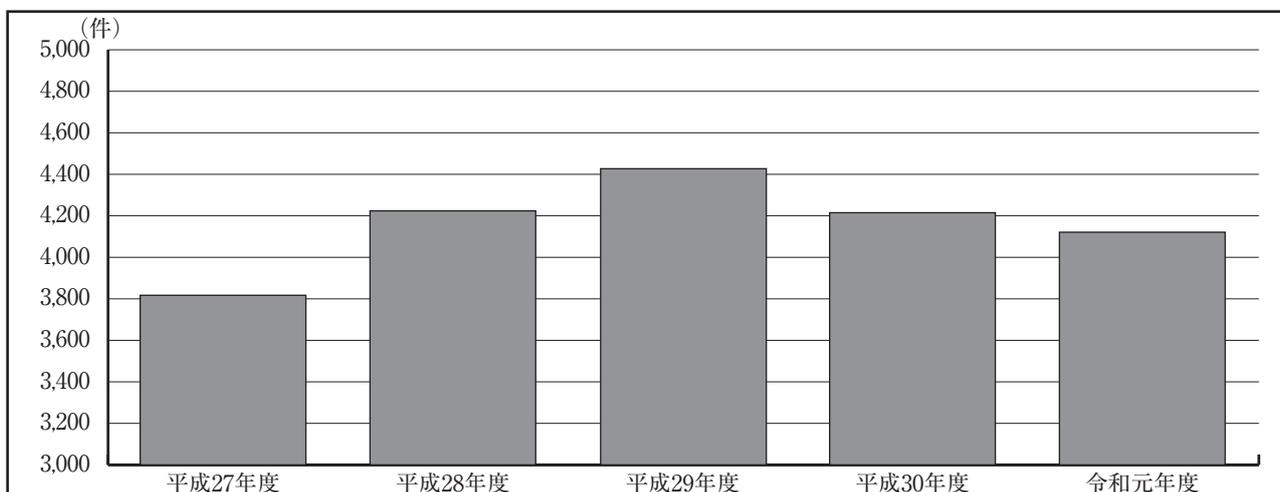
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
総 数	1,948	2,185	2,222	2,428	2,247
1 日 平 均	5.3	6.0	6.1	6.7	6.1



手術件数の推移（手術室内）

（単位：件）

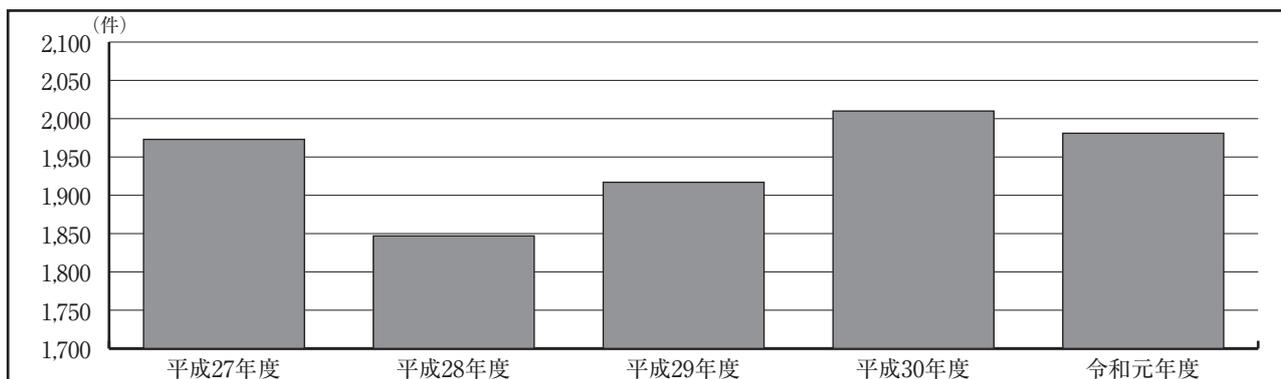
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
内 科	2	2	0	0	1
外 科	610	630	609	701	825
整 形 外 科	1,156	801	905	845	762
形 成 外 科	785	809	882	771	476
脳 神 経 外 科	349	332	378	304	328
心 臓 血 管 外 科	-	-	-	-	-
皮 膚 科	-	-	-	-	-
泌 尿 器 科	278	287	286	267	246
産 科	-	-	-	-	-
婦 人 科	-	-	-	-	-
眼 科	301	313	305	281	312
耳 鼻 咽 喉 科	336	290	261	292	268
リ ハ 科	-	-	-	-	-
歯 科 口 腔 外 科	-	760	801	754	903
神 経 内 科	-	-	-	-	-
合 計	3,817	4,224	4,427	4,215	4,121



全身麻酔件数の推移

(単位：件)

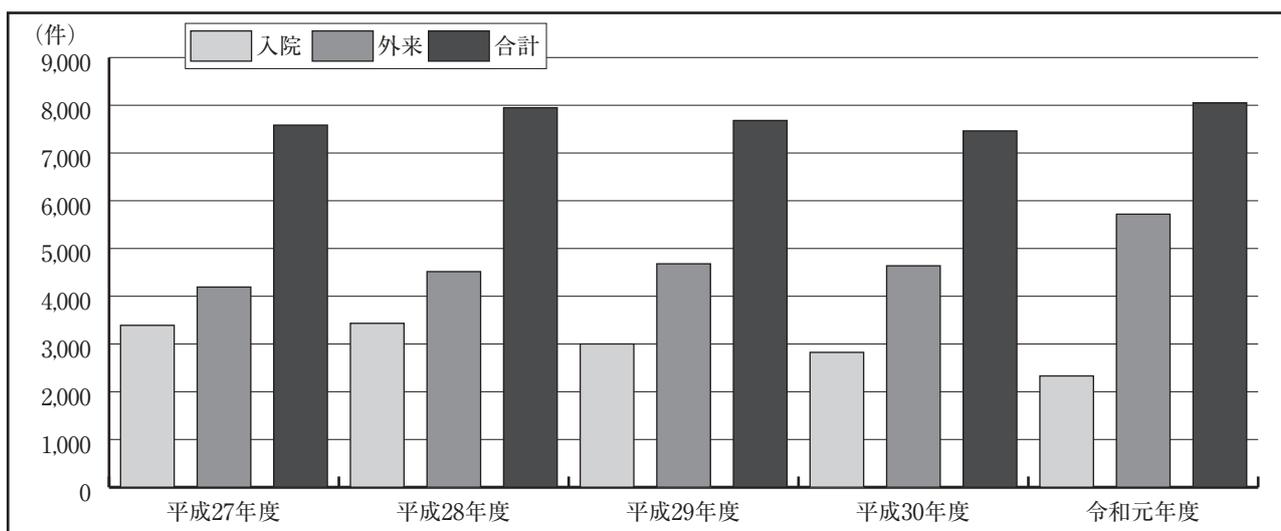
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
全身麻酔件数	1,973	1,847	1,917	2,010	1,981



化学療法件数の推移（入院・外来）

(単位：件)

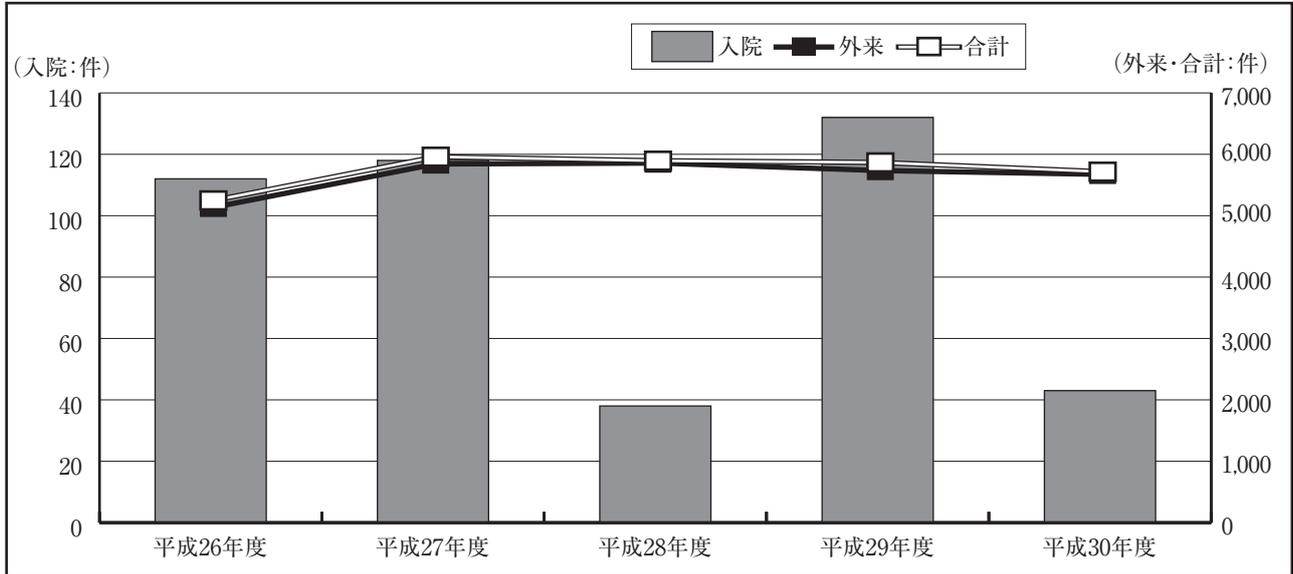
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
入院	3,391	3,433	3,001	2,825	2,331
外来	4,193	4,516	4,680	4,638	5,719
合計	7,584	7,949	7,681	7,463	8,050



透析件数の推移（入院・外来）

（単位：件）

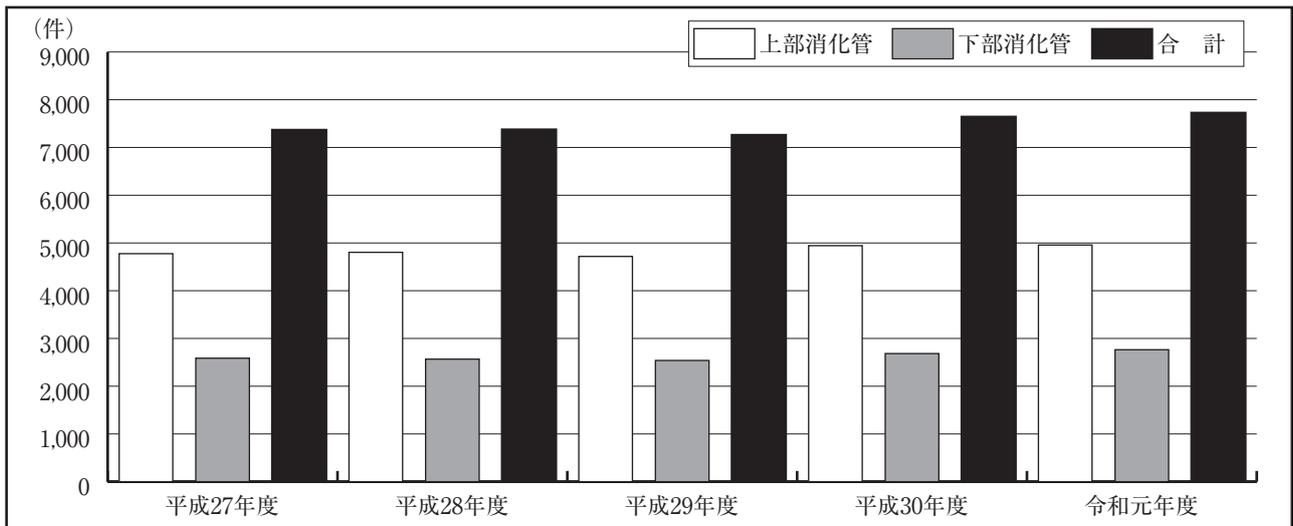
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
入院	112	118	38	132	43
外来	5,136	5,842	5,857	5,735	5,673
合計	5,248	5,960	5,895	5,867	5,716



内視鏡件数の推移（上部・下部）

（単位：件）

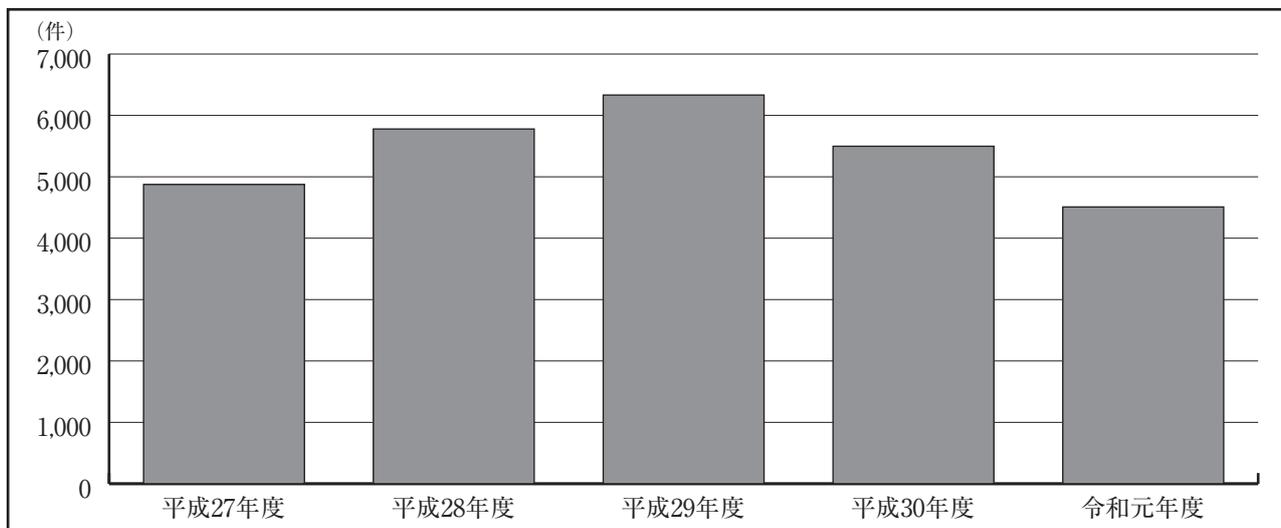
	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
上部消化管	4,776	4,804	4,718	4,944	4,957
下部消化管	2,587	2,567	2,539	2,684	2,764
合計	7,363	7,371	7,257	7,628	7,721



放射線治療件数の推移

(単位：件)

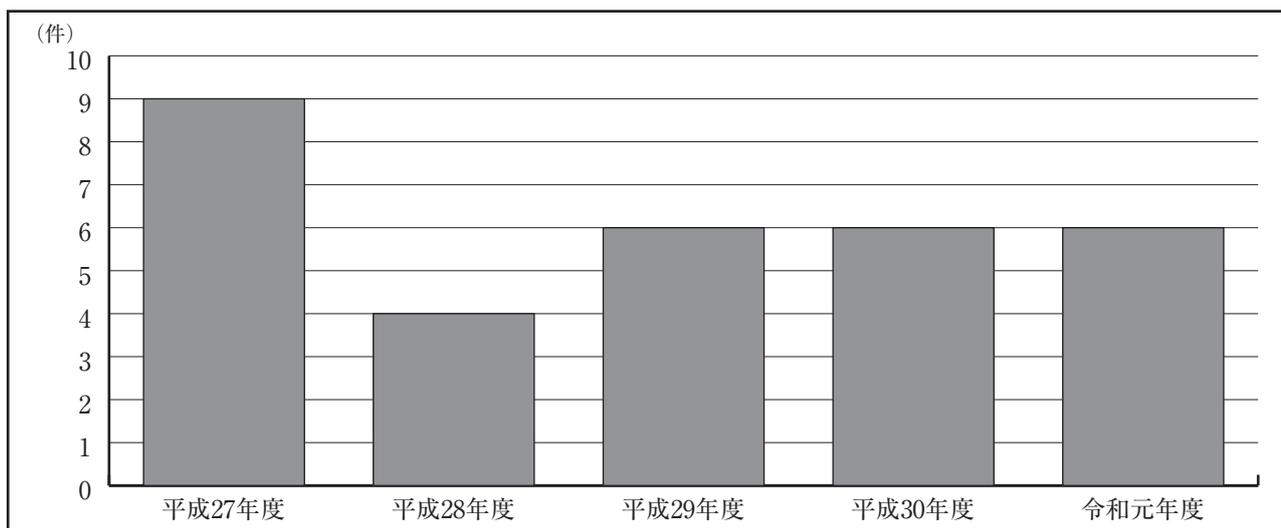
1日平均	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
放射線件数	4,875	5,779	6,332	5,498	4,509



解剖件数の推移

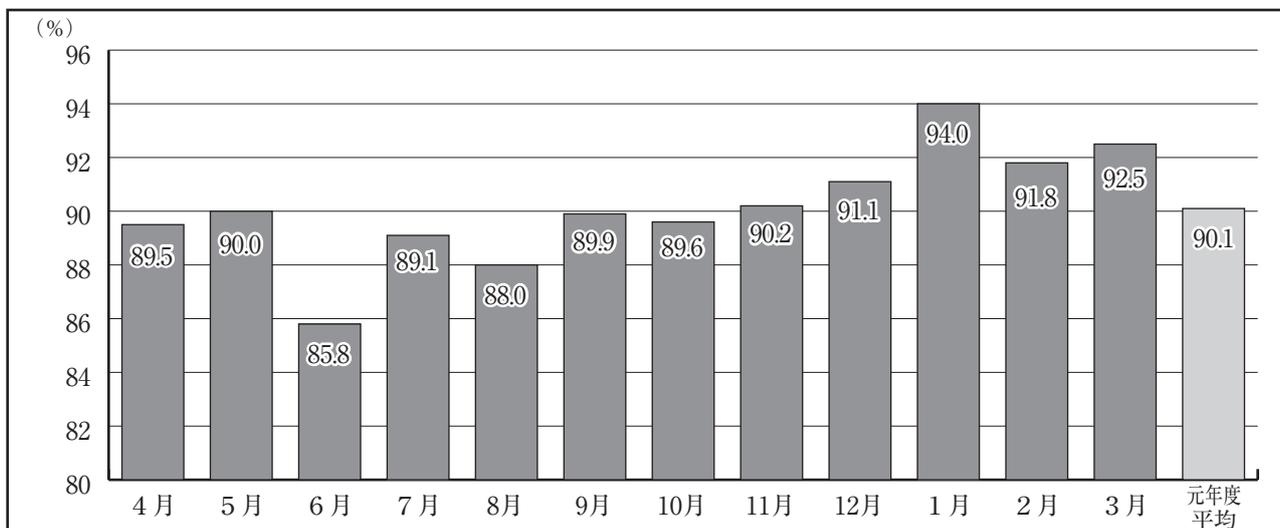
(単位：件)

1日平均	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
解剖件数	9	4	6	6	6



2019年度 後発医薬品指数

年 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	元年度平均
後発医薬品指数 (%)	89.5	90.0	85.8	89.1	88.0	89.9	89.6	90.2	91.1	94.0	91.8	92.5	90.1



DPC14桁 診断群分類上位頻度表 (全科共通)

対象：2019年4月1日～2020年3月31日退院患者

(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	症例数 (件)
1	060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 副傷病なし	704
2	060340xx03x00x	胆管結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	161
3	020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 その他の手術 両眼	125
4	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア 15歳以上 ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	98
5	060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	85
6	060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 処置2なし	80
7	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	79
8	010111xxxxxx0xx	遺伝性ニューロパチー 処置2なし	77
8	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	77
10	060060xx97100x	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍 その他の手術 処置1:限局性腹腔膿瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	74
11	010060xxCCPM04	脳梗塞(04) 手術なし 処置1なし 処置2:ラジカット(4) 副傷病:なし/水頭症等(1) 他	73
12	110080xx991x0x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 処置1:前立腺針生検法 副傷病なし	69
13	060020xx99x00x	胃の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	65
13	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 処置1なし 処置2なし	65
15	040080xxCCPM04	肺炎等(04) 75歳以上の市中肺炎 手術なし 処置2なし 重症度:中	64
16	070343xx97x0xx	脊柱管狭窄 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術 処置2なし	61
16	060035xx99x00x	結腸の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	61
18	060335xx97x00x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 その他の手術 処置2なし 副傷病なし	59
18	130030xx97x40x	非ホジキンリンパ腫 その他の手術 処置2:リツキサソ(4) 副傷病なし	59
20	110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	57

DPC MDC6桁 診療科別上位頻度表

対象：2019年4月1日～2020年3月31日退院患者
(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	760
2	060020	胃の悪性腫瘍	303
2	060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	222
4	060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	205
5	130030	非ホジキンリンパ腫	181
6	06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	179
7	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	146
8	060040	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	145
9	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)	129
10	040040	肺の悪性腫瘍	114

神経内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	010160	パーキンソン病	32
2	010155	運動ニューロン疾患等	22
3	010170	基底核等の変性疾患	20
4	010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	16
5	010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	14
6	010090	多発性硬化症	8
7	070560	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	7
8	040081	誤嚥性肺炎	6
8	010130	重症筋無力症	6
8	010140	筋疾患(その他)	6

外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	090010	乳房の悪性腫瘍	182
2	060160	鼠径ヘルニア	98
3	060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	93
4	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	91
5	060020	胃の悪性腫瘍	68
6	060040	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	64
7	060150	虫垂炎	48
8	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	44
9	060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍(女性器臓器を除く)	21
10	060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	14

整形外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	070343	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	96
2	160800	股関節・大腿近位の骨折	85
3	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	62
4	160760	前腕の骨折	39
5	160850	足関節・足部の骨折・脱臼	38
6	160620	肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む)	28
7	160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	27
7	070230	膝関節症(変形性を含む)	27
9	180040	手術・処置等の合併症	26
10	070350	椎間板変性、ヘルニア	21

形成外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	020230	眼瞼下垂	40
2	080180	母斑、母斑症	22
2	080007	皮膚の良性新生物	22
2	080006	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)	22
5	070570	癬痕拘縮	12
6	020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	10
7	180060	その他の新生物	8
7	070010	骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く)	8
7	160200	顔面損傷(口腔、咽頭損傷を含む)	8
10	080005	黒色腫	6

脳神経外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	010060	脳梗塞	167
2	010111	遺伝性ニューロパチー	76
3	070343	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	58
3	010040	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	58
5	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	46
6	010010	脳腫瘍	43
7	010030	未破裂脳動脈瘤	40
8	010230	てんかん	35
9	070341	脊柱管狭窄(脊椎症を含む) 頸部	28
10	010050	非外傷性硬膜下血腫	23

泌尿器科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	110080	前立腺の悪性腫瘍	141
2	110070	膀胱腫瘍	84
3	11001x	腎腫瘍	29
4	110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	25
5	11012x	上部尿路疾患	18
6	110200	前立腺肥大症等	16
7	110310	腎臓または尿路の感染症	15
8	110420	水腎症等	14
8	11013x	下部尿路疾患	14
10	110320	腎、泌尿器の疾患(その他)	13

眼科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	020110	白内障、水晶体の疾患	163
2	020250	結膜の障害	3
3	020210	網膜血管閉塞症	1
3	020220	緑内障	1
3	020370	視神経の疾患	1
3	06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	1

耳鼻咽喉科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	57
2	030400	前庭機能障害	55
3	030350	慢性副鼻腔炎	47
4	03001x	頭頸部悪性腫瘍	33
5	030428	突発性難聴	31
6	030150	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	29
7	100020	甲状腺の悪性腫瘍	26
8	130030	非ホジキンリンパ腫	22
9	030250	睡眠時無呼吸	21
9	030230	扁桃、アデノイドの慢性疾患	21

Kcode 診療科別上位頻度表

対象：2019年4月1日～2020年3月31日退院患者

外科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	143
2	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	76
3	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	68
4	K655-22	腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術)	34
5	K4763	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術(腋窩部郭清を伴わない))	31
6	K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	24
7	K6335	鼠径ヘルニア手術	23
8	K740-21	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術)	21
9	K740-22	腹腔鏡下直腸切除・切断術(低位前方切除術)	18
10	K4765	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術・胸筋切除を併施しない)	16
10	K657-22	腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術)	16
10	K7193	結腸切除術(全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)	16

整形外科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K0821	人工関節置換術(肩、股、膝)	63
2	K0462	骨折観血的手術(前腕、下腿、手舟状骨)	59
2	K0461	骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	52
4	K0483	骨内異物(挿入物を含む)除去術(前腕、下腿)	45
5	K0593□	骨移植術(軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他)他	34
6	K0811	人工骨頭挿入術(肩、股)	33
7	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	30
7	K1423	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(後方椎体固定)	30
9	K0484	骨内異物(挿入物を含む)除去術(鎖骨、膝蓋骨、手、足、指その他)	20
10	K0463	骨折観血的手術(鎖骨、膝蓋骨、手(舟状骨を除く)、足、指その他)	18

形成外科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K2191	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	33
2	K0021	デブリードマン(100cm ² 未満)	16
3	K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術(肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹)	15
4	K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	14
5	K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm未満)	13
6	K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部以外)(長径3cm未満)	10
7	K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)(長径2cm以上4cm未満)	9
8	K2193	眼瞼下垂症手術(その他)	7
8	K013-21	全層植皮術(25cm ² 未満)	7
8	K0131	分層植皮術(25cm ² 未満)	7
8	K0011	皮膚切開術(長径10cm未満)	7

脳神経外科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(椎弓形成)	75
2	K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭)、穿孔洗浄術	31
3	K1882	神経剥離術(その他)	27
3	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他)	27
5	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	26
6	K1643	頭蓋内血腫除去術(開頭)(脳内)	15
7	K1742	水頭症手術(シャント手術)	14
8	K178-4	経皮的脳血栓回収術	8
9	K1421	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(前方椎体固定)	7
9	K145	穿頭脳室ドレナージ術	7

泌尿器科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K8036f	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用)	65
2	K843	前立腺悪性腫瘍手術	29
3	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	21
3	K8412	経尿道的前立腺手術(その他)	17
5	K773-2	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	14
6	K773	腎(尿管)悪性腫瘍手術	13
7	K7981	膀胱結石(異物)摘出術(経尿道的手術)	8
7	K800-2	経尿道的電気凝固術	8
9	K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	7
10	K7811	経尿道的尿路結石除去術(レーザー)	5

眼 科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K2821□	水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	163
2	K220	結膜縫合術	2
3	K224	翼状片手術(弁の移植を要する)	1
3	K2681	緑内障手術(虹彩切除術)	1

耳鼻咽喉科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術)	33
2	K3772	口蓋扁桃手術 (摘出)	23
3	K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 2 型 (副鼻腔単洞手術)	14
4	K347-3	内視鏡下鼻中隔手術 1 型 (骨、軟骨手術)	12
5	K4571	耳下腺腫瘍摘出術 (耳下腺浅葉摘出術)	11
6	K4631	甲状腺悪性腫瘍手術 (切除)	10
6	K340-3	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 1 型 (副鼻腔自然口開窓術)	10
8	K342	鼻副鼻腔腫瘍摘出術	9
8	K331	鼻腔粘膜焼灼術	9
10	K6261	リンパ節摘出術 (長径 3 cm 未満)	8

歯科口腔外科

順位	K code	手術名称	回数 (件)
1	K4044	抜歯手術 (1 歯につき) (埋伏歯)	456
2	K4043	抜歯手術 (1 歯につき) (白歯)	261
3	K4042	抜歯手術 (1 歯につき) (前歯)	36
4	K4041	抜歯手術 (乳歯)	17
4	K4361	顎骨腫瘍摘出術 (長径 3 cm 未満)	17
6	K4362	顎骨腫瘍摘出術 (長径 3 cm 以上)	10
7	K419	舌小帯形成術	3
8	K4212	口唇腫瘍摘出術 (その他のもの)	2
8	K440	上顎骨切除術	2
8	K4151	舌悪性腫瘍手術 (切除)	2

V. 講演会等活動実績報告

講演活動報告

学術講演会	145
学術研究会	147



学術講演会

内科

小林 良充
免疫チェックポイント阻害薬の適正使用に対する当院
の取り組み

Oncologyインターネット講演会
Immuno-Oncology Symposium in 帯広
2019.02.06
帯広

宮城島 拓人
他人事ではないHIV/AIDSのお話
(今、高校生につたえたいこと)
生と性を考える講演会 2019
2019.07.19
中標津

原田 一顕
チームで取り組む大腸がん化学療法
～医師の立場から～
Takeda Team medical Seminar
2019.08.30
釧路

宮城島 拓人
医療者にこそ知ってもらいたいHIV/AIDSの話
(エイズと共に歩んだ私物語)
第2回湿原の風セミナー
2019.08.31
札幌

佐野 逸紀
胃・十二指腸悪性狭窄に対する Stenting Strategy
ボストン・サイエンティフィック ジャパン社内研修会
2019.09.13
札幌

原田 一顕
免疫チェックポイント阻害剤適正使用に対する当院の
取り組み
釧路消化器がんを考える会
2019.11.15
釧路

外科

小笠原 和宏
緩和ケアとは 釧路労災病院における緩和ケア
ホスピス緩和ケア週間市民公開講座
2019.11.09
釧路市

小笠原 和宏
乳がんについて正しく知ろう 予防から治療まで
乳がん疾患啓発セミナー
2019.12.14
釧路市

整形外科

校條 祐輔
道東地域でのロモソズマブの使用経験
骨粗鬆症治療 Up to date
2019.10.18
釧路市

脳神経外科

井須 豊彦
脳神経外科領域における疼痛管理と抗凝固療法
－腰痛に対する疼痛管理
脳神経外科フォーラム
2019.05.30
札幌市

井須 豊彦
手足のしびれ痛みにおける新常識
釧路管内健康フォーラム
2019.09.07
釧路市

井須 豊彦
腰痛治療における新常識を目指して
－触れてわかる腰痛
なごやか医療講演会
2019.09.21
札幌市

井須 豊彦
まとめスペシャル 見えない腰痛
NHK Eテレチョイス@病気になったとき
2019.09.28
東京都

田口 暢秀
高校生の代表的なスポーツ外傷・障害とその対処法
釧路地区高校養護教諭研修会
2019.12.05
釧路市

歯科口腔外科

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
口腔ケア ～あなたのお口はきれいですか？～
釧路労災病院 ひなたぼっこ
2019.05.22
釧路市

藤盛 真樹
「薬剤関連顎骨壊死」道東の現状は？
釧路労災病院 登録医の会
2019.06.06
釧路市

藤盛 真樹
道東における薬剤関連顎骨壊死の現状
釧路MRONJ医療連携講演会
2019.11.11
釧路市

北川 健
ケニアメディカルキャンプの報告
第16回師走講演会
2019.12.08
釧路市

リハビリテーション部

田口 暢秀
健康で長く働くために
(株)三ツ輪運輸健康教室
2019.09.26
釧路市

推井 基陽、廣瀬 孝太、大道 駿太郎
スポーツ外傷予防とトレーニング
弟子屈教育委員会主催 弟子屈地区市民向け講演
2019.12.03
弟子屈

田口 暢秀
フィジカルトレーニングの実際
釧路江南高校女子バスケットボール部
2019.12.21-22
釧路市

推井 基陽、廣瀬 孝太、大道 駿太郎
体幹をうまく使うための準備と運動
弟子屈教育委員会主催 弟子屈地区市民向け講演
2020.02.21
弟子屈

放射線部

松平 英樹
日本放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習
日本放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会
釧路地区
2019.09.22-23
釧路市

松平 英樹
日本放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習
日本放射線技師会 業務拡大に伴う統一講習会
オホーツク地区
2019.12.07-08
北見市

薬剤部

小島 佑太
薬物乱用について
釧路市学校薬剤師会教育講演
2019.02.16
釧路市

小島 佑太
薬物乱用防止について
釧路市学校薬剤師会教育講演
2019.11.16
釧路市

竹内 和沙
薬物乱用防止について
釧路市学校薬剤師会教育講演
2019.11.26
釧路市

看護部

門脇 郁美
症状緩和へのヒドロモルフォン活用 緩和ケアチーム
の取り組み
Canser Pain Management Seminar
2019.02.01
釧路市

学術研究会

内科

吉田 苑永、川岸 直樹、宮城島 拓人
Budd-Chiari 症候群に対して Percutaneous
transluminal angioplasty が奏功した一例
道東IVR, 治療ケア研究会
2019.08.24
釧路

志藤 茜
原発不明NEC
第24回北海道レジデントカンファレンス
2019.09.21
札幌

目野 晃光
嚢胞性気腫症と腸管スピロヘータの合併
第24回北海道レジデントカンファレンス
2019.09.21
札幌

川岸 直樹、小田 総一郎、志藤 茜、吉田 苑永、
吉河 歩、安孫子 怜史、原田 一顕、佐野 逸紀、
小田 寿、宮城島 拓人
当院のC型肝炎における院内連携の現状について
Hokkaido Liver conference for young doctors
2019.10.04
札幌

吉田 匠汰
維持透析患者に発症した高リスク骨髄異形成症候群に
対する azacitidine 療法
札幌造血器悪性腫瘍研究会
2019.10.18
札幌

小田 寿
当院における腹腔鏡補助下経皮内視鏡的胃瘻造設術の
経験
第17回北海道胃瘻研究会
2019.11.02
札幌

原田 一顕
新規胃癌治療薬の臨床結果
Gastric Cancer Conference
2019.12.21
札幌

外科

坂本 沙織、笠原 里紗、小林 展大、石川 隆壽、
河合 朋昭、小林 清二、小笠原 和宏
遺伝性球状赤血球症による巨大脾腫に対して腹腔鏡下
脾臓摘出術を施行した1例
第85回釧路外科集談会
2019.03.05
釧路市

村田 竜平、海老沼 翔太、石黒 友唯、石川 隆壽、
小林 清二、小笠原 和宏、高橋 弘昌
当院における腹腔鏡下直腸固定術
第87回釧路外科集談会
2019.11.27
釧路市

脳神経外科

岩本 直高、井須 豊彦、金 景成、森本 大二郎、
國保 倫子、松野 彰
頸髄に原発したリンパ腫様肉芽腫症に対して、生検術
で事なきを得た1例
第13回東京脊髄倶楽部
2019.01.18
東京都

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、
岩本 直高、森田 明夫
口蓋原発多形腺腫による転移性脊椎腫瘍の1例
東京脊髄倶楽部
2019.01.19
東京都

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、岩本 直高、
森本 大二郎
術後に残存した腰下肢痛に対し腰椎周辺疾患などの治
療が奏功した1例
第3回橘桜脊椎脊髄研究会
2019.01.29
東京都

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、
岩本 直高、森田 明夫
口蓋原発多形腺腫による転移性脊椎腫瘍の1例
第2回千駄木脊髄倶楽部
2019.02.01
東京都

岩本 直高、井須 豊彦、金 景成、森本 大二郎、
大田 泰徳、松野 彰
頸髄内に発生したリンパ腫様肉芽腫症の1例
第2回千駄木脊髄倶楽部
2019.02.01
東京都

磯部 正則
当院におけるフィコンパの使用経験について
てんかんフォーラム in 釧路
2019.02.21
釧路市

伊東 雅基
DOAC・ICI時代の担ガン症例の脳卒中治療
～当院での現況～
釧路地区脳神経外科研究会
2019.03.01
釧路市

井須 豊彦
殿皮神経障害に着目した腰痛治療経験
－できることとその限界－
第12回九州ニューロスパイン研究会
2019.04.06
福岡市

岩本 直高、井須 豊彦
手根管症候群
第3回末梢神経の外科研究会 ミニレクチャー
2019.05.11
東京都

金 景成、國保 倫子、森本 大二郎、井須 豊彦、
森田 明夫
モートン病の治療経験
第3回末梢神経の外科研究会
2019.05.11
東京都

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、
岩本 直高、森田 明夫
再発性手根管症候群の手術経験
第3回末梢神経の外科研究会
2019.05.11
東京都

國保 倫子、金 景成、森本 大二郎、岩本 直高、
井須 豊彦、森田 明夫
術後腰痛に関連した腰椎周辺疾患に対する低侵襲治療
第9回低侵襲内視鏡脊椎手術研究会
2019.07.13
奈良市

河野 洋之
当院における新規抗てんかん薬の使用経験
てんかんの薬物診療を考える会 in 釧路
2019.08.30
釧路市

井須 豊彦
腰痛治療における新常識
－時代おくれの新しさを求めて－
根室地区漁協合同研修会
2019.11.02
川湯

岩本 直高、井須 豊彦
腓骨神経障害に対する負荷試験の検討
第30回脊髄疾患動画技術研究会
2019.11.18
滋賀

坂本 王哉、藤原 史明、井須 豊彦
ICGが有用であった足根管症候群の手術例
-vascular decompression法-
第30回脊髄疾患動画技術研究会
2019.11.18
滋賀

伊東 雅基
最近の話題（PSC認定とTreasure治験参加）と、
ACS/AIS同時発症例症例報告
釧路脳卒中カンファレンス
2019.11.29
釧路市

泌尿器科

氏橋 一紘、小野 敦彦、佐々木 芳浩、
野々村 克也
膀胱エンドメトリオーシスの1例
第46回釧路地区泌尿器科研究会
2019.02.08
釧路市

佐々木 芳浩、氏橋 一紘、小野 敦彦、
野々村 克也
開腹前立腺全摘除術の治療成績
第46回釧路地区泌尿器科研究会
2019.02.08
釧路市

宮崎 将也
鏡視下腎部分切除症例の臨床的検討
第57回北大泌尿器科医局研究発表会
2019.05.11
札幌市

宮崎 将也、佐々木 芳浩
鏡視下腎部分切除症例の臨床的検討
第47回釧路地区泌尿器科研究会
2019.06.21
釧路市

宮崎 将也、佐々木 芳浩
腎癌術後の同側副腎転移に対して鏡視下副腎摘除術を
施行した1例
第48回釧路地区泌尿器科研究会
2019.11.08
釧路市

歯科口腔外科

小川 仁、嶋崎 康相、角 伸博、藤盛 真樹
薬剤アレルギーにより発生した口腔粘膜炎
釧路デンタルスタディクラブ
2019.01.22
釧路市

小川 仁、嶋崎 康相、角 伸博、藤盛 真樹
チオプロニン(チオラ錠®)で天疱瘡様の口腔粘膜炎を
認めた中毒性表皮壊死症(TEN)の1例
釧路地区3病院口腔外科研究会
2019.02.19
釧路市

嶋崎 康相、小川 仁、角 伸博、藤盛 真樹
下顎部に発生した結節性筋膜炎の1例
釧路地区3病院口腔外科研究会
2019.02.19
釧路市

角 伸博、小川 仁、嶋崎 康相、藤盛 真樹
骨定量解析ソフトGI-BONEを診断および治療評価に
用いた顎骨壊死の1例
釧路地区3病院口腔外科研究会
2019.02.19
釧路市

小川 仁、嶋崎 康相、角 伸博、藤盛 真樹
GI-BONEを治療評価に用いたARONJの2例
釧路デンタルスタディクラブ
2019.02.26
釧路市

嶋崎 康相、小川 仁、角 伸博、藤盛 真樹
小児の下顎部に発生した結節性筋膜炎の1例
釧路デンタルスタディクラブ
2019.02.26
釧路市

嶋崎 康相、小川 仁、角 伸博、村田 亜耶佳、
藤盛 真樹
2018年 ケニアメディカルキャンプ
釧路デンタルスタディクラブ
2019.02.26
釧路市

嶋崎 康相、小川 仁、角 伸博、藤盛 真樹
10歳男児の下顎部に発生した結節性筋膜炎の1例
釧路口腔機能再生研究会
2019.03.12
釧路市

北川 健、角 伸博、藤井 ふみ、藤盛 真樹
当科の顎顔面骨折の1例
釧路地区3病院口腔外科研究会
2019.04.17
釧路市

角 伸博、北川 健、藤井 ふみ、藤盛 真樹
当科で治療中の顔面多発骨折の1例
釧路地区3病院口腔外科研究会
2019.04.17
釧路市

角 伸博、北川 健、藤井 ふみ、藤盛 真樹
がん支持療法としての周術期口腔機能管理
釧路労災病院 内科・外科カンファレンス
2019.05.08
釧路市

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
当科で手術予定のインプラント埋入症例について
釧路口腔機能再生研究会
2019.05.08
釧路市

角 伸博、北川 健、藤井 ふみ、藤盛 真樹
当科で実施中の周術期口腔機能管理について
釧路口腔機能再生研究会
2019.05.08
釧路市

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
釧路・根室三次医療圏における「NRホスピタル構想」
について
釧路地区3病院口腔外科研究会
2019.09.03
釧路市

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
釧路・根室三次医療圏における「NRホスピタル構想」
の概要
釧路デンタルスタディクラブ
2019.10.01
釧路市

角 伸博、北川 健、藤井 ふみ、藤盛 真樹
高気圧酸素療法を併用することで著明な治療効果が得
られた下顎骨骨髓炎の1例
釧路デンタルスタディクラブ
2019.10.01
釧路市

藤井 ふみ、北川 健、角 伸博、藤盛 真樹
診断に苦慮した唾石症の1例
釧路デンタルスタディクラブ
2019.10.01
釧路市

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
釧路・根室三次医療圏における「NRホスピタル構想」
に関して
釧路口腔機能再生研究会
2019.10.15
釧路市

角 伸博、北川 健、藤井 ふみ、藤盛 真樹
高気圧酸素療法を併用により著明な治療効果が得られ
た下顎骨骨髓炎の1例
釧路口腔機能再生研究会
2019.10.15
釧路市

中央リハビリテーション部

田口 暢秀
スポーツ選手とともに
～スポーツ理学療法について～
第45回 全国労災病院リハビリテーション技師会全国
研修会
2019.06.26
川崎市

田口 暢秀
足部・足関節のスポーツ理学療法
日本理学療法士会 技術講習会
2019.10.27
札幌市

薬剤部

向井 聡志
4年目薬剤師の病棟業務・研究活動奮闘記
平成31年度北海道ブロック薬剤部業務研修会
2019.05.18
札幌市

矢澤 敏
血液疾患における薬剤師の役割
釧路血液疾患研修会
2019.08.02
釧路市

谷向 充哉
抗EGFR抗体のマネジメント 「チームで取り組む大腸がん化学療法」～薬剤師の立場から～
TAKEDA TEAM MEDICAL SEMINAR
2019.08.30
釧路市

小島 佑太
当院そして釧路地域における緩和ケアの現状と課題
「企業活動と医療機関等の透明性に関する指針」
社内研修会
2019.09.25
釧路市

看護部

小野 紫穂、野呂 あゆみ
乳がん患者の放射線皮膚炎予防のスキンケア指導
～スキンケア開始時期について～
道東画像診断・治療ケア研究会
2019.08.24
釧路市

本間 美記、太田 涼子、佐藤 貴美、神田 みゆき
泌尿器科領域における腰椎麻酔後の安静時間を短縮して
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表会
2019.11.16
釧路市

石谷 瑞穂、高田 慶子
ALS患者の「病い」の経験の語りからみえた看護の一考察
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表会
2019.11.16
釧路市

村山 由佳子、佐々木 祐美、三浦 郁恵、
野澤 美佳、寺本 沙織、松田 由紀、原田 一顕、
小林 良充、宮城島 拓人
化学療法センター移設・拡充に伴う課題についての検討
北海道看護協会釧路支部看護研究合同発表会
2019.11.16
釧路市

鈴木 麻衣、太田 千秋、山崎 由佳、伊藤 織恵、
道念 智美、矢幡 由佳、駄場 さおり
透析患者に行動変容をもたらした紙芝居を併用した服薬指導
釧路労災病院看護部看護研究発表会
2019.11.19
釧路市

小野 紫穂
乳がん患者の両立支援に関する看護師の役割
釧路労災病院看護部看護研究発表会
2019.11.19
釧路市

VI. 業績目録

- (1) 原著・論文…………… 155
- (2) 学会報告…………… 158



(1) 原著・論文

内科

Satoshi Abiko, Ayumu Yoshikawa, Kazuaki Harada, Naoki Kawagishi, Itsuki Asno, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima
New ligation technique using a double loop clip without adhesive for ulceration following endoscopic submucosal dissection of the colon.
Endoscopy DOI <https://doi.org/10.1055/a-0979-4027>
Published online
2019

Satoshi Abiko, Ayumu Yoshikawa, Kazuaki Harada, Naoki Kawagishi, Itsuki Asno, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima
Usefulness of a clutch cutter combined with an S-O clip in improving stability when opening the pocket in the pocket-creation method.
Endoscopy DOI <https://doi.org/10.1055/a-1024-3566>
Published online
2019

長井 惇、松川 敏大、須藤 啓斗、押味 和夫、宮城島 拓人
薬剤性肝障害に引き続き発症したと思われる再生不良性貧血
臨床血液
2019 60 779-784

外科

小林 清二、笠原 里紗、小林 展大、坂本 沙織、河合 朋昭、小笠原 和宏
腹腔鏡下に切除した胃・回腸重複GISTの1例
日本臨床外科学会雑誌
2019年 第80巻 1120～1124

脳神経外科

Matsumoto J, Isu T, Kim K, Miki K, Fujihara F, Isobe M.
Middle cluneal nerve entrapment mimics sacroiliac joint pain.
Acta Neurochirurgica
2019 161 (4) 657-661

Kim K, Isu T, Matsumoto J, Miki K, Morimoto D, Isobe M, Morita A.
Gluteus medius muscle decompression for buttock pain: A case-series analysis.
Acta Neurochirurgica
2019 161 (7) 1397-1401

Miki K, Kim K, Isu T, Matsumoto J, Kokubo R MD, Isobe M, Inoue T.
Characteristics of low back pain due to superior cluneal nerve entrapment neuropathy.
Asian Spine J
2019 13 (5) 772-778

Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Kobayashi S, Morita A.
Rare distribution of the palmar cutaneous branch of the median nerve.
J Clinical
in press

金 景成、國保 倫子、井須 豊彦
脳神経外科キャリアビジョン
脊椎脊髄・末梢神経－専門家を目指して？正統派のNeurosurgeonを目指して？
脳神経外科速報
2019 29 (10) 1050-1053

松本 順太郎、金 景成、森本 大二郎、井須 豊彦
【基本をマスター 脳神経外科手術のスタンダード】
脊椎・脊髄外傷に対する外科治療
脳神経外科速報
2019 29 (1) 64-70

森本 大二郎、金 景成、井須 豊彦、森田 明夫
【専門医に求められる最新の知識：脊椎脊髄】
頸椎X線画像読影のポイント
脳神経外科速報
2019 29 (8) 854-861

井須 豊彦、金 景成

腰椎疾患と鑑別を要する腰殿部疾患

脊椎脊髄ジャーナル

2019 32 (2) 100-104

松本 順太郎、井須 豊彦、金 景成、三木 浩一、

森本 大二郎

中殿皮神経障害

脊椎脊髄ジャーナル

2019 32 (2) 129-134

森本 大二郎、金 景成、井須 豊彦

中殿筋障害の診断と治療

脊椎脊髄ジャーナル

2019 32 (2) 135-139

金 景成、國保 倫子、森本 大二郎、井須 豊彦

末梢神経手術の基本手技

日本脳神経外科卒後研修用ビデオ

2019 #12

井須 豊彦、磯部 正則、金 景成

脊髄末梢神経外科グループの業績集

－釧路労災病院脳神経外科－

2019

井須 豊彦

番茶の味 - 私の好きな言葉、足裏のしびれ、時代お

くれの新しさ、身体に触れる診療を目指して、月光仮

面、仲間たち、テレビ出演 -

釧路新聞

2019.09.01-07 1面コラム

Toyoda K, Uchiyama S, Yamaguchi T, Easton JD,

Kimura K, Hoshino H, Sakai N, Okada Y, Tanaka K,

Origasa H, Naritomi H, Houkin K, Yamaguchi K,

Isobe M, Minematsu K

; CSPS.com Trial Investigators.

Dual antiplatelet therapy using cilostazol for secondary prevention in patients with high-risk ischaemic stroke in Japan: a multicentre, open-label, randomised controlled trial.

Lancet Neurol.

2019 18 (6) 539-548.

伊東 雅基、寶金 清博

指定難病ペディア2019 もやもや病 [指定難病22]

日本医師会雑誌

2019年 第148巻 特別号 (1) S9-11

Takafumi Shindo, Masaki Ito, Juntaro Matsumoto,

Koichi Miki, Fumiaki Fujihara, Shunsuke Terasaka,

Toyohiko Isu, Masanori Isobe

A case of Juvenile Stroke due to Carotid Artery

Dissection from an Elongated Styloid Process -

Revisiting Conservative Management

J Stroke Cerebrovasc Dis.

2019 28 (10) 104307

Kazumata K, Tha KK, Tokairin K, Ito M, Uchino H,

Kawabori M, Sugiyama T

Brain Structure, Connectivity, and Cognitive

Changes Following Revascularization Surgery in

Adult Moyamoya Disease.

Neurosurgery

2019 85 (5) E943-E952

Masaki Ito, Haruto Uchino

Chapter 23 : Detection and quantification of

microRNAs (miRNAs) and high-throughput miRNA profiling

Epigenetics Methods (Book)

in press

伊東 雅基

訪日外国人観光客の急性期虚血性脳血管障害に対する

静注血栓溶解療法

－実臨床におけるアルテプラゼの至適用量

脳卒中

in press

Kazumata K, Tokairin K, Ito M, Uchino H,

Sugiyama T, Kawabori M, Osanai T, Tha KK,

Houkin K

Combined structural and diffusion tensor imaging

detection of ischemic injury in moyamoya disease:

relation to disease advancement and cerebral

hypoperfusion.

J Neurosurg

in press

Uchino H, Kazumata K, Ito M, Nakayama N,
Kuroda S, Houkin K
Crossed cerebellar diaschisis as an indicator of
severe cerebral hyperperfusion after direct bypass
for moyamoya disease.
Neurosurg Rev
in press

Sugiyama T, Nakayama N, Ushikoshi S,
Kazumata K, Okamoto M, Ito M, Osanai T,
Shimoda Y, Uchida K, Shimbo D, Ito Y, Asaoka K,
Nakamura T, Kuroda S, Houkin K
Complication rate, cure rate, and long-term outcomes
of microsurgery for intracranial dural arteriovenous
fistulae: a multicenter series and systematic review.
Neurosurg Rev
in press

Kazumata K, Tokairin K, Sugiyama T, Ito M,
Uchino H, Osanai T, Kawabori M, Nakayama N,
Houkin K
Association of cognitive function with cerebral blood
flow in children with moyamoya disease.
J Neurosurg Pediatr.
in press

耳鼻咽喉科

市川 晴之、金谷 健史、太田 亮、岸部 幹、
片田 彰博、原 保明
マイコプラズマ感染症後に発症したオプソクローム
ス・ミオクロームス症候群例
耳鼻咽喉科臨床
2019年 Vol.112 No.5 289-293

市川 晴之、板東 伸幸、小松田 浩樹、原 保明
ワルチン腫瘍から発生した耳下腺粘表皮癌例
耳鼻咽喉科臨床
2019年 Vol.112 No.12 801-807

看護部

中村 公子
IADによる皮膚トラブルのケア
照林社
褥瘡・創傷・スキンケアWOCナースの知恵袋
2019年 第1版第1刷 46-48

中村 公子
ドレーンのトラブルケア
照林社
褥瘡・創傷・スキンケアWOCナースの知恵袋
2019年 第1版第1刷 92-94

中村 公子
治癒した創傷の痕のケア
照林社
褥瘡・創傷・スキンケアWOCナースの知恵袋
2019年 第1版第1刷 138-139

(2) 学会報告

内科

小田 総一郎、安孫子 怜史、野澤 俊一郎、
桜井 健介、吉河 歩、佐々木 壘、原田 一顕、
佐野 逸紀、小林 良充、小田 寿、宮城島 拓人
ショックを呈した十二指腸憩室出血に対して、プロナ
ーゼ散布を併用し、先端フード付き直視内視鏡で止血
し得た一例

第118回日本消化器内視鏡学会地方会
2019.03.02-03
札幌

野澤 俊一郎、桜井 健介、吉河 歩、佐々木 壘、
安孫子 怜史、原田 一顕、佐野 逸紀、小林 良充、
小田 寿、宮城島 拓人

当院における胃癌に対するニボルマブ (Niv) 投与の
経験 - 当院のチーム医療体制を含めて～
第124回日本消化器病学会地方会
2019.03.02-03
札幌

佐々木 壘、野澤 俊一郎、桜井 健介、吉河 歩、
安孫子 怜史、原田 一顕、佐野 逸紀、小林 良充、
小田 寿、宮城島 拓人

胃および回腸の同時・重複性GISTの一例
第124回日本消化器病学会地方会
2019.03.02-03
札幌

江端 浩、須藤 啓斗、小笠原 由佳、根本 珠恵、
宮城島 拓人、押味 和夫
当施設での末梢血幹細胞採取時のPoor mobilizer 症例
の後方視的検討

第41回日本造血幹細胞移植学会学術集会
2019.03.07-09
大阪

菅原 悠太郎、須藤 啓斗、江端 浩、押味 和夫、
宮城島 拓人
房室結節への腫瘍浸潤により致死性不整脈を来したび
まん性大細胞型B細胞性リンパ腫の1剖検例
第54回日本血液学会春季北海道地方会
2019.04.13
札幌

吉田 匠汰

心臓を中心に節外性病変を認め化学療法中に致死性不
整脈を呈したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例
第54回日本血液学会春季北海道地方会
2019.04.13

札幌

安孫子 怜史、野澤 俊一郎、桜井 健介、吉河 歩、
須藤 啓斗、佐々木 壘、原田 一顕、江端 浩、
佐野 逸紀、小林 良充、小田 寿、宮城島 拓人
簡便で安価であるが効果的と考える、接着剤を用いな
いループライン付きクリップによる大腸 ESD 後潰瘍
に対しての縫縮法

第97回日本消化器内視鏡学会
2019.05.31-06.01
東京

原田 一顕

A retrospective multicenter study evaluating the
efficacy and safety of irinotecan in patients with
advanced gastric cancer: Analysis of Glasgow
prognostic score (GPS)

ESMO 21st World Congress on Gastrointestinal
cancer
2019.07.03-06
Barcelona

須藤 啓斗、安孫子 怜史、江端 浩、押味 和夫、
小田 寿、宮城島 拓人
クローン病の経過中に敗血症を契機に発症した再生不
良貧血 (優秀演題)

第286回内科学会地方会
2019.07.06
札幌

佐野 逸紀、野澤 俊一郎、桜井 健介、原田 一顕、
安孫子 怜史、小林 良充、小田 寿、宮城島 拓人
集学的治療により5年生存が得られた膵癌の一例

第50回膵臓学会総会
2019.07.12-13
東京

原田 一顕、吉河 歩、江端 浩、安孫子 怜史、
佐野 逸紀、小田 寿、小林 良充、宮城島 拓人
Association of serum levels of KL-6 with the
development of anti-PD-1-related pneumonitis in
patients with solid tumors
第17回日本臨床腫瘍学会学術集会
2019.07.18-20
京都

吉河 歩、原田 一顕、江端 浩、安孫子 怜史、
佐野 逸紀、小田 寿、小林 良充、宮城島 拓人
Retrospective study of TAS-102 plus Bevacizumab v
TAS-102 in patients with mCRC refractory to
standard chemotherapy
第17回日本臨床腫瘍学会学術集会
2019.07.18-20
京都

小林 良充、吉河 歩、原田 一顕、江端 浩、
安孫子 怜史、佐野 逸紀、小田 寿、宮城島 拓人
Retrospective study of TAS-102 plus Bevasizumab
vs Regorafenib in patients with mCRC refractory to
standard chemotherapy
第17回日本臨床腫瘍学会学術集会
2019.07.18-20
京都

安孫子 怜史、川岸 直樹、佐野 逸紀、小田 寿、
宮城島 拓人
Endoscopic string clip suturing methodのpitfall シ
ンポジウム
第125回日本消化器病学会地方会、第119回日本消化器
内視鏡学会地方会
2019.09.07 - 08
札幌

吉田 苑永、川岸 直樹、小田 総一郎、志藤 茜、
目野 晃光、吉河 歩、安孫子 怜史、原田 一顕、
佐野 逸紀、小田 寿、須田 剛正、小川 浩司、
吉野 裕紀、阿保 大介、宮城島 拓人、坂本 直哉
Budd-Chiari 症候群に対してPercutaneous
transluminal angioplasty が奏功した一例
第125回日本消化器病学会地方会、第119回日本消化器
内視鏡学会地方会
2019.09.07-08
札幌

小田 総一郎、安孫子 玲史、志藤 茜、目野 晃光、
吉田 苑永、吉河 歩、原田 一顕、佐野 逸紀、
川岸 直樹、小田 寿、宮城島 拓人
健常成人に発症し特徴的は内視鏡像から診断にいたっ
たヘルペス食道炎の一例
第125回日本消化器病学会地方会、第119回日本消化器
内視鏡学会地方会
2019.09.07-08
札幌

目野 晃光、佐野 逸紀、小田 総一郎、志藤 茜、
吉田 苑永、吉河 歩、安孫子玲史、原田 一顕、
川岸 直樹、小田 寿、宮城 島拓人、石川 隆尋、
小笠原 和宏
EBV関連胃癌と後腹膜脂肪肉腫の合併例
第125回日本消化器病学会地方会、第119回日本消化器
内視鏡学会地方会
2019.09.07-08
札幌

Satoshi Abiko, Akimitsu Meno, Akane Shidou,
Soichiro Oda, Sonoe Yoshida, Ayumu Yoshikawa,
Kazuaki Harada, Naoki Kawaiishi, Itsuki Sano,
Hisashi Oda and Takuto Miyagishima
New ligation technique using a loop clip without
adhesive for ulceration following endoscopic
submucosal dissection of the colon.
World Congress of Gastroenterology 2019
2019.09.21-24
Turkey

吉田 匠汰、江端 浩、原田 一顕、川岸 直樹、
谷野 美智枝、武井 英博、押味 和夫、宮城島 拓人
自己免疫性肝炎に対して長期間アザチオプリンを使用
後発症したびまん性大細胞性B細胞リンパ腫
第61回日本血液学会秋季北海道地方会
2019.09.28
札幌

佐野 逸紀、野澤 俊一郎、桜井 健介、吉河 歩、
佐々木 壘、安孫子 怜史、原田 一顕、小林 良充、
小田 寿、宮城島 拓人
当院EUS-FNAにおけるFranseen形状針と従来針の
比較検討
JDDW2019
2019.11.21-24
神戸

川岸 直樹、須田 剛生、中井 正人、荘 拓也、
森川 賢一、小川 浩司、坂本 直哉
C型肝炎患者の血清Angiopoietin-2はDAA s 治療後
の肝線維化非改善例を予測する
JDDW2019
2019.11.21-24
神戸

Satoshi Abiko, Yuichi Shimizu, Naoya Sakamoto
Risk assessment of metachronous SCC after
endoscopic resection for esophageal carcinoma based
on the genetic polymorphisms of ADH 1 B and
ALDH 2
International Session (Symposium)
JDDW2019
2019.11.21-24
神戸

Itsuki Sano, Satoshi Abiko, Akimitsu Meno,
Akane Shido, Soichiro Oda, Sonoe Yoshida,
Ayumu Yoshikawa, Kazuaki Harada,
Naoki Kawagishi, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima
Self-expandable Metallic Stenting for Malignant
Colorectal Obstruction as a bridge to surgery: a
single center experience.
APDW2019
2019.12.12-15
India

神経内科

佐藤 翔紀、津坂 和文、米坂 祥朗
放射線治療が必要となった特発性外眼筋炎の1例
第104回 日本神経学会北海道地方会
2019.03.02
札幌市

佐藤 翔紀、伊藤 雅基、井須 豊彦、山崎 和義、
伊師 雪友、高宮 宗一郎、館澤 亮大、澤谷 亮佑、
関 俊隆、津坂 和文
脊髄炎との鑑別に苦慮し、脊髄生検により診断に至っ
たびまん性正中グリオーマの1例
第105回 日本神経学会北海道地方会
2019.09.14
札幌市

外科

坂本 沙織、笠原 里紗、小林 展大、石川 隆壽、
河合 朋昭、小林 清二、小笠原和宏
当科における高齢者大腸癌手術の現状
平成30年度全国労災病院外科研究会
2019.01.11
川崎市

Yui Ishiguro, Hideyasu Kashihara,
Futoshi Kawamata, Tadashi Yoshida,
Nobuki Ichikawa, Susumu Shibasaki,
Shigenori Homma, Hideki Kawamura,
Akinobu Taketomi
Prognostic significance of circulating tumor cells in
patients with gastric cancer: epidermal mesenchymal
transition and perioperative kinetics
ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium 2019
2019.01.17
San Francisco

小笠原 和宏、笠原 里紗、河合 朋昭、小林 清二
乳がん切除症例における肥満度(BMI)からみた術後
創関連合併症の検討
第27回日本乳癌学会学術総会
2019.07.13
東京都

村田 竜平、山本 葉一、海老沼 翔太、石黒 友唯、
石川 隆壽、小林 清二、小笠原 和宏
当院における直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の検
討
第116回日本臨床外科学会北海道支部例会
2019.09.22
札幌市

海老沼 翔太、小笠原 和宏、村田 竜平、
石黒 友唯、石川 隆壽、小林 清二、高橋 弘昌
乳腺脂肪肉腫の1例
第17回日本乳癌学会北海道地方会
2019.10.19
札幌市

石黒 友唯、海老沼 翔太、村田 竜平、石川 隆壽、
小林 清二、小笠原 和宏
脳室腹腔内シヤントに対して腹腔鏡下ヘルニア修復術
(TAPP)を施行した1例
第32回日本内視鏡外科学会総会
2019.12.07
横浜市

整形外科

村中 祐介、河村 太介、松井 雄一郎、門間 太輔、
瓜田 淳、濱野 博基、本谷 和俊、岩崎 倫政
近位手根列切除の中期成績
第136回北海道整形災害外科学会
2019.01.26
札幌市

村中 祐介、河村 太介、松井 雄一郎、門間 太輔、
瓜田 淳、濱野 博基、本谷 和俊、岩崎 倫政
近位手根列切除の中期成績
第62回日本手外科学会学術集会
2019.04.19
札幌市

北原 圭太、高橋 大介、下段 俊、浅野 毅、
清水 智弘、岩崎 倫政
当科における完全脱臼発育性股関節形成不全に対する
overhead traction法の治療成績
第92回日本整形外科学術集会
2019.05.23
横浜市

横田 隼一、小野寺 智洋、岩崎 浩司、上徳 善太、
馬場 力哉、近藤 英司、岩崎 倫政
ウイルス感染症を有する血友病性膝関節症に対する人
工膝関節置換術の臨床
第92回日本整形外科学会学術集会
2019.05.23
横浜市

藤田 勝久、藪内 康史、加藤 琢磨、放生 憲博、
近藤 英司、岩崎 倫政
膝蓋骨軟骨損傷を伴う外傷性膝蓋脱臼に対して内側
膝蓋大腿靭帯再建術および骨軟骨接合術を行った1例
第45回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会
2019.08.30
大阪市

横田 隼一
鏡視下腱板修復術後に真菌性肩関節炎をきたした1例
第47回日本関節病学会
2019.11.21
福岡市

北原 圭太、下段 俊、高橋 大介、浅野 毅、
清水 智弘、高橋 要、梅本 貴央、岩崎 倫政
股関節後方脱臼を併発したY軟骨離開による寛骨臼骨
折の一例
第30回日本小児外科学会学術集会
2019.11.21
大阪市

脳神経外科

伊東 雅基、数又 研、内野 晴登、
東海林 菊太郎、浜内 祝嗣、寺坂 俊介、
佐々木 秀直、佐藤 典弘、宝金 清博
もやもや病生体試料バンク構築とエピゲノム血液バイ
オマーカー探索
Stroke 2019 (日本脳卒中学会シンポジウム)
2019.03.22
神奈川県横浜市

伊東 雅基、進藤 崇史、河野 洋之、
三木 浩一、井須 豊彦、宝金 清博、
磯部 正則
DOAC時代のTrousseau症候群による脳梗塞再発予防
-免疫チェックポイント阻害薬適用対象拡大後の現状
と課題
Stroke 2019 (日本脳卒中学会一般口演)
2019.03.23
神奈川県横浜市

伊東 雅基、数又 研、東海林 菊太郎、杉山 拓、
川堀 真人、中山 若樹、宝金 清博
もやもや病の脳構造機能解析-慢性虚血によるmicro
ischemic injuryの描出
Stroke 2019 (日本脳卒中学会シンポジウム)
2019.03.23
神奈川県横浜市

河野 洋之、伊東 雅基、進藤 崇史、小林 聡、
三木 浩一、松本 順太郎、井須 豊彦、磯部 正則
硬膜下血腫を伴う非外傷性脳葉型脳内出血の臨床像
第82回 日本脳神経外科学会北海道支部会
2019.03.30
札幌市

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、
岩本 直高、森田 明夫
口蓋原発多形腺腫による転移性脊椎腫瘍の1例
第138回日本脳神経外科学会関東支部会
2019.04.20
東京都

Masaki Ito, Markus Aswendt, Alex G. Lee,
Shunsuke Ishizaka, Sabrina Levy, Daniel Smerin,
Eric H. Wang, Michelle Y. Cheng, Gary K. Steinberg
RNA Sequencing Analysis Revealed a Distinct
Motor Cortex Transcriptome in Spontaneously-
recovered Mice After Stroke
The 14th Korea-Japan Joint Conference on Surgery
for Cerebral Stroke
2019.04.27
Sapporo

Takafumi Shindo, Masaki Ito, Satoshi Kobayashi,
Jyuntarou Matsumoto, Kouichi Miki,
Fumiaki Fujihara, Syunsuke Terasaka, Toyohiko Isu,
Masanori Isobe
Syndromic Traumatic Internal Carotid Artery
Dissection due to Elongated Styloid Process -A case
of Rare Clinical Manifestation of Eagle Syndrome
The 14th Korea-Japan Joint Conference on Surgery
for Cerebral Stroke
2019.04.27
Sapporo

金 景成、井須 豊彦、松本 順太郎、三木 浩一、
森本 大二郎、國保 倫子、岩本 直高、磯部 正則、
森田 明夫
臀部痛に対する中殿筋除圧術の中期成績
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-21
札幌市

菅原 淳、石垣 大哉、藤原 俊朗、井須 豊彦、
小笠原 邦昭
腰部脊柱管狭窄症に対する術後の歩行改善：歩行分析計
を用いた客観的評価
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-21
札幌市

藤原 史明、井須 豊彦、金 景成、三木 浩一、
松本 順太郎、伊東 雅基、磯部 正則、井上 亨
ICGが有用であった足根管症候群の手術例 -vascular
decompression法-
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-21
札幌市

松本 順太郎、井須 豊彦、金 景成、三木 浩一、
藤原 史明、磯部 正則、井上 亨
腰椎変性疾患に対する腰椎後方除圧術単独の手術成績
-限界点と問題点-
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-21
札幌市

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、岩本 直高、
森本 大二郎、三木 浩一、森田 明夫
中殿皮神経障害に対する高周波熱凝固療法
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-21
札幌市

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、岩本 直高、
森本 大二郎、森田 明夫
絞扼性末梢神経障害と腰椎周辺疾患が患者QOLへ及ぼ
す影響に関する研究
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-21
札幌市

岩本 直高、井須 豊彦、金 景成、森本 大二郎、
國保 倫子、大石 知端子、園生 雅弘、松野 彰
ガングリオンにより足根管症候群を来した症例
第34回日本脊髄外科学会
2019.06.20-22
札幌市

伊東 雅基、坂本 王哉、菅野 彩、内藤 正一郎、
鮫島 陸生、河野 洋平、藤原 史明、井須 豊彦、
今泉 俊雄、磯部 正則

超急性期虚血性脳卒中と急性冠症候群を同時発症した一例

北海道脳卒中研究会

2019.07.27

札幌市

河野 洋之、伊東 雅基、坂本 王哉、藤原 史明、
井須 豊彦、磯部 正則

両側大脳皮質梗塞で発症した海綿静脈洞部異所性内頸
動脈間吻合の一例

北海道脳卒中研究会

2019.07.27

札幌市

伊東 雅基、坂本 王哉、菅野 彩、内藤 正一郎、
鮫島 陸生、河野 洋平、藤原 史明、井須 豊彦、
今泉 俊雄、磯部 正則

超急性期虚血性脳卒中と急性冠症候群を同時発症した一例

Mt. Fuji on CVD

2019.08.31

横浜市

藤原 史明、井須 豊彦、金 景成、坂本 王哉、
三木 浩一、松本 順太郎、伊東 雅基、磯部 正則、
井上 亨

当院における中殿皮神経障害の臨床

第27回日本腰痛学会

2019.09.13-14

兵庫県

坂本 王哉、井須 豊彦、金 景成、藤原 史明、
松本 順太郎、三木 浩一、伊東 雅基、磯部 正則、
東 登志夫

難治性のFailed Back Surgery Syndromeに対する腰
椎周辺疾患の治療効果の検討

第27回日本腰痛学会

2019.09.13-14

兵庫県

Kim K, Isu T, Morimoto D, Kokubo R, Morita A.
Gluteus medius muscle decompression for buttock
pain.

The 10th Annual meeting of Asia Spine 2019

2019.09.19-21

Seoul

Kokubo R, Kim K, Isu T, Iawamoto N, Morimoto D,
Miki K, Morita A.

Radiofrequency thermocoagulation for entrapment
neuropathy of middle cluneal nerve.

The 10th Annual meeting of Asia Spine 2019

2019.09.19-21

Seoul

河野 洋之、伊東 雅基、坂本 王哉、藤原 史明、
井須 豊彦、磯部 正則

両側大脳皮質梗塞で発症した海綿静脈洞部異所性内頸
動脈間吻合の一例

第83回 日本脳神経外科学会北海道支部会

2019.09.28

札幌市

金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、國保 倫子、
岩本 直高、森田 明夫

Neurospine surgeonとしての腰下肢痛診療－末梢神
経疾患はだれが診るのか

第78回日本脳神経外科学会学術総会

2019.10.09-12

大阪市

坂本 王哉、井須 豊彦、金 景成、藤原 史明、
松本 順太郎、三木 浩一、伊東 雅基、磯部 正則、
東 登志夫

腰椎椎間板ヘルニアに併発した腰椎周辺疾患に対する
治療効果の検討

第78回日本脳神経外科学会学術総会

2019.10.09-12

大阪市

岩本 直高、金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、
國保 倫子、松野 彰

ガングリオンが原因となった足根管症候群の1例

第78回日本脳神経外科学会学術総会

2019.10.09-12

大阪市

藤原 史明、井須 豊彦、金 景成、坂本 王哉、
三木 浩一、松本 順太郎、伊東 雅基、磯部 正則、
井上 亨
当院における中殿皮神経障害の臨床
第78回日本脳神経外科学会学術総会
2019.10.09-12
大阪市

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、岩本 直高、
森本 大二郎、三木 浩一、森田 明夫
中殿皮神経障害に対する高周波熱凝固療法
第78回日本脳神経外科学会学術総会
2019.10.09-12
大阪市

伊東 雅基、数又 研、東海林 菊太郎、岩田 育子、
畑中 佳奈子、佐藤 典宏、中山 若樹、杉山 拓、
川堀 真人、長内 俊也、矢部 一郎、佐々木 秀直、
寶金 清博
もやもや病のエピゲノム血液バイオマーカー探索と希
少疾患レジストリ構築
脳外科総会シンポジウム
2019.10.10
大阪市

金 景成、國保 倫子、森本 大二郎、岩本 直高、
井須 豊彦
頸椎後方スクリュー挿入において椎体後縁線は椎骨動
脈損傷回避に有用なのか
第53回日本脊髄障害医学会
2019.10.31-11.01
秋田

國保 倫子、金 景成、井須 豊彦、岩本 直高、
森本 大二郎
中殿皮神経障害に対する高周波熱凝固療法
第53回日本脊髄障害医学会
2019.10.31-11.01
秋田

岩本 直高、金 景成、井須 豊彦、森本 大二郎、
國保 倫子、松野 彰、森田 明夫
ガングリオンにより内側足底神経のみを絞扼された足
根管症候群の1例
第140回日本脳神経外科学会関東支部会
2019.12.07
東京都

泌尿器科

Masaya Miyazaki, Akihiko Mitsuke, Haruka Higuchi,
Nobuyuki Fukuzawa, Hiroshi Tanaka, Tetsuo Hirano,
Toshimori Seki, Hiroshi Harada
Is pre-transplant plasmapheresis for patients with
insignificant ABO blood type antibody in ABO blood
type incompatible kidney transplant necessary?
2019 American Transplant Congress
2019.06.01-05
Boston, US

歯科口腔外科

小川 仁、嶋崎 康相、角 伸博、藤盛 真樹
病診連携、医科歯科連携で解決した口腔粘膜炎の1例
第27回釧路歯科医師会学術大会
2019.02.23
釧路市

角 伸博、小川 仁、嶋崎 康相、藤盛 真樹
骨定量解析ソフトGI-BONEを診断および治療評価に
用いたARONJの1例
第28回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会
2019.03.02
千葉市

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
釧路・根室三次医療圏における「NRホスピタル構想」
とは
北海道病院歯科医会 第2回例会
2019.09.07
旭川市

藤盛 真樹、角 伸博、北川 健、藤井 ふみ
釧路・根室三次医療圏における「NRホスピタル構想」
第64回日本口腔外科学会総会・学術大会
2019.10.26
札幌市

中央リハビリテーション部

田口 暢秀、田川 雅敏
港湾運輸会社における職業性疼痛のアンケート調査と
それに基づく取り組み方法の検討
日本職業災害医学会全国学会
2019.11.09
東京都

放射線部

河野 文一

携帯端末を利用する事で、電話連絡を使用せずに検査を行う予定の入院患者を呼び出しするシステムの検討
第23回日本医療情報学会

春季学術大会（2019.6.6-8）

2019.06.07

熊本市

吾妻 堯、小畷 さつき、中田 沙織

A病院手術室の術中急変対応への取り組み
～初期対応統一化を目指して～

第33回日本手術看護学会

2019.10.11

岡山市

薬剤部

向井 聡志

4年目薬剤師の病棟業務、研究活動奮闘記
釧路病院薬剤師会会員発表会

2019.02.22

釧路市

小野 紫穂

乳がん患者の両立支援に関する看護師の役割
日本乳癌学会北海道地方会

2019.10.19

札幌市

小島 佑太、多田 萌葉美、松田 俊之、門脇 郁美
オキシドロン徐放錠とタペンタドール塩酸塩徐放錠の
併用により疼痛が改善した1例

日本緩和医療薬学会年会

2019.06.01

千葉市

高橋 道生、重共 孝一、大森 健太郎、
田名部 真紀子、駄馬 さおり、畑中 奈津江、
宮城島 拓人
東北海道の中核拠点病院の現状と生活習慣についての
アンケート調査

第33回日本エイズ学会学術集会

2019.11.27

熊本市

看護部

門脇 郁美

釧路労災病院における緩和ケア外来対応
NPO法人日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部
第17回年次大会

2019.05.26

札幌市

門脇 郁美、小笠原 和宏
院内型がんサロン参加者の声
第24回日本緩和医療学会学術大会

2019.06.21

横浜市

写真で見る “ろうさいの一年”

平成31年度・令和元年度 病院行事

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 4月1日 平成31年度辞令交付式
職員オリエンテーション | 9月1日 緩和ケア研修会 |
| 5月12日～17日 看護の日・看護週間 | 9月14日 HIV抗体検査会 |
| 6月15日 エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会 | 10月7日 ピンクリボン啓発活動 |
| 7月1日 健康と福祉の事業創設記念日
永年勤続者表彰式 | 10月27日 乳がん検診マンモグラフィサンデー |
| 7月21日 高校生のための医療福祉体験セミナー | 11月9日 緩和ケア市民公開講座 |
| 8月2日 院外清掃 | 12月8日 師走講演会 |
| 8月19日 くしろ市民北海盆踊り | 12月18日 クリスマスロビーコンサート |
| | 1月6日 新年交礼会 |
| | 2月4日 ろうさいカフェ |



辞令交付式



職員オリエンテーション



看護の日・看護週間



高校生医療福祉体験セミナー

七夕飾り



院外清掃



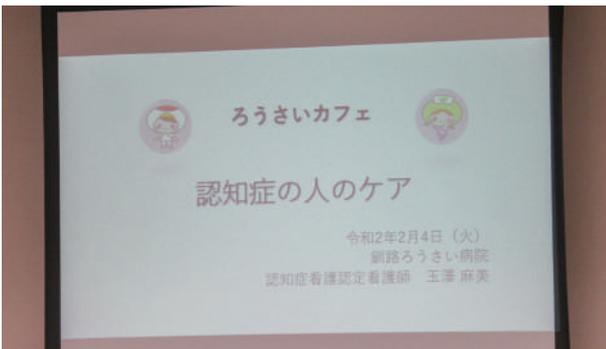
HIV検査会



北海盆踊り



クリスマスロビーコンサート



ろうさいカフェ

編集後記

2020年11月吉日

平素より当院の事業運営にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度「やちぼうず2019年年報」第24号が完成いたしました。編集に際してご多忙の中、関係各所のご協力のもと発行することが出来ましたことに、感謝申し上げます。

2019年は4月1日に新元号が発表され、4月30日天皇陛下が退位、5月1日皇太子さまが即位・改元されることとなり、およそ30年間親しまれてきた「平成」から「令和」となる大きな出来事がありました。

病院誌「やちぼうず」は当院の1年間の診療実績を中心に、各診療科、各部、各種委員会の活動状況に経営統計を加え、当院の活動のすべてが凝縮されておりますので、ご一読いただき理解を深めるツールとしてご活用いただければ幸いです。

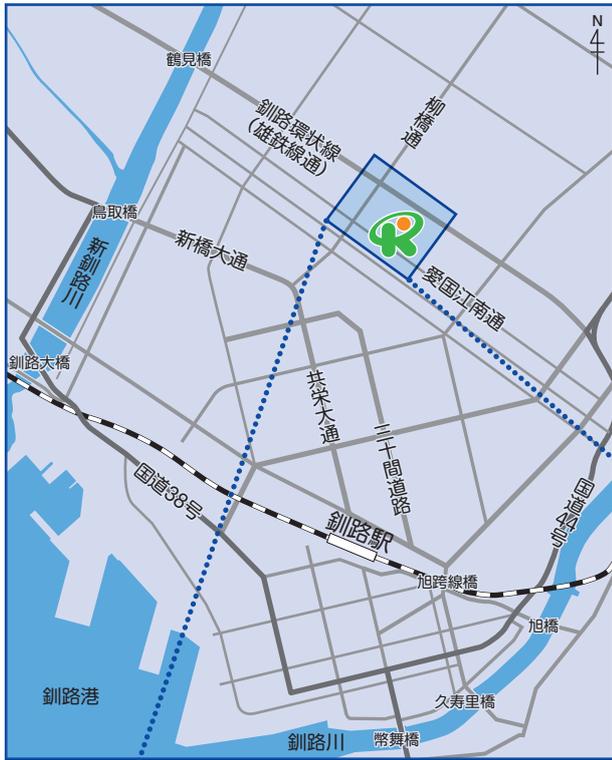
2020年1月で当院は60周年を迎えました。より一層、地域に根差した病院を目指し、良質な医療を提供していけるよう、次の10年を職員一丸となって努力を重ねて参りたいと思いますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

病院誌「やちぼうず」編集委員会

委員長 磯部 正則

病院誌「やちぼうず」編集委員

磯部 正則
西井 淳
澤田 憲太郎
石川 隆壽
佐々木 育緒
日高 佳与
及川 修一
谷 凌汰
本間 正志



独立行政法人 労働者健康安全機構
釧路労災病院

〒085-8533
 北海道釧路市中園町13番23号
 電話 (0154)22-7191(代表)
 F A X (0154)25-7308
<https://www.kushiroh.johas.go.jp>

交通アクセス

- JRで来院される場合
 釧路駅より車で15分
- バスで来院される場合
 - くしろバス
 南北線、労災病院正面玄関横下車
 - 阿寒バス
 新橋大通大曲バス停にて下車
 (徒歩10分)
- 飛行機で来院される場合
 たんちょう釧路空港から
 連絡バスにて30分
 新橋大通大曲バス停下車
 (徒歩10分)



最新の知識と技術に基づき、
良質で信頼される医療を実践します。

